

Enterprise Vault™ レポート

12.3

Enterprise Vault™: Reporting

最終更新日: 2018-02-08。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、Veritas がオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の Web サイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

テクニカルサポートに連絡する前に、Veritas Quick Assist (VQA) ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は Veritas サポート Web サイトの次の記事からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/vqa

マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは Veritas の Web サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095

マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

evdocs@veritas.com

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

目次

第 1 章	本書について	8
	このマニュアルの概要	8
	Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先	8
	Enterprise Vault トレーニングモジュール	11
第 2 章	Enterprise Vault Reporting の概要	12
	Enterprise Vault Reporting について	12
	Enterprise Vault Reporting のレポートについて	12
	Enterprise Vault Reporting の動作	14
	FSA Reporting の動作	15
	Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting のプロキシサ ーについて	18
	FSA Reporting プロキシサーバーの必要条件	21
	FSA Reporting データベースについて	23
第 3 章	Enterprise Vault Reporting の実装の概要	26
	Enterprise Vault Reporting の実装	26
第 4 章	Enterprise Vault Reporting のインストール	28
	Enterprise Vault Reporting をインストールする場所と時期	28
	Enterprise Vault Reporting の前提条件	28
	監視または監査の有効化が必要な Enterprise Vault のレポート	29
	Enterprise Vault Reporting のインストールの準備	30
	Enterprise Vault Reporting コンポーネントのインストール	31
第 5 章	Enterprise Vault Reporting の設定	32
	Enterprise Vault Reporting の設定について	32
	Enterprise Vault Reporting の設定	33
	Enterprise Vault Reporting の設定が正しく行われたことの確認	34
	Enterprise Vault の RBA ロールメンバーシップの同期を有効にする	35
	Enterprise Vault Reporting のデータアクセス設定の再設定	36

第 6 章	FSA Reporting の設定	37
	FSA Reporting の設定	37
	FSA Reporting 用プロキシサーバーの準備	39
	FSA Reportingプロキシサーバーと連携して動作するために Celerra/VNX デバイスを準備する	40
	FSA Reporting のデータコレクションが有効なアーカイブ対象としてのファイルサーバーの追加	40
	既存の対象ファイルサーバーでの FSA レポートのデータコレクションの有効化	43
	ファイルサーバーの対象ボリュームに対する FSA レポートのデータコレクションの有効化または無効化	45
	FSA レポートのデータコレクションのデフォルト設定	46
	FSA Reporting の一時ファイルの格納場所の設定	46
	Dell EMC Celerra/VNX デバイスのプレースホルダの検証	48
	FSA レポートスキャンに NetApp filer のスナップショットフォルダを含める	49
	FSA レポートの設定が正しく行われたことの確認	50
第 7 章	レポートへのアクセス	52
	Enterprise Vault Reporting のレポートへのアクセス	52
	Enterprise Vault Reporting のレポートにアクセスできる管理者役割	53
	Enterprise Vault Reporting の処理レポートにアクセスできる管理者 ロール	53
	FSA レポートのレポートにアクセスできる管理者役割	56
	SQL Server Reporting Services のレポートマネージャからの Enterprise Vault Reporting のレポートへのアクセス	56
	SQL Server Reporting Services のレポートマネージャからの Enterprise Vault Reporting レポートについて	58
	SQL Server Reporting Services のレポートマネージャでの Enterprise Vault Reporting のレポートのスケジュール設定について	58
	管理コンソールからの Enterprise Vault Reporting のレポートへのアクセス	58
第 8 章	FSA Reporting の管理	61
	FSA Reporting の管理	61
	FSA レポートの状態の表示	63
	ファイルサーバーでのスケジュール設定されていない FSA レポートスキャンの実行	66
	FSA レポートスキャンの停止	67
	すべての FSA レポートデータコレクションの無効化	68
	デフォルトの FSA レポートのデータコレクションスケジュールの変更	68

ファイルサーバーの FSA レポート用データベースの変更	69
FSA Reporting 用データベースの保守	70
FSA レポート用データベースの履歴テーブルの調整	70
FSA レポート用データベースがパージジョブ保守モードになっている かどうかの判断	73
FSA レポート用データベースのパージジョブスケジュールの変更	73
FSA レポート用データベースのパージジョブの手動での実行	74
Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting 用プロキシサーバー の変更	74
FSA Reporting のデータコレクションパラメータの修正	75
FSA レポートのレポートにある特定のファイルの種類のデータの取得	78
FSA エージェントのアップグレード	79

第 9 章

Enterprise Vault Reporting のトラブルシューティン グ	82
---------------------------------------------------	----

Enterprise Vault Reporting のトラブルシューティングについて	82
---------------------------------------------------	----

付録 A

レポートの概要	83
---------------	----

Enterprise Vault Reporting の処理レポート	83
[アーカイブクォータの使用状況]レポート	87
[アーカイブ済みアイテムのアクセス]レポート	88
[アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向]レポート	89
コンテンツプロバイダは履歴レポートを摄取します	92
ライセンスを付与しているコンテンツプロバイダおよび使用の概略レ ポート	94
[Domino メールボックスのアーカイブ状態]レポート	96
[Domino サーバージャーナルメールボックスアーカイブの健全性]レ ポート	98
[Domino サーバージャーナルメールボックスアーカイブの傾向]レ ポート	99
[Enterprise Vault サーバーの 24 時間の健全性の状態]レポート	100
[Enterprise Vault サーバーの 7 日間の健全性の状態]レポート	101
[Exchange メールボックスのアーカイブ状態]レポート	102
[Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブの健全性]レ ポート	103
[Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブの傾向]レ ポート	104
IMAP 使用状況レポート	105
[アイテムのアーカイブ率]レポート	106
[アーカイブの移動]レポート	108

[ファイルの種類ごとの単一インスタンスストレージ削減]レポート	109
[ボルトストアグループごとの単一インスタンスストレージ削減]レポート	111
[単一インスタンスストレージ削減の概略]レポート	113
SMTP プロビジョニングレポート	115
[ボルトストアの保存セット]レポート	115
[アーカイブごとのボルトストアの使用状況]レポート	116
[課金用アカウントごとのボルトストアの使用状況]レポート	118
[ボルトストアの使用状況の概略]レポート	119
FSA Reporting のデータ分析レポート	121
[アーカイブポイントの領域使用量の概略]レポート	124
[サーバー上のドライブ領域使用量]レポート	126
[ドライブの領域使用量の概略]レポート	127
[サーバー上の重複ファイル]レポート	128
[重複ファイルの概略]レポート	130
[サーバー上のファイルグループの領域使用量]レポート	131
[ファイルグループの領域使用量の概略]レポート	134
[サーバー上のファイルグループごとの非アクティブなファイル]レポー ト	136
[サーバー上のユーザーごとの非アクティブなファイル]レポート	137
[非アクティブなファイルの概略]レポート	138
[ストレージの概略]レポート	140
[ストレージの傾向]レポート	141
[アーカイブポイント上のファイルの領域使用量]レポート	143
[ボリュームごとの最もサイズの大きいファイル]レポート	145
[ボリューム内の特定のファイルの種類で最もサイズが大きいファイル] レポート	145
[ボリュームごとの上位重複ファイル]レポート	146

本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [このマニュアルの概要](#)
- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

このマニュアルの概要

このマニュアルでは、Enterprise Vault Reporting を実装する方法について説明します。Enterprise Vault Reporting を設定または管理する管理者を対象としています。FSA レポートを使うかどうかは問いません。また、レポートにアクセスして読み取る方法についても説明します。

Enterprise Vault Reporting を設定するには、Microsoft SQL Server Reporting Services に関する実用的な知識が必要です。

Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

[表 1-1](#) に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-1 Enterprise Vault マニュアルセット

マニュアル	コメント
Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ	<p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。 ■ 管理コンソールの[ヘルプ]メニューで[Enterprise Vault のヘルプ]をクリックします。
導入および計画	Enterprise Vault の機能の概要を説明します。
Deployment Scanner	Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。
インストールおよび設定	Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。
アップグレードの手順	既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。
Domino サーバーアーカイブの設定	Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Exchange Server アーカイブの設定	Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定	ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。
IMAP の設定	Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。
SharePoint Server アーカイブの設定	Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。
Skype for Business のアーカイブの設定	Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。
SMTP アーカイブの設定	他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。

マニュアル	コメント
Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類	Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。
Veritas Information Classifier を使用した分類	Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。
管理者ガイド	日常的な管理を実行する方法を説明します。
PowerShell コマンドレット	Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。
監査	Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。
バックアップと回復	システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。
レポート	Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。
NSF 移行	Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。
PST 移行	Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
ユーティリティ	Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。
レジストリ値	レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。
管理コンソールのヘルプ	Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。
Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ	Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

Enterprise Vault Reporting の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault Reporting](#) について
- [Enterprise Vault Reporting](#) のレポートについて
- [Enterprise Vault Reporting](#) の動作
- [FSA Reporting](#) の動作

Enterprise Vault Reporting について

Enterprise Vault Reporting は個別にインストールできる **Enterprise Vault** コンポーネントで、管理者用のエンタープライズレベルのレポートを可能にします。このレポートには、**Enterprise Vault** サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態の他に、コンテンツプロバイダのライセンス使用状況と取り込み履歴が表示されます。

管理者は、**Microsoft SQL Server Reporting Services** のレポートマネージャ **Web** アプリケーションを使って、または **Enterprise Vault** 管理コンソールからレポートにアクセスできます。

FSA レポートは、**Enterprise Vault Reporting** の一部として個別に設定できます。ファイルシステムアーカイブ (FSA) を使う場合は、FSA レポートを設定することで、対象ファイルサーバーとそのボリュームに関するレポートを表示できます。

Enterprise Vault Reporting のレポートについて

Enterprise Vault Reporting では、最大 2 つのレポートセットを使うことができます。

- 処理レポートには、次のトピックに関する情報が含まれます。

- Exchange と Domino メールボックスのアーカイブ状態、健全性、傾向。
- ボルトストアあたりのアーカイブされるアイテムのボリューム。
- Enterprise Vault アーカイブの状態。
- ユーザーあたりのアーカイブクォータの使用状況。
- アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向。
- SMTP プロビジョニンググループ。
- アーカイブまたは課金用アカウント別のボルトストアの使用状況。
- Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによるストレージ削減。
- 保存セットと収集の数。
- コンテンツプロバイダに付与されたライセンスの使用容量と取込履歴。
- データ分析レポートは、FSA レポートを設定した場合にのみ利用できます。データ分析レポートには、次のトピックに関する情報が含まれます。
 - 対象ファイルサーバーのアーカイブ済みファイル数と、使用済み領域とアーカイブの結果として確保された領域。
 - アーカイブされたアクティブな領域の使用状況 (ファイルグループごと、ファイルサーバーごと、アーカイブポイントごと)。
 - アクセスされていないファイルまたは重複するファイル数と、それらのファイルが占めている領域。
 - 各ファイルサーバーのドライブの使用済み領域と空き領域。
 - ファイルサーバーの FSA アーカイブ対象のストレージ増加傾向。レポートにはファイルサーバーとボルトストアの傾向が表示されます。

レポートを実行するとき、レポートの入力パラメータを使ってその内容をカスタマイズできます。たとえば、多くのデータ分析レポートでは、FSA レポート用に設定されているすべてのファイルサーバーについての全体表示、または指定したファイルサーバーについての詳細表示のいずれかが提供されます。

XML、カンマ区切り値 (CSV)、TIFF、Acrobat (PDF)、HTML、Web アーカイブ (MHTML)、Excel などのさまざまなレポートエクスポート形式から選択できます。設定した電子メールアドレスにレポートを送信したり、共有フォルダに保存したりするように、レポートのスケジュールを設定できます。

入力パラメータと各レポートの出力については、次のレポートの概要を参照してください。

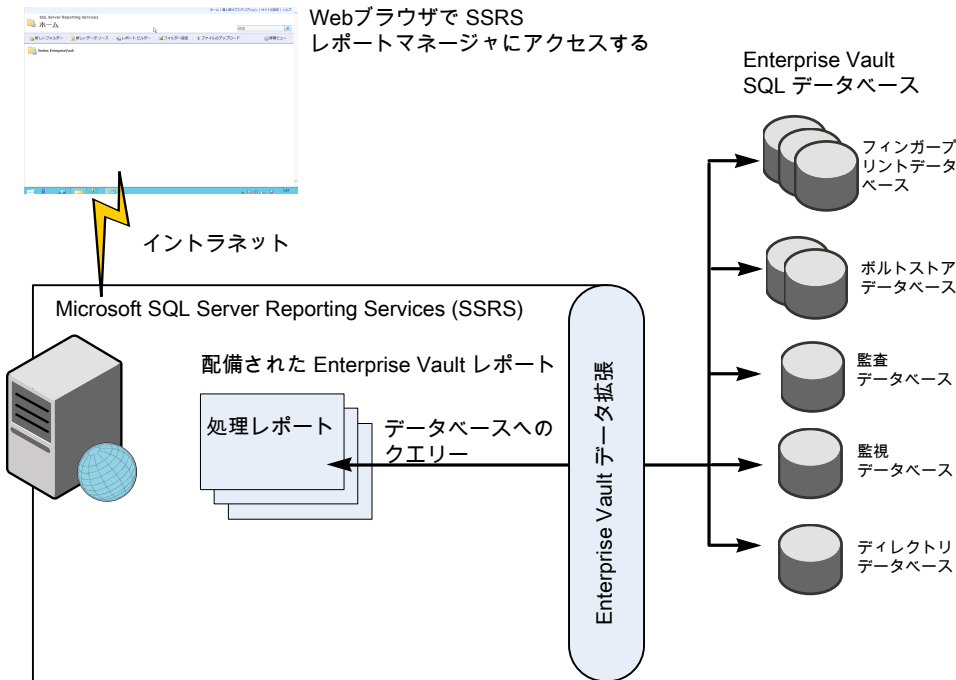
- p.83 の「Enterprise Vault Reporting の処理レポート」を参照してください。
- p.121 の「FSA Reporting のデータ分析レポート」を参照してください。

Enterprise Vault Reporting の動作

Enterprise Vault Reporting は、FSA レポートの設定の有無にかかわらず使うことができます。

「図 2-1」は、FSA レポートを設定しない場合の Enterprise Vault Reporting の動作を示しています。

図 2-1 Enterprise Vault Reporting が FSA Reporting なしで動作する方法



Enterprise Vault のレポートには、Microsoft SQL Server Reporting Services のレポートマネージャ Web アプリケーションからアクセスします。レポートマネージャには、適切な管理者役割に属するユーザーアカウントを使ってログオンする必要があります。この管理者役割によって、アクセスできるレポートが決まります。

Enterprise Vault は管理者役割に適切なレポートのリストを表示します。レポートを選択すると、Microsoft SQL Server Reporting Services サーバーコンピュータでの Enterprise Vault のデータ拡張によって、Enterprise Vault データベースから必要なデータを取得するクエリーが実行されます。生成されたレポートがレポートマネージャに表示されます。

レポートには Enterprise Vault 管理コンソールからアクセスすることもできます。

レポートが異なると、情報を要求する Enterprise Vault データベースも異なります。それぞれの処理レポートは、次の 1 つ以上のデータベースに対してデータを要求します。

- ボルトストアデータベース。ボルトストアデータベースには、関連付けされているボルトストアでアーカイブされた各アイテムに関する情報が保存されます。
- ディレクトリデータベース。ディレクトリデータベースには、1 つ以上の Enterprise Vault サイトの Enterprise Vault 設定データが保存されます。
- フィンガープリントデータベース。それぞれのフィンガープリントデータベースには、ボルトストアグループの単一インスタンスストレージのパーツに関する情報が保存されます。
- 監視データベース。このデータベースには、Enterprise Vault サーバーについて Enterprise Vault 監視エージェントが収集する状態情報が保存されます。
- 監査データベース。このデータベースには、Enterprise Vault 監査機構が収集するデータが保存されます。

メモ: 監視データベースと監査データベースにデータを要求するレポートを使うには、Enterprise Vault の監視と監査を有効にする必要があります。

p.29 の「[監視または監査の有効化が必要な Enterprise Vault のレポート](#)」を参照してください。

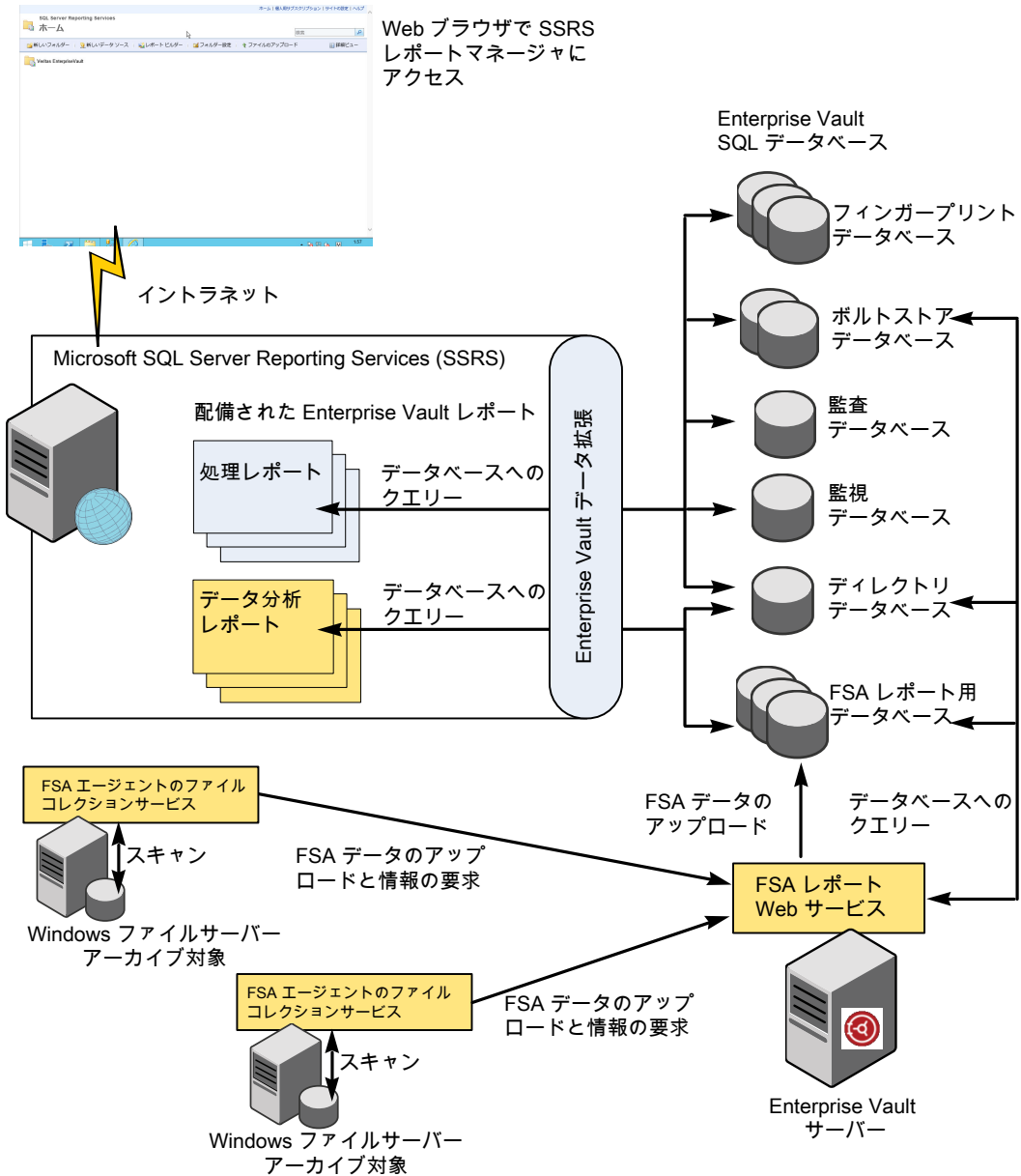
FSA Reporting の動作

ファイルサーバーの FSA Reporting を設定すると、処理レポートに加えてデータ分析レポートが利用可能になります。データ分析レポートは、FSA Reporting 用データベースとディレクトリデータベースに対してのみクエリーを行うことを除き、処理レポートと同様に動作します。

「[図 2-2](#)」では、Windows ファイルサーバーの FSA Reporting を設定した場合に Enterprise Vault Reporting がどのように動作するかを説明します。

図 2-2

Enterprise Vault Reporting のしくみ: Windows ファイルサーバー
の FSA Reporting が設定されている場合



「表 2-1」では、FSA Reporting のコンポーネントについて説明します。

表 2-1 FSA レポートのコンポーネント

コンポーネント	説明
ファイルコレクションサービス	<p>このサービスは Windows ファイルサーバーで実行され、次の処理を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ FSA Reporting が有効になっている各ファイルサーバーボリュームのファイルシステムをスキャンします。ファイルコレクションサービスは、FSA Reporting データコレクションスケジュールに従って、または管理者が[FSA Reporting スキャンを実行]オプションによって即時のスキャンをトリガした場合に、スキャンを実行します。 ■ FSA Reporting Web サービスによってボルトストアデータベースとディレクトリデータベースに対するクエリーを行い、ボリュームのアーカイブデータを収集します。 ■ アクティブなデータとアーカイブデータを 1 つの XML ファイルにまとめます。 ■ XML ファイルをチャンクに分割し、Enterprise Vault サーバー上の FSA Reporting Web サービスにチャンクを転送します。 <p>ファイルコレクションサービスは FSA エージェントの一部になっています。Windows ファイルサーバーで FSA Reporting を有効にするには、あらかじめ FSA エージェントがファイルサーバーにインストールされている必要があります。</p> <p>メモ: FSA エージェントは Windows 以外のファイルサーバーで動作しません。Windows 以外のファイルサーバーの場合は、別のサーバーがプロキシとして動作し、FSA Reporting のデータコレクションをリモートで実行する必要があります。</p> <p>p.18 の「Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting のプロキシサーバーについて」を参照してください。</p>
FSA レポート Web サービス	<p>このサービスは Enterprise Vault サーバーで実行され、次の処理を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 任意のボリュームに関するアーカイブデータに対する、ファイルコレクションサービスからのクエリーに応答します。 ■ ファイルコレクションサービスから XML ファイルのデータチャンクを受け取り、再構築します。 ■ 再構築された XML データをファイルサーバーの割り当て済み FSA Reporting 用データベースにアップロードします。 ■ ファイルコレクションサービスにアップロード処理の状態を返します。 ■ 管理コンソールから受け取った FSA Reporting 設定の変更をディレクトリデータベースに格納します。

コンポーネント	説明
FSA Reporting 用データベース	FSA Reporting には、ディレクトリデータベースごとに FSA Reporting データベースが 1 つ以上が必要です。各 FSA Reporting 用データベースには、1 つ以上の対象ファイルサーバーのスキャンデータと設定情報が保存されます。 p.23 の「 FSA Reporting データベースについて 」を参照してください。

管理コンソールには、対象ファイルサーバーとその対象ボリュームの FSA Reporting の状態が表示されます。

p.63 の「[FSA レポートの状態の表示](#)」を参照してください。

Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting のプロキシサーバーについて

Enterprise Vault ファイルコレクションサービスは、Windows 以外のファイルサーバー (NetApp Filer と Dell EMC Celerra/VNX デバイス) では動作しません。FSA Reporting のデータコレクションをリモートで実行するには、別のサーバーがプロキシとして機能する必要があります。このサーバーを FSA Reporting のプロキシサーバーとみなします。

Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting を設定するときには、FSA Reporting のプロキシサーバーとして機能するサーバーを選択する必要があります。FSA Reporting プロキシサーバーをすでに設定している場合、既存のプロキシサーバーを選択できます。

必要な前提条件を満たせば、次の任意のサーバーを FSA Reporting のプロキシサーバーとして機能させることができます。

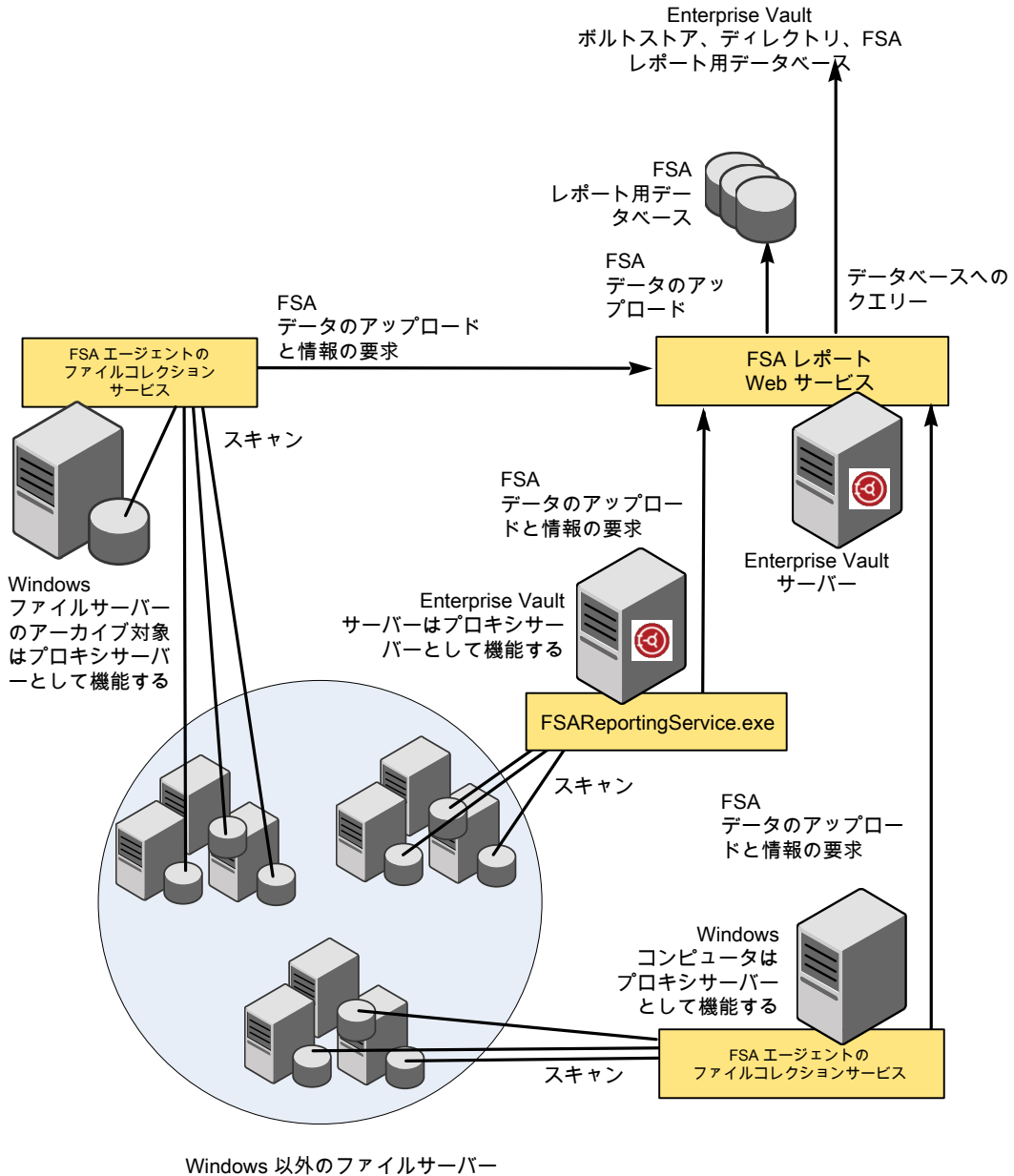
- Enterprise Vault サイトの Enterprise Vault サーバー。
- Enterprise Vault サイトのアーカイブ対象ファイルサーバーとして設定されている Windows ファイルサーバー。
- ネットワーク上の Windows サーバー。

p.21 の「[FSA Reporting プロキシサーバーの必要条件](#)」を参照してください。

複数の FSA Reporting のプロキシサーバーを設定する場合は、必要に応じて、プロキシサーバーの種類を組み合わせることができます。

「[図 2-3](#)」に、FSA Reporting のプロキシサーバーを全種類を使う設定例を示してあります。

図 2-3 FSA Reporting 用プロキシサーバーオプション



次の点に注意してください。

- ネットワークに接続した Windows コンピュータまたは Windows ファイルサーバーが FSA Reporting のプロキシサーバーとして機能するとき、ファイルコレクションサービスを提供するために、FSA エージェントはプロキシサーバーに存在する必要があります。プロキシサーバーを選択するとき、Enterprise Vault は FSA エージェントがまだなければインストールするようにメッセージを表示します。

メモ: NetApp C-Mode Filer で FSA Reporting を有効にするには、Enterprise Vault 11.0.1 以降の FSA エージェントをインストールしておく必要があります。

- Enterprise Vault サーバーがプロキシサーバーとして機能する場合、Enterprise Vault サーバー上の FSAREportingService.exe という名前のプログラムがファイルコレクションタスクを実行します。Enterprise Vault 管理サービスが、FSAREportingService.exe プログラムを起動および制御します。

表 2-2 はプロキシサーバーの種類を選択するときに考慮する要因をリストします。

表 2-2 FSA Reporting のプロキシサーバーの種類の利点と不利な点

サーバーの種類	メリット	デメリット
Enterprise Vault サーバー	<p>既存の Enterprise Vault インフラを使うため、管理のためにサーバーを追加する必要はありません。</p> <p>FSA エージェントが必要ないため、FSA エージェントのインストールを追加で行う必要はありません。</p>	<p>Enterprise Vault サーバーにプロキシサーバーのリソース要求を追加するため、既存の Enterprise Vault タスクとアプリケーションに悪影響を及ぼす可能性があります。</p>
Windows ファイルサーバーのアーカイブ対象	<p>既存の Enterprise Vault インフラを使うため、管理のためにサーバーを追加する必要はありません。</p> <p>ローカルで利用可能な Windows ファイルサーバーのアーカイブ対象がある分散環境と、集中型 Enterprise Vault サーバーで役立ちます。ローカルの Windows ファイルサーバーのアーカイブ対象は、広域ネットワークをスキャンする必要はありません。</p>	<p>ファイルサーバーにプロキシサーバーのリソース要求を追加するため、ファイルサーバーの既存のタスクとアプリケーションに悪影響を及ぼす可能性があります。ファイルサーバー上の Enterprise Vault アプリケーションの実行が遅くなる可能性があります。</p>

サーバーの種類	メリット	デメリット
ネットワーク上のその他の Windows サーバー	ローカルで利用可能な Windows ファイルサーバーのアーカイブ対象や Enterprise Vault サーバーがない場合は、分散環境で役立ちます。ローカルの Windows サーバーを使うと、広域ネットワークをスキャンする必要がありません。 Enterprise Vault サーバーまたは Windows ファイルサーバーのアーカイブ対象には、プロキシサーバーのリソース要求は追加されません。	その他のハードウェア対策（他のサーバー管理など）が必要です。 FSA エージェントの個別のインストールが必要です。

FSA Reporting のプロキシサーバーのリソース要求は、次の数に応じて増加する傾向があります。

- プロキシサーバーに割り当てたファイルサーバーの数。
- FSA Reporting のスキャンが必要なアーカイブポイントとボリュームの数。
- プロキシサーバーが同時に実行する FSA Reporting スキャンの数。

Enterprise Vault サイト内にある Windows 以外の複数のファイルサーバーに FSA Reporting を設定する場合は、次のようにプロキシサーバーの負荷を分散させることができます。

- FSA Reporting の複数のプロキシサーバーに Windows 以外のファイルサーバーを分散します。
- ボリュームが最も多いファイルサーバー（FSA Reporting が有効であるサーバー）に異なるプロキシサーバーを割り当てます。
- FSA Reporting のスキャンスケジュールが同じファイルサーバーに異なるプロキシサーバーを割り当てます。
- 同じプロキシサーバーに割り当てるファイルサーバーの FSA Reporting スキャンスケジュールの時間をずらしします。

可能な場合は、Windows 以外のファイルサーバーごとに異なる FSA Reporting 用プロキシサーバーを使うことを推奨します。

FSA Reporting プロキシサーバーの必要条件

FSA Reporting プロキシサーバーとしてコンピュータを設定する前に、Enterprise Vault の必要条件に準拠していることを確認してください。

表 2-3 は各プロキシサーバーの種類の必要条件をリストします。

メモ: コンピュータはクラスタに属していない必要があります。クラスタサーバーは FSA Reporting のプロキシサーバーとして動作できません。

表 2-3 FSA Reporting プロキシサーバーの要件

プロキシサーバーの種類	必要条件
Enterprise Vault サーバー	<ul style="list-style-type: none">■ Enterprise Vault サーバーは Windows 以外のファイルサーバーと同じ Enterprise Vault サイトにある必要があります。それはアーカイブ対象として Windows 以外のファイルサーバーを持つ必要はありません。■ Celerra/VNX の場合、Celerra/VNX Data Mover の HTTP サーバーは Enterprise Vault サーバーからの Celerra/VNX FileMover API 接続を受け入れる必要があります。 Celerra/VNX デバイスが Enterprise Vault サーバーのアーカイブ対象の場合は、この条件はすでに満たされています。それ以外の場合は、Celerra/VNX Data Mover を設定する必要があります。
Windows ファイルサーバーのアーカイブ対象	<ul style="list-style-type: none">■ ファイルサーバーで DNS の前方参照と DNS の逆引き参照の両方が成功する必要があります。■ FSA エージェントが必要です。FSA エージェントを前もってインストールする必要はありません。Enterprise Vault はプロキシサーバーを割り当てる時、FSA エージェントがまだ存在しない場合はエージェントをインストールします。 FSA エージェントをインストールするとき、インストーラはファイルサーバーのローカル Print Operators グループにボルトサービスアカウントを追加し、ボルトサービスアカウントに必要なその他のアクセス権と権限を設定します。■ Celerra/VNX の場合、Celerra/VNX Data Mover の HTTP サーバーは、このサーバーからの Celerra/VNX FileMover API 接続を受け入れる必要があります。

プロキシサーバーの種類	必要条件
ネットワーク上のその他の Windows サーバー	<ul style="list-style-type: none"> ■ Windows サーバーは Enterprise Vault サーバーと同じドメイン、または子ドメイン、または双方向の信頼関係があるドメインに存在する必要があります。ワークグループのコンピュータはプロキシサーバーとして機能できません。 ■ サーバーで DNS の前方参照と DNS の逆引き参照の両方が成功する必要があります。 ■ Windows コンピュータは別のサイトのファイルサーバーの FSA Reporting のプロキシサーバーとして機能してはなりません。 ■ FSA エージェントが必要です。FSA エージェントを前もってインストールする必要はありません。Enterprise Vault はプロキシサーバーを割り当てる時、FSA エージェントがまだ存在しない場合はエージェントをインストールします。 FSA エージェントをインストールするとき、インストーラは Windows サーバーのローカル Print Operators グループにボルトサービスアカウントを追加し、ボルトサービスアカウントに必要なその他のアクセス権と権限を設定します。 ■ Celerra/VNX の場合、Celerra/VNX Data Mover の HTTP サーバーは、このサーバーからの Celerra/VNX FileMover API 接続を受け入れる必要があります。

p.40 の「[FSA Reportingプロキシサーバーと連携して動作するために Celerra/VNX デバイスを準備する](#)」を参照してください。

FSA Reporting データベースについて

FSA Reporting データベースには、1 つ以上のファイルサーバーの FSA Reporting スキャンデータが保存されます。FSA Reporting には、ディレクトリデータベースごとに FSA Reporting データベースが 1 つ以上必要です。

FSA Reporting のファイルサーバーを設定するとき、Enterprise Vault は次のとおり実行します。

- ディレクトリデータベースと関連付けられる FSA Reporting データベースがなければ、ウィザードを使って FSA Reporting データベースを作成します。
- 1 つ以上の FSA Reporting データベースがディレクトリデータベースと関連付けられている場合は、Enterprise Vault に次の選択肢があります。
 - ファイルサーバーのデータを保持する既存の FSA Reporting データベースを選択する。
 - ファイルサーバーのデータを保持する新しい FSA Reporting データベースを作成する。

各 FSA Reporting データベースの名前を選択できます。名前は英数字とスペースのみ含む必要があります。名前は 25 文字までの長さにできます。

複数の FSA Reporting データベースには、次のメリットがあります。

- 複数のデータベースは、拡張性を実現します。FSA Reporting を使うと、複数のファイルサーバーから複数のデータベースにデータをアップロードする速度が上がるため、スキャン時間を大幅に削減できます。
- 複数のデータベースは、たとえば地理的位置によって情報を分離することを可能にします。

複数の FSA Reporting データベースの小さいデメリットは、概略レポートです。Microsoft SQL Server Reporting Services が複数のデータベースからデータを収集する必要があるため、生成により長い時間がかかります。

FSA Reporting データベースを対象ファイルサーバーに割り当てるときには、次の要因を考慮します。

- 可能な限り、さまざまなデータベースを、ボリュームが最も多いファイルサーバー (FSA Reporting が有効であるサーバー) に割り当てます。FSA Reporting がファイルサーバーのスキャンからアップロードする必要があるデータ量は、スキャンが必要なアーカイブポイントとボリュームの数に応じて増加します。
- FSA Reporting スキャンのスケジュールが同じ多数のファイルサーバーに同じデータベースを割り当てると、データアップロードの障害が生じる可能性があります。スキャンのスケジュールが同じファイルサーバーを異なる FSA Reporting データベースに割り当てます。同じ FSA Reporting データベースに割り当ててるファイルサーバーの FSA Reporting スキャンスケジュールの時間をずらします。

データベースが大きくなりすぎないようにするために、各 FSA Reporting データベースを保持する必要があります。

p.24 の「[FSA レポート用データベースの保守について](#)」を参照してください。

FSA レポート用データベースの保守について

FSA レポート用データベースの初期サイズは次のとおりです。

データデバイス	100 MB
トランザクションログ	80 MB
合計	180 MB

最新情報や傾向に関連する情報を保持しながら、データベースの履歴テーブルを管理可能なサイズに保つために、各 FSA レポートデータベースを定期的に調整する必要があります。Enterprise Vault には、この目的のために調整ユーティリティが用意されています。

ます。バッチファイルを実行すると、指定期間を過ぎたデータは削除されますが、傾向レポート用のデータは保持されます。

p.70 の「[FSA レポート用データベースの履歴テーブルの調整](#)」を参照してください。

FSA レポートには、古いデータをデータベースのメインテーブルから履歴テーブルに移動する SQL パージジョブも含まれています。パージジョブは、メインテーブルを適切なサイズに維持するのに役立ちます。これにより、FSA レポートはレポートを迅速に生成できます。

メモ: パージジョブは、メインテーブルをパージするだけです。履歴テーブルを調整するには、定期的に調整バッチファイルを実行する必要があります。

パージジョブの移動操作には、1 分程度から数時間（移動するデータが大量にある大規模データベースの場合）を要する場合があります。Enterprise Vault は、SQL 移動操作の実行中、FSA レポート用データベースをパージジョブ保守モードにします。タイムアウト期間が経過している場合を除いて、データベースがパージジョブ保守モードにある間、FSA レポート Web サービスはデータベースへのデータのアップロードを中断します。

デフォルトでは、FSA レポート用データベースのパージジョブは、毎日午後 9 時に実行されます。必要であればこのスケジュールを変更できます。

p.73 の「[FSA レポート用データベースのパージジョブスケジュールの変更](#)」を参照してください。

何らかの理由でジョブが一時自動的に実行されない場合は、パージジョブを手動で実行できます。

p.74 の「[FSA レポート用データベースのパージジョブの手動での実行](#)」を参照してください。

FSA レポートユーザーアカウントについて

Enterprise Vault が最初の FSA レポート用データベースを作成する前に、関連するウィザードに、Windows アカウントのログイン資格情報の入力を求めるメッセージが表示されます。この FSA レポートユーザーアカウントは、FSA レポートが FSA レポート用データベースにアクセスするときに使います。

FSA レポートのユーザーアカウントには、特定の権限は必要ありません。すでに Enterprise Vault Reporting が設定されている場合は、必要に応じて、Enterprise Vault Reporting で使っているレポート対象のユーザーアカウントを指定できます。

管理コンソールの[ファイルサーバー]の対象コンテナの[レポートユーザーのログイン資格情報]タブから FSA レポートユーザーアカウントを変更できます。

Enterprise Vault Reporting の実装の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault Reporting の実装](#)

Enterprise Vault Reporting の実装

Enterprise Vault Reporting は、FSA Reporting の有無にかかわらず実装できます。FSA Reporting では、標準の Enterprise Vault Reporting の処理レポートに加えて Enterprise Vault Reporting のデータ分析レポートを使うことができます。

[表 3-1](#) に、Enterprise Vault Reporting を実装するために実行する必要がある手順を示します。

表 3-1 Enterprise Vault Reporting の実装

手順	処理	説明
手順 1	Enterprise Vault Reporting をインストールする場所を決定します。	p.28 の「 Enterprise Vault Reporting をインストールする場所と時期 」を参照してください。
手順 2	Enterprise Vault Reporting の前提条件を満たします。	p.28 の「 Enterprise Vault Reporting の前提条件 」を参照してください。

手順	処理	説明
手順 3	監視機能と監査機能を使ってレポートを生成する場合は、Enterprise Vault の監視と監査を有効にします。	この手順はいつでも実行できます。ただし、関連する機能が有効になって関連するデータが収集されるまでは、監視または監査によるレポートにはデータが表示されません。 p.29 の「 監視または監査の有効化が必要な Enterprise Vault のレポート 」を参照してください。
手順 4	Enterprise Vault Reporting のインストール前の手順を実行します。	p.30 の「 Enterprise Vault Reporting のインストールの準備 」を参照してください。
手順 5	Enterprise Vault Reporting コンポーネントをインストールします。	p.31 の「 Enterprise Vault Reporting コンポーネントのインストール 」を参照してください。
手順 6	レポート設定ユーティリティを実行して Enterprise Vault Reporting を設定し、レポートを配備します。	Enterprise Vault サービスがインストールされているサイトの少なくとも 1 台のコンピュータで Enterprise Vault 設定ウィザードを実行するまでは、この手順を実行しないでください。 p.33 の「 Enterprise Vault Reporting の設定 」を参照してください。
手順 7	設定が正しく行われたことと、レポートにアクセスできることを確認します。	p.34 の「 Enterprise Vault Reporting の設定が正しく行われたことの確認 」を参照してください。
手順 8	レポートにアクセスする必要がある追加のユーザーアカウントに適切な管理者役割を忘れずに割り当てます。	p.53 の「 Enterprise Vault Reporting のレポートにアクセスできる管理者役割 」を参照してください。
手順 9	必要に応じて、対象のファイルサーバーの FSA Reporting を設定します。	ファイルサーバーの FSA Reporting はいいつでも設定できます。 レポートは、この表の他の手順を実行するまで利用できません。 p.37 の「 FSA Reporting の設定 」を参照してください。

実装プロセスの手順で問題が発生した場合は、トラブルシューティングマニュアルを参照してください。

p.82 の「[Enterprise Vault Reporting のトラブルシューティングについて](#)」を参照してください。

Enterprise Vault Reporting のインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault Reporting](#) をインストールする場所と時期
- [Enterprise Vault Reporting](#) の前提条件
- 監視または監査の有効化が必要な [Enterprise Vault](#) のレポート
- [Enterprise Vault Reporting](#) のインストールの準備
- [Enterprise Vault Reporting](#) コンポーネントのインストール

Enterprise Vault Reporting をインストールする場所 と時期

通常、Enterprise Vault Reporting コンポーネントは、Microsoft SQL Server Reporting Services を実行するサーバー上に他の Enterprise Vault コンポーネントがなくてもインストールできます。ただし、必要な前提条件が満たされている場合は、Reporting コンポーネントを Enterprise Vault サーバーのインストールに含めることができます。

Enterprise Vault Reporting コンポーネントはいつでもインストールできます。ただし、Enterprise Vault サービスがインストールされているサイトの少なくとも 1 台のコンピュータで Enterprise Vault 設定ウィザードを正常に実行するまでは、レポート設定ユーティリティを実行しないでください。

Enterprise Vault Reporting の前提条件

Enterprise Vault Reporting は、次の前提条件を満たすコンピュータにインストールできます。

- Microsoft .NET Framework 3.5 SP1
- 次のいずれかのバージョンの Microsoft SQL Server Reporting Services が使用可能であること。
 - Microsoft SQL Server 2012 Reporting Services
 - Microsoft SQL Server 2014 Reporting Services
 - Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services
 - Microsoft SQL Server 2017 Reporting Services
- Enterprise Vault データベースをホストするコンピュータ (1 つまたは複数) へのネットワーク接続がされていること

FSA Reporting を設定する場合は、FSA Reporting 用データベースをホストする SQL Server コンピュータに次のソフトウェアをインストールする必要があります。

- Microsoft SQLXML 4.0 SP1
- Microsoft MSXML 6.0

監視または監査の有効化が必要な Enterprise Vault のレポート

いくつかの Enterprise Vault Reporting のレポートは、ソースデータに対する Enterprise Vault 監視機能または Enterprise Vault 監査機能を使用しています。

次のレポートは、Enterprise Vault 監視機能を有効にすることが必要です。

- Enterprise Vault サーバーの 24 時間の健全性の状態
- Enterprise Vault サーバーの 7 日間の健全性の状態
- Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブの健全性
- Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブの傾向
- Domino サーバージャーナルメールボックスアーカイブの健全性
- Domino サーバージャーナルメールボックスアーカイブの傾向

次のレポートは、Enterprise Vault 監査機能を有効にすることが必要です。

- アーカイブ済みアイテムのアクセス
- アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向

これらのレポートを使う場合は、必要に応じて Enterprise Vault の監視または監査を設定してください。

メモ: 監視と監査は、Enterprise Vault Reporting のインストールと設定の前または後のどちらでも設定できます。この影響を受けるレポートには、関連するデータが監視データベースまたは監査データベースに保存されるまで、情報が保存されません。

Enterprise Vault 設定ウィザードによる監視を有効にすることができます。

Operations Manager コンポーネントをインストールした場合は、Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーションによる監視を有効にすることもできます。

『管理者ガイド』の Enterprise Vault Operations Manager による監視に関する章の監視パラメータの設定に関するセクションを参照してください。

監査を設定するには、監査を有効にしてから、情報を収集する Enterprise Vault サーバーで監査を設定する必要があります。

『管理者ガイド』の監査に関する説明を参照してください。

Enterprise Vault Reporting のインストールの準備

Enterprise Vault Reporting コンポーネントをインストールする前に、次の手順を実行する必要があります。

Enterprise Vault Reporting のインストールを準備する方法

- 1 Enterprise Vault Reporting が Enterprise Vault データベースへのアクセス時に使えるように、「ReportingUser」などの名前で Active Directory ドメインに Windows ユーザーアカウントを作成します。このレポートのユーザーアカウントにはメールボックスは必要ありません。また、アカウントは Windows の Administrators グループのメンバーである必要もありません。

レポートのユーザーアカウントを作成する場合は、次の手順を実行します。

- [パスワードを無期限にする] オプションにチェックマークを付けます。
- 残りのチェックボックス ([ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必要]、[ユーザーはパスワードを変更できない]、[アカウントは無効]) はチェックマークをはずしたままにします。

- 2 Microsoft SQL Server Reporting Services サーバーでボルトサービスアカウントに「コンテンツマネージャ」ロールを付与します。ユーザーアカウントへの Microsoft SQL Server Reporting Services のロールの割り当て方法については、Microsoft 社のマニュアルを参照してください。
- 3 ボルトサービスアカウントを Microsoft SQL Server Reporting Services サーバーコンピュータの Local Administrators グループに追加します。

Enterprise Vault Reporting コンポーネントのインストール

Enterprise Vault Reporting コンポーネントをインストールするには、次の手順を実行します。

メモ: この時点では、Enterprise Vault Reporting コンポーネントだけをインストールするものとします。Reporting コンポーネントと同時に他の Enterprise Vault コンポーネントをコンピュータにインストールする場合は、『インストール/設定』のインストール手順に従ってください。

Enterprise Vault Reporting コンポーネントのインストールする方法

- 1 ボルトサービスアカウントを使ってコンピュータにログオンします。
- 2 Enterprise Vault メディアをロードします。
- 3 Veritas Enterprise Vault フォルダを開きます。
- 4 インストールを続行する前に、ReadMeFirst ファイルをダブルクリックして、ファイルの内容を確認します。
- 5 Server フォルダを開きます。
- 6 SETUP.EXE をダブルクリックしてインストールを開始します。
- 7 Enterprise Vault インストールプログラムで、インストールするコンポーネントを選択するメッセージが表示されたら、Reporting コンポーネントを選択します。
- 8 インストールの終了時に、コンピュータを再起動するように指示されることがあります。

Enterprise Vault Reporting の設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault Reporting の設定について](#)
- [Enterprise Vault Reporting の設定](#)
- [Enterprise Vault Reporting の設定が正しく行われたことの確認](#)
- [Enterprise Vault の RBA ロールメンバーシップの同期を有効にする](#)
- [Enterprise Vault Reporting のデータアクセス設定の再設定](#)

Enterprise Vault Reporting の設定について

レポート設定ユーティリティを実行して Reporting Enterprise Vault を設定し、レポートを配備する必要があります。

p.33 の「[Enterprise Vault Reporting の設定](#)」を参照してください。

次の時点で、レポート設定ユーティリティを再実行できます。

- Enterprise Vault のアップグレード後。
詳しくは Enterprise Vault のアップグレード方法を参照してください。
- Enterprise Vault Reporting のデータアクセス設定を変更する場合。
p.36 の「[Enterprise Vault Reporting のデータアクセス設定の再設定](#)」を参照してください。

Enterprise Vault Reporting の設定

Reporting 設定ユーティリティを実行して Enterprise Vault Reporting を設定し、レポートを配備する必要があります。

Reporting 設定ユーティリティを実行する前に、次の点に注意してください。

- Enterprise Vault サービスがインストールされているサイトの 1 台以上のコンピュータで Enterprise Vault 設定ウィザードを正常に実行するまでは、Reporting 設定ユーティリティを実行しないでください。

Enterprise Vault Reporting を設定する方法

- 1 ポルトサービスアカウントでコンピュータにログオンします。
- 2 レポート設定ユーティリティ、Enterprise Vault Reports Configuration を開始します。
- 3 [レポートを設定し、レポートを配備またはアップグレードする]オプションを選択します。
- 4 Enterprise Vault Reporting を実行する作成済みのレポートユーザーアカウントの詳細を入力します。このアカウントの Active Directory ドメイン、ユーザー名、パスワードを入力します。
- 5 レポートを配備する Microsoft SQL Server Reporting Services インスタンスを選択します。デフォルトのインスタンスにレポートを配備するには、インスタンス名 MSSQLSERVER を選択します。
- 6 レポートで使う言語を選択します。
- 7 ディレクトリデータベース用の SQL Server を選択します。サーバーが一覧に表示されない場合は、サーバー名を入力します。
- 8 [設定]をクリックします。
- 9 ユーティリティが完了したら、表示されたダイアログボックスで[OK]をクリックしてユーティリティを終了します。
- 10 Reporting 設定ユーティリティを初めて実行した場合は、設定が正しく行われたことを確認してください。

p.34 の「[Enterprise Vault Reporting の設定が正しく行われたことの確認](#)」を参照してください。

- 11 Enterprise Vault の役割ベースの管理 (RBA) ロールメンバーシップと Enterprise Vault Reporting の同期を有効にします。

p.35 の「[Enterprise Vault の RBA ロールメンバーシップの同期を有効にする](#)」を参照してください。

Enterprise Vault Reporting の設定が正しく行われたことの確認

Enterprise Vault Reporting を初めて設定した場合は、Enterprise Vault が正しく設定されたことを確認するために、次のチェックを行います。

Enterprise Vault Reporting の設定が正しく行われたことを確認する方法

- 1 レポートのユーザーアカウントに、次のデータベースが置かれている SQL サーバーに対する SQL ログインが設定されていることを確認します。
 - Enterprise Vault ディレクトリデータベース
 - Enterprise Vault 監視データベース
 - Enterprise Vault 監査データベース
 - すべてのボルトストアデータベース
 - すべてのボルトストアグループのフィンガープリントデータベース
 - すべての FSA レポートデータベース (FSA レポートが設定されている場合)これらのすべての SQL サーバーにログオンが存在しない場合は、これを作成します。
- 2 SQL Server ロール EVReportingRole が各 Enterprise Vault データベースに追加され、このロールがレポートユーザーに割り当てられていることを確認します。
- 3 レポートにアクセスしてみます。

p.52 の「[Enterprise Vault Reporting のレポートへのアクセス](#)」を参照してください。

データ分析レポートを使う前に、1 つ以上の対象のファイルサーバーの FSA レポートを設定し、FSA レポートのデータスキャンを 1 回以上正常に実行する必要があることに注意してください。

p.37 の「[FSA Reporting の設定](#)」を参照してください。

問題がある場合は、Enterprise Vault Reporting のトラブルシューティングのマニュアルを参照してください。

p.82 の「[Enterprise Vault Reporting のトラブルシューティングについて](#)」を参照してください。

Enterprise Vault の RBA ロールメンバーシップの同期を有効にする

Enterprise Vault Reporting は RBA ロールを使ってレポートへのアクセスを制御します。Enterprise Vault Reporting 設定ユーティリティを実行すると、Enterprise Vault は現在の RBA ロールと Enterprise Vault Reporting のレポートのセキュリティ設定を同期します。

後で RBA ロールやロールメンバーシップを修正した場合には、Enterprise Vault は Enterprise Vault Reporting を再び同期して変更を反映する必要があります。同期の処理は、役割への変更を行うコンピュータの Internet Explorer のある特定のセキュリティ設定を必要とします。

次の手順は、Internet Explorer のセキュリティ設定を、役割の変更の同期を有効にするための必須の値に設定します。

Enterprise Vault Reporting の役割ベースのセキュリティの同期を有効にする方法

- 1 ボルトサービスアカウントで Enterprise Vault サーバーにログオンします。
- 2 Internet Explorer を開きます。Enterprise Vault サーバーがユーザーアカウント制御 (UAC) が有効なサーバーにインストールされる場合、Internet Explorer を管理者権限で開く必要があります。Internet Explorer のショートカットを右クリックし、次に[管理者として実行]をクリックしてください。
- 3 Internet Explorer の[ツール]メニューから[インターネットオプション]を選択します。
- 4 [セキュリティ]タブで、[信頼済みサイト]、[サイト]の順にクリックします。
- 5 信頼済みサイトのゾーンに次の URL を追加します。

- `http://SSRS_hostname`
- `http://SSRS_computername`
- `http://SSRS_IP_address`

ここでは次のとおりです。

- `SSRS_hostname` は `blackbird.demo.local` などの Microsoft SQL Server Reporting Services の完全修飾ホスト名です。
 - `SSRS_computername` は `blackbird` などの Microsoft SQL Server Reporting Services のコンピュータ名です。
 - `SSRS_IP_address` は Microsoft SQL Server Reporting Services の IP アドレスです。
- 6 [セキュリティ]タブで、[信頼済みサイト]ゾーンがまだ選択されていることを確認し、次に[レベルのカスタマイズ]をクリックします。

- 7 [セキュリティ設定 - 信頼されたゾーン]ダイアログボックスで、[ユーザー認証]>[ログオン]の下の[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする]を選択します。
- 8 Internet Explorer の設定を保存し、Internet Explorer を閉じます。

Enterprise Vault Reporting のデータアクセス設定の再設定

次のいずれかを行うには、レポート設定ユーティリティを再実行します。

- レポートのユーザーアカウントの詳細を変更する。これは Enterprise Vault データベースにアクセスするために Enterprise Vault Reporting が使うアカウントです。
- Enterprise Vault Reporting を再設定して Enterprise Vault ディレクトリデータベースに対して異なる SQL Server を使う。

Enterprise Vault Reporting のデータアクセス設定を再設定する方法

- 1 ボルトサービスアカウントでログオンします。
- 2 Enterprise Vault Reports Configuration を開始します。
Reporting 設定ユーティリティが起動します。
- 3 [レポートのデータアクセス設定を再設定する]オプションを選択します。
- 4 使用するレポートユーザーアカウントの詳細を入力します。このアカウントの **Active Directory** ドメイン、ユーザー名、パスワードを入力します。アカウントの詳細を再入力します (変更しない場合も同様)。
- 5 レポートを配備した **Microsoft SQL Server Reporting Services** インスタンスを選択します。デフォルトのインスタンスにレポートを配備した場合は、インスタンス名 **MSSQLSERVER** を選択します。
- 6 ディレクトリデータベース用の **SQL Server** を選択します。サーバーが一覧に表示されない場合は、サーバー名を入力します。
- 7 [再設定]をクリックします。
- 8 ユーティリティが完了したら、表示されたダイアログボックスで[OK]をクリックしてユーティリティを終了します。

FSA Reporting の設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [FSA Reporting](#) の設定
- [FSA Reporting](#) 用プロキシサーバーの準備
- [FSA Reporting](#) のデータコレクションが有効なアーカイブ対象としてのファイルサーバーの追加
- 既存の対象ファイルサーバーでの [FSA](#) レポートのデータコレクションの有効化
- ファイルサーバーの対象ボリュームに対する [FSA](#) レポートのデータコレクションの有効化または無効化
- [FSA](#) レポートのデータコレクションのデフォルト設定
- [FSA Reporting](#) の一時ファイルの格納場所の設定
- [Dell EMC Celerra/VNX](#) デバイスのプレースホルダの検証
- [FSA](#) レポートスキャンに [NetApp filer](#) のスナップショットフォルダを含める
- [FSA](#) レポートの設定が正しく行われたことの確認

FSA Reporting の設定

[FSA Reporting](#) からファイルサーバーに関するレポートを入手するには、そのファイルサーバーに対して [FSA Reporting](#) を設定する必要があります。

メモ: レポートにアクセスする前に、[Enterprise Vault Reporting](#) を実装するためのすべての手順も実行する必要があります。

p.26 の「[Enterprise Vault Reporting の実装](#)」を参照してください。

表 6-1 ファイルサーバー用に FSA Reporting を設定する手順

手順	処理	説明
手順 1	ファイルサーバーがまだファイルシステムアーカイブの対象でない場合、ファイルシステムアーカイブ用にファイルサーバーを設定する準備をします。	詳しくは、『ファイルシステムのアーカイブの設定』の該当するセクションを参照してください。 <ul style="list-style-type: none">■ Windows ファイルサーバーの場合は、「Windows ファイルサーバーでの FSA の権限の設定」を参照してください。■ NetApp Filer の場合は、「NetApp Filer での FSA の権限の設定」を参照してください。■ Dell EMC Celerra/VNX デバイスの場合は、「FSA 用の Celerra/VNX デバイスの準備」を参照してください。
手順 2	Windows 以外のファイルサーバーの場合は、FSA Reporting 用プロキシサーバーの準備をします。	p.39 の「 FSA Reporting 用プロキシサーバーの準備 」を参照してください。
手順 3	ファイルサーバーの FSA Reporting のデータコレクションを有効にします。	次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none">■ ファイルサーバーがまだファイルシステムアーカイブの対象でない場合、FSA Reporting が有効である対象としてファイルサーバーを追加します。 p.40 の「FSA Reporting のデータコレクションが有効なアーカイブ対象としてのファイルサーバーの追加」を参照してください。■ ファイルサーバーがすでにファイルシステムアーカイブの対象である場合、その対象に対して FSA Reporting を有効にします。 p.43 の「既存の対象ファイルサーバーでの FSA レポートのデータコレクションの有効化」を参照してください。
手順 4	個々のボリュームについてデータを収集するかどうかを指定します。	p.45 の「 ファイルサーバーの対象ボリュームに対する FSA レポートのデータコレクションの有効化または無効化 」を参照してください。
手順 5	FSA Reporting のデフォルトのデータコレクション設定をまだ設定していない場合は、設定します。	p.46 の「 FSA レポートのデータコレクションのデフォルト設定 」を参照してください。

手順	処理	説明
手順 6	ファイルサーバーに FSA Reporting の一時ファイル用の領域が十分にあることを確認します。	p.46 の「 FSA Reporting の一時ファイルの格納場所の設定 」を参照してください。
手順 7	Celerra/VNX デバイスの場合は、どのファイルが対象のプレースホルダなのかを検証するかどうか決定します。	Enterprise Vault 以外のプログラムで Celerra/VNX ファイルのオフライン属性を設定した場合は、一部のレポートに示される Celerra/VNX の領域の節約情報が不正確になることがあります。この問題を避けるためには、プレースホルダであるファイルを検証する拡張スキャンを実行するように FSA Reporting を設定できます。 p.48 の「 Dell EMC Celerra/VNX デバイスのプレースホルダの検証 」を参照してください。
手順 8	FSA Reporting のデータスキャンがファイルサーバーで 1 回以上正常に完了するまで待ちます。その後、データ分析レポートにアクセスできることを確認します。	p.50 の「 FSA レポートの設定が正しく行われたことの確認 」を参照してください。

FSA Reporting 用プロキシサーバーの準備

Windows 以外のファイルサーバーで FSA Reporting を有効にするときには、FSA Reporting のプロキシサーバーとして機能する別のサーバーを割り当てる必要があります。

表 6-2 はプロキシサーバーを割り当てる前に実行する手順をリストします。

表 6-2 FSA Reporting 用プロキシサーバーの準備

手順	処理	説明
手順 1	プロキシサーバーとしてどんなサーバーを使うかを考慮します。	p.18 の「 Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting のプロキシサーバーについて 」を参照してください。
手順 2	サーバーがプロキシサーバーの前提条件すべてを満たすことを確認します。	p.21 の「 FSA Reporting プロキシサーバーの必要条件 」を参照してください。
手順 3	Celerra/VNX デバイスの場合、プロキシサーバーと連携して動作するデバイスを準備します。	p.40 の「 FSA Reporting プロキシサーバーと連携して動作するために Celerra/VNX デバイスを準備する 」を参照してください。

FSA Reporting プロキシサーバーと連携して動作するために Celerra/VNX デバイスを準備する

Celerra/VNX デバイスの FSA Reporting プロキシサーバーとしてサーバーを割り当てる前に、サーバーからの Celerra/VNX FileMover API 接続を受け入れるために Celerra/VNX Data Mover で HTTP サーバーを設定する必要があります。

メモ: プロキシサーバーが FSA 対象として Celerra/VNX デバイスを備えている Enterprise Vault サーバーの場合、この手順はすでに実行されているはずです。この場合、この手順は FSA 用に Celerra/VNX デバイスを準備したときに実行されました。

FSA レポート用プロキシサーバーと連携して動作するために Celerra/VNX デバイスを準備する方法

- 1 Celerra/VNX Control Station にログインします。
- 2 Celerra/VNX FileMover API 接続を受け入れるために Data Mover の HTTP サーバーを設定するには、次のコマンドを使います。

```
server_http server_x -append dhsm -users  
DataMover_user_name -hosts proxy_ip_address
```

それぞれの内容は次のとおりです。

server_x は、Data Mover の名前です。

DataMover_user_name は、Enterprise Vault が認証に使う Data Mover アカウントの名前です。

proxy_ip_address はプロキシサーバーとして使うサーバーの IP アドレスです。

このコマンドは Celerra/VNX デバイスとサーバー間の HTTP での接続性のテストも行います。

FSA Reporting のデータコレクションが有効なアーカイブ対象としてのファイルサーバーの追加

ファイルサーバーをアーカイブ対象として追加する場合、ファイルサーバーに対して FSA Reporting のデータコレクションを有効にできます。

新規ファイルサーバーウィザードを使うと、ファイルサーバーの追加手順を実行できます。次の点に注意してください。

- FSA レポートをサポートするには、Enterprise Vault ディレクトリデータベースに、関連付けられている 1 つ以上の FSA レポートデータベースが含まれている必要があります。ウィザードでは、既存の FSA レポートデータベースを選択するか、ファイルサーバーの FSA レポートデータを保持する新しいデータベースを設定できます。

p.23 の「[FSA Reporting データベースについて](#)」を参照してください。

- Enterprise Vault は最初の FSA レポートデータベースを作成する前に、FSA レポートデータベースにアクセスするときに使う Windows アカウントの資格情報の入力を求めるメッセージを表示します。

p.25 の「[FSA レポートユーザーアカウントについて](#)」を参照してください。

- Windows 以外のファイルサーバーの場合は、ウィザードで、FSA レポートのデータコレクションをファイルサーバー上で実行するためにプロキシサーバーを選択するメッセージが表示されます。

p.18 の「[Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting のプロキシサーバーについて](#)」を参照してください。

FSA レポートが有効なアーカイブ対象としてファイルサーバーを追加する方法

- 1 ファイルサーバーで DNS の前方参照と DNS の逆引き参照の両方が成功することを確認します。
- 2 Enterprise Vault 管理コンソールを起動します。Windows ファイルサーバーを追加する場合は、ファイルサーバーのローカル管理者グループのメンバーであるアカウントを使用します。Windows 以外のファイルサーバーを追加して、FSA レポート用の新しいプロキシサーバーを設定する場合は、プロキシサーバーのローカル Administrators グループのメンバーであるアカウントを使用します。
- 3 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 4 [対象]コンテナを展開します。
- 5 [ファイルサーバー]コンテナを右クリックし、ショートカットメニューの[新規作成]、[ファイルサーバー]の順にクリックします。
- 6 新規ファイルサーバーウィザードの 2 ページ目で、次を実行します。
 - ファイルサーバーの完全修飾 DNS 名を入力するか、[参照]をクリックしてファイルサーバーを選択します。
 - Windows ファイルサーバーの場合は、ファイルサーバーに最新版の FSA エージェントがなければ、FSA エージェントをインストールするオプションを選択します。
Windows 以外のファイルサーバーの場合、FSA エージェントをインストールするオプションを選択しないでください。
- 7 Celerra/VNX ファイルサーバーの場合は、プレースホルダのショートカットを使用するかどうかを選択します。プレースホルダのショートカットを使う場合は、dhsm 機能を使う権限を持つ Celerra/VNX 上のアカウントの詳細を入力します。
『ファイルシステムのアーカイブの設定』の「FSA 用の Celerra/VNX デバイスの準備」を参照してください。

- 8 概略ページで、[次へ]をクリックし、アーカイブ対象としてファイルサーバーを追加します。
- 9 次のウィザードページで、FSA レポートの設定が開始されます。[データコレクションを有効にする]を選択します。
- 10 次のウィザードページでは、新しいファイルサーバーの FSA レポートデータを保持する FSA レポートデータベースを選択できます。
 - ディレクトリデータベースと関連付けられる FSA レポートデータベースがなければ、ウィザードを使って FSA レポートデータベースを作成します。
 - 1 つ以上の FSA レポートデータベースがディレクトリデータベースとすでに関連付けられている場合、既存のデータベースを選択するか、または新しいものを作成することを選択できます。
- 11 Windows 以外のファイルサーバーの場合は、FSA レポートのデータコレクションを実行するためのプロキシサーバーを選択する必要があります。1 つ以上のプロキシサーバーがある場合は、既存の FSA レポート用プロキシサーバーを選択するか、新しいプロキシサーバーを設定できます。

メモ: FSA レポートがプロキシサーバーのスキャンを実行する場合は、この手順を実行する際に、プロキシサーバーのスキャンが発生しないことを確認してください。FSA レポートスキャンが実行中の場合は、スキャンを停止するか、終了するまで待ちます。

- 12 FSA レポートのデータコレクションのタイミングと、このファイルサーバーでのデータコレクションの範囲を指定します。次のいずれかの操作を行います。
 - [FSA レポートのデータコレクションにデフォルト設定を使う]を選択します。FSA レポートは、[ファイルサーバー]コンテナのプロパティで設定されたデフォルトの FSA レポートのデータコレクション設定を使います。
 - [FSA レポートのデータコレクションにデフォルト設定を使う]のチェックマークをはずし、このファイルサーバーのデフォルト以外の設定を使います。

最後のウィザードページでは、ウィザードでファイルサーバーが正常に追加されたこと、ファイルサーバーを使えるようになったことが確認されます。

ウィザードの最後のページには FSA レポートのレポートを使えるようにするために次を実行する必要があることも示されます。

 - 必要な対象ボリュームを追加し、必要であれば FSA レポートのデータコレクションを有効にします。
 - Enterprise Vault Reporting のインストールと設定がまだの場合、インストールし、設定します。
 - 少なくとも 1 つの FSA レポートスキャンが正常に完了するのを待機します。

メモ: ファイルサーバーで FSA レポートのデータコレクションを有効にすると、レポートでは既存の対象ボリュームに対するデータコレクションが自動的に有効になります。

新しい対象ボリュームを追加する場合は、必要に応じてデータコレクションのためにそれらを有効にする必要があります。

p.45 の「[ファイルサーバーの対象ボリュームに対する FSA レポートのデータコレクションの有効化または無効化](#)」を参照してください。

既存の対象ファイルサーバーでの FSA レポートのデータコレクションの有効化

管理コンソールで FSA アーカイブ対象としてすでに設定しているファイルサーバーで FSA レポートのデータコレクションを有効にできます。

次の点に注意してください。

- ファイルサーバーの FSA レポートデータを保持する FSA レポートデータベースを選択する必要があります。ウィザードは既存の FSA レポートデータベースを選択するか、または新しい FSA レポートデータベースを設定する場合に役立ちます。
p.23 の「[FSA Reporting データベースについて](#)」を参照してください。
- Enterprise Vault は最初の FSA レポートデータベースを作成する前に、FSA レポートデータベースにアクセスするときに使う Windows アカウントの資格情報の入力を求めるメッセージを表示します。
p.25 の「[FSA レポートユーザーアカウントについて](#)」を参照してください。
- Windows 以外のファイルサーバーの場合は、FSA レポートのデータコレクションをファイルサーバー上で実行するためのプロキシサーバーを選択する必要があります。
p.18 の「[Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting のプロキシサーバーについて](#)」を参照してください。

既存の対象ファイルサーバーで FSA レポートのデータコレクションを有効にする方法

- 1 ファイルサーバーで DNS の前方参照と DNS の逆引き参照の両方が成功することを確認します。
- 2 Windows ファイルサーバーでは、FSA エージェントがまだ存在しない場合、ファイルサーバーに FSA エージェントをインストールします。FSA エージェントのインストールウィザードの使用によってまたは手動で FSA エージェントをインストールできます。

『ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定』の Windows ファイルサーバーへの FSA エージェントのインストールに関する説明を参照してください。

- 3 Enterprise Vault 管理コンソールを起動します。FSA レポートを設定するときに、Windows 以外のファイルサーバーを追加して、FSA レポート用の新しいプロキシサーバーを設定する場合は、プロキシサーバーのローカル Administrators グループのメンバーであるアカウントを使う必要があります。
- 4 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 5 [対象]コンテナ、[ファイルサーバー]コンテナの順に展開します。
- 6 FSA レポートを設定するファイルサーバー対象を右クリックし、ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。
- 7 ファイルサーバーのプロパティで、[レポートのデータコレクション]タブを選択します。
- 8 [FSA レポートのデータコレクションを有効化]を選択します。
- 9 このファイルサーバーと一緒に使うには、データコレクション設定を選択します。次のいずれかの操作を行います。
 - [FSA レポートのデータコレクションにデフォルト設定を使う]を選択します。FSA レポートは、[ファイルサーバー]コンテナのプロパティで設定されたデフォルトの FSA レポートのデータコレクション設定を使います。
 - [FSA レポートのデータコレクションにデフォルト設定を使う]のチェックマークをはずし、このファイルサーバーのデフォルト以外の設定を使います。
- 10 [FSA レポート用のデータベース]の下にある、[選択]をクリックします。
- 11 FSA レポートデータベース設定ウィザードで、新しいファイルサーバーの FSA レポートデータを保持する FSA レポートデータベースを選択できます。
 - ディレクトリデータベースと関連付けられる FSA レポートデータベースがなければ、ウィザードを使って FSA レポートデータベースを作成します。
 - 1 つ以上の FSA レポートデータベースがディレクトリデータベースとすでに関連付けられている場合、既存のデータベースを選択するか、または新しいものを作成することを選択できます。

- 12 Windows 以外のファイルサーバーの場合は、[FSA レポート用のプロキシサーバー]の下にある、[選択]をクリックします。プロキシサーバーの選択ウィザードで、FSA レポートのデータコレクションを実行するためのプロキシサーバーを選択できます。1 つ以上のプロキシサーバーがある場合は、既存の FSA レポート用プロキシサーバーを選択するか、新しいプロキシサーバーを設定できます。

メモ: FSA レポートがプロキシサーバーのスキャンを実行する場合は、この手順を実行する際に、プロキシサーバーのスキャンが発生しないことを確認してください。FSA レポートスキャンが実行中の場合は、スキャンを停止するか、終了するまで待ちます。

- 13 [レポートのデータコレクション]タブで、[OK]をクリックして変更を保存し、ファイルサーバーのプロパティを終了します。

メモ: ファイルサーバーで FSA レポートのデータコレクションを設定すると、レポートでは既存の対象ボリュームに対するデータコレクションが自動的に有効になります。

新しい対象ボリュームを追加する場合は、必要に応じてデータコレクションのためにそれらを有効にする必要があります。

p.45 の「[ファイルサーバーの対象ボリュームに対する FSA レポートのデータコレクションの有効化または無効化](#)」を参照してください。

ファイルサーバーの対象ボリュームに対する FSA レポートのデータコレクションの有効化または無効化

[新規ボリューム]ウィザードを実行するときにファイルサーバーで FSA レポートのデータコレクションが有効になっていると、ボリュームに対して FSA レポートのデータコレクションを有効にするオプションが表示されます。

対象ボリュームの[プロパティ]から、ボリュームに対して FSA レポートのデータコレクションを有効または無効にすることもできます。

ファイルサーバーの対象ボリュームに対して FSA レポートのデータコレクションを有効化または無効化する方法

- 1 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナを展開します。
- 3 [ファイルサーバー]コンテナを展開し、対象ファイルサーバーを表示します。
- 4 ボリュームを設定する対象ファイルサーバーを展開し、対象ボリュームを表示します。

- 5 設定するボリュームを右クリックし、ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。
- 6 [全般]タブで、[FSA レポートを有効化]のチェックマークを付けるかはずします。
このオプションは、ファイルサーバーで FSA レポートのデータコレクションが有効になっている場合のみ利用可能です。
- 7 [OK]をクリックして変更内容を保存し、[プロパティ]ダイアログボックスを閉じます。

FSA レポートのデータコレクションのデフォルト設定

対象ファイルサーバーがデフォルトのデータコレクション設定を使うように設定されている場合、FSA レポートはその設定を使います。

設定によって次のことが決定されます。

- FSA レポートデータコレクションのデフォルトの頻度とコレクション時刻。
- デフォルトで、FSA レポートが、データコレクションが有効である対象ボリュームだけでなく、ファイルサーバーのすべての物理ドライブからデータを収集するかどうか。

FSA レポートのデータコレクションのデフォルト設定を行う方法

- 1 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナを展開します。
- 3 [ファイルサーバー]コンテナを右クリックし、ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。
- 4 [レポートのデータコレクション]タブで、必要な情報を設定します。
- 5 [OK]をクリックして変更内容を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

FSA Reporting の一時ファイルの格納場所の設定

FSA Reporting によって一時ファイルが対象ファイルサーバーに作成され、FSA レポートのスキャンデータが保存されます。大量のファイルが含まれているファイルサーバーでは、これらの一時ファイルが非常に大きくなる場合があります。

FSA Reporting では、一時ファイルがデフォルトで Enterprise Vault インストールフォルダの[FSAReports]サブフォルダに格納されます。多くの場合、このインストールフォルダはドライブ C に存在しますが、ドライブ C は通常、領域に限度があります。インストールドライブのすべての領域が一時ファイルでいっぱいになると、パフォーマンスの問題または応答の停止がコンピュータで発生する場合があります。インストールドライブに一時ファイル用の領域が十分でない可能性が高い場合は、格納場所を十分な空き領域があるドライブに再配置します。

格納場所へのパスは TempFilePath レジストリ値により指定します。

FSA Reporting の一時ファイルの格納場所を設定する方法

- 1 十分な空き領域があるドライブ上に適切な場所を作成し、ボルトサービスアカウントにその場所への書き込みアクセス権を付与します。

メモ: パスは、空白を含めて 100 文字以内にする必要があります。

- 2 Windows ファイルサーバーの場合は、ファイルサーバーでレジストリエディタを起動します。

NetApp Filer または Celerra/VNX デバイスの場合は、FSA Reporting プロキシサーバーとして動作するサーバーでレジストリエディタを起動します。

- 3 次のレジストリキーに移動します。

32 ビット版 Windows でのインストール:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥SOFTWARE
    ¥KVS
      ¥Enterprise Vault
        ¥FSA
          ¥Reporting
```

64 ビット版 Windows でのインストール:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥SOFTWARE
    ¥Wow6432Node
      ¥KVS
        ¥Enterprise Vault
          ¥FSA
            ¥Reporting
```

- 4 TempFilePath レジストリ値を編集して、手順 1 で選択した既存のパスを指定します。

TempFilePath で指定するパスは、空白を含めて 100 文字以内にする必要があります。

Enterprise Vault によって、TempFilePath で定義されたパスに FSAREports というサブフォルダが作成され、一時ファイルが保持されます。

- 5 レジストリエディタを終了します。
 - 6 Windows ファイルサーバーで Enterprise Vault ファイルコレクションサービスを再起動します。
- NetApp filers と Celerra/VNX デバイスの場合は、レジストリ値を変更した Enterprise Vault サーバーで Enterprise Vault 管理サービスを再起動します。

Dell EMC Celerra/VNX デバイスのプレースホルダの検証

FSA Reporting は Dell EMC Celerra/VNX デバイスをスキャンするとき、デフォルトでは、オフライン属性が設定されているどのファイルも Enterprise Vault プレースホルダであると想定します。この仮定は Celerra/VNX デバイスのより速いスキャンを可能にします。アーカイブすることによって節約される領域を以下のレポートのために計算するときに FSA レポートはプレースホルダ数を使用します。

- アーカイブポイントの領域使用量の概略
- サーバー上のファイルグループの領域使用量
- ファイルグループの領域使用量の概略
- ストレージの概略
- アーカイブポイント上のファイルの領域使用量

Enterprise Vault 以外のプログラムで Celerra/VNX ファイルのオフライン属性を設定した場合は、これらのレポートに示される領域の節約情報が不正確になることがあります。

Celerra/VNX ファイルのオフライン属性を設定する Enterprise Vault 以外のプログラムがある場合は、拡張されたスキャンを実行するように FSA レポートを設定できます。拡張されたスキャンはオフライン属性が設定されている各ファイルに対する HTTP 呼び出しを使い、ファイルがプレースホルダであるかどうか判断します。それから、レポートは節約された領域を正確に示すことができます。

メモ: プレースホルダの検証によって Celerra/VNX デバイスの FSA Reporting スキャンの時間が大幅に延びることがあります。

プレースホルダを検証するように FSA Reporting を設定するには、FSA Reporting のプロキシサーバーのレジストリ値を設定する必要があります。

Celerra/VNX デバイスのプレースホルダを検証する方法

- 1 Celerra/VNX デバイス用の FSA レポートプロキシサーバーにボルトサービスアカウントでログオンします。
- 2 レジストリエディタを開き、次のレジストリキーに移動します。

32 ビット版 Windows でのインストール:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥SOFTWARE
    ¥KVS
      ¥Enterprise Vault
        ¥FSA
          ¥Reporting
```

64 ビット版 Windows でのインストール:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥SOFTWARE
    ¥Wow6432Node
      ¥KVS
        ¥Enterprise Vault
          ¥FSA
            ¥Reporting
```

- 3 CheckEVPHOnCelerra という名前の DWORD レジストリ値を追加します。
- 4 レジストリ値を 1 に設定し、プレースホルダを検証するように FSA レポートを設定します。

オフライン属性の使用によってプレースホルダのデフォルトの ID に復帰するためにレジストリ値を 0 に設定します。
- 5 プロキシサーバーが Enterprise Vault サーバーである場合、Enterprise Vault 管理サービスを再起動します。さもないと、プロキシサーバーで Enterprise Vault ファイルコレクションサービスを再起動します。

FSA レポートスキャンに NetApp filer のスナップショットフォルダを含める

NetApp filer を使用する場合、ユーザーがアクセスできるファイルシステムバックアップとして ~snapshot フォルダを利用可能にしておくことを推奨します。デフォルトでは、FSA レポートは NetApp Filer の対象ボリューム内の ~snapshot という名前のフォルダはスキャンしません。通常、次の理由により、レポートに ~snapshot フォルダのデータを含めることは好ましくありません。

- レポートはライブシステムの状態を反映しません。たとえば、~snapshot データによって、ポリシー決定の目的またはチャージバック計算のためのレポートが不正確になる可能性があります。
- FSA レポートスキャン時間が不必要に増加します。

FSA レポートを使用して NetApp Filer の ~snapshot フォルダの内容をスキャンするには、FSA レポートプロキシサーバー上で ExcludeSnapshotFolder レジストリ値を設定する必要があります。

メモ: FSA レポートは必ず、Windows ファイルサーバー上または Celerra/VNX のデバイス上にある ~snapshot フォルダをスキャンします。レジストリ値はこれらのファイルサーバーの種類による影響を及ぼしません。

NetApp filer のスナップショットフォルダを FSA レポートスキャンに含める方法

- 1 NetApp ファイラーの FSA レポートプロキシサーバーにボルトサービスアカウントでログオンします。
- 2 レジストリエディタを起動し、次のレジストリキーに移動します。

32 ビット版 Windows でのインストール:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥FSA
¥Reporting
```

64 ビット版 Windows でのインストール:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥FSA
¥Reporting
```

- 3 ExcludeSnapshotFolder という名前の DWORD レジストリ値を追加します。
- 4 レジストリ値を 0 に設定します。
他の値を設定すると、FSA レポートはそのデフォルトの動作に復帰し、スキャンから ~snapshot フォルダを除外します。
- 5 プロキシサーバーが Enterprise Vault サーバーである場合、Enterprise Vault 管理サービスを再起動します。さもなければ、プロキシサーバーで Enterprise Vault ファイルコレクションサービスを再起動します。

FSA レポートの設定が正しく行われたことの確認

1 つ以上の対象ファイルサーバーで FSA レポートを設定した後に、正しく設定されたことを確認できます。

メモ: 設定が正しく行われたことを確認する前に、Enterprise Vault Reporting を実装するためのすべての手順を実行する必要があります。

p.26 の「[Enterprise Vault Reporting の実装](#)」を参照してください。

FSA レポートの設定が正しく行われたことを確認する方法

- 1 FSA レポートのデータスキャンがファイルサーバーで 1 回以上正常に完了するまで待ちます。FSA レポートのデータスキャンが 1 回以上正常に実行されないと、データ分析レポートにはデータが表示されません。

管理コンソールから FSA レポートスキャンの状態を表示できます。

p.63 の「[FSA レポートの状態の表示](#)」を参照してください。

スケジュール設定された FSA レポートスキャンが実行されるまで待てない場合は、スケジュール設定されていないレポートスキャンをファイルサーバーで手動で実行できます。

p.66 の「[ファイルサーバーでのスケジュール設定されていない FSA レポートスキャンの実行](#)」を参照してください。

- 2 FSA レポートのデータスキャンが 1 回以上正常に実行されたら、データ分析レポートの実行を試行します。

p.52 の「[Enterprise Vault Reporting のレポートへのアクセス](#)」を参照してください。

問題がある場合は、トラブルシューティングのマニュアルを参照してください。

p.82 の「[Enterprise Vault Reporting のトラブルシューティングについて](#)」を参照してください。

レポートへのアクセス

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault Reporting](#) のレポートへのアクセス
- [Enterprise Vault Reporting](#) のレポートにアクセスできる管理者役割
- [SQL Server Reporting Services](#) のレポートマネージャからの [Enterprise Vault Reporting](#) のレポートへのアクセス
- 管理コンソールからの [Enterprise Vault Reporting](#) のレポートへのアクセス

Enterprise Vault Reporting のレポートへのアクセス

ポルトサービスアカウントでは、[Enterprise Vault Reporting](#) のすべてのレポートにアクセスできます。その他のアカウントは、必要なレポートへのアクセスを許可する管理者役割に属している必要があります。

p.53 の「[Enterprise Vault Reporting](#) のレポートにアクセスできる管理者役割」を参照してください。

[Enterprise Vault Reporting](#) のレポートには、次の方法でアクセスできます。

- [Microsoft SQL Server Reporting Services](#) のレポートマネージャ Web アプリケーションから。
p.56 の「[SQL Server Reporting Services](#) のレポートマネージャからの [Enterprise Vault Reporting](#) のレポートへのアクセス」を参照してください。
- [Enterprise Vault](#) 管理コンソールから。
p.58 の「[管理コンソールからの Enterprise Vault Reporting](#) のレポートへのアクセス」を参照してください。

[Enterprise Vault](#) 管理者役割を割り当てる方法については、『[管理者ガイド](#)』の役割ベースの管理に関する情報を参照してください。

メモ: 役割管理を実行するコンピュータで、Enterprise Vault Reporting の役割ベースのセキュリティの同期を有効にしてください。

p.35 の「[Enterprise Vault の RBA ロールメンバーシップの同期を有効にする](#)」を参照してください。

Enterprise Vault Reporting のレポートにアクセスできる管理者役割

デフォルトの Enterprise Vault 管理者役割のうち、メイン管理者のみが Enterprise Vault Reporting のすべてのレポートにアクセスできます。その他の管理者役割は、その役割に適したレポートへのアクセスを許可します。

- p.53 の「[Enterprise Vault Reporting の処理レポートにアクセスできる管理者ロール](#)」を参照してください。
- p.56 の「[FSA レポートのレポートにアクセスできる管理者役割](#)」を参照してください。

メモ: ボルトサービスアカウントでは、Enterprise Vault Reporting のすべてのレポートにアクセスできます。

管理者役割でレポートにアクセスできる場合、レポートの[プロパティ]タブ、[履歴]タブ、[サブスクリプション]タブにアクセスできます。ただし、[プロパティ]タブでは、[実行]オプションと[履歴]オプション内のみで変更を行うことができます。

Enterprise Vault Reporting の処理レポートにアクセスできる管理者ロール

デフォルトの Enterprise Vault の管理者ロールのうち、メイン管理者のみがすべての Enterprise Vault Reporting にアクセスできます。

レポートは次のようにグループ化されます。

- アーカイブとサーバー:
 - アーカイブクォータの使用状況
 - アーカイブ済みアイテムのアクセス
 - アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向
 - Enterprise Vault サーバーの 24 時間の健全性の状態
 - Enterprise Vault サーバーの 7 日間の健全性の状態
 - アイテムのアーカイブ率

- アーカイブの移動
- コンテンツプロバイダ:
 - コンテンツプロバイダ取り込み履歴
 - コンテンツプロバイダライセンスおよび使用状況の概略
- Domino:
 - Domino メールボックスのアーカイブ状態
 - Domino サーバージャーナルメールボックスアーカイブの健全性
 - Domino サーバージャーナルメールボックスアーカイブの傾向
- Exchange:
 - Exchange メールボックスのアーカイブ状態
 - Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブの健全性
 - Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブの傾向
- 単一インスタンスストレージ
 - ファイルの種類ごとの単一インスタンスストレージ削減
 - ボルトストアグループごとの単一インスタンスストレージ削減
 - 単一インスタンスストレージ削減の概略
- SMTP:
 - SMTP プロビジョニングの概要
- ボルトストア:
 - ボルトストアの保存セット
 - アーカイブごとのボルトストアの使用状況
 - 課金用アカウントごとのボルトストアの使用状況
 - ボルトストアの使用状況の概略

表 7-1 に、デフォルトの管理者役割が利用できる処理レポートを示します。

表 7-1

デフォルトの管理者役割で利用可能な Enterprise Vault Reporting 処理レポート

管理者 ロール	アーカイ ブとサー バー	コンテン ツプロバ イダ	Domino	Exchange	単一イン スタンス ストレージ	SMTP	ボルトス トア
メイン管理 者	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
メッセージ 管理者	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	いいえ
Domino 管理者	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
Exchange 管理者	はい	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
ファイル サーバー 管理者	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
ストレージ 管理者	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
拡張コン テンツプロ バイダ管 理	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
NSF 管理 者	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
インデック ス管理	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
SharePoint 管理者	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
PST 管理 者	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
SMTP 管 理	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ

FSA レポートのレポートにアクセスできる管理者役割

ポルトサービスアカウントでは、Enterprise Vault Reporting のすべてのレポートにアクセスできます。その他のアカウントは、必要なレポートへのアクセスを許可する管理者役割に属している必要があります。

次のデフォルトの Enterprise Vault 管理者役割は、FSA レポートのデータ分析レポートにアクセスできます。

- メイン管理者
- ファイルサーバー管理者

これらの役割は、すべてのデータ分析レポートにアクセスできます。

SQL Server Reporting Services のレポートマネージャからの Enterprise Vault Reporting のレポートへのアクセス

Microsoft SQL Server Reporting Services のレポートマネージャ Web アプリケーションから、Enterprise Vault Reporting のレポートにアクセスできます。

次の点に注意してください。

- Enterprise Vault Reporting をインストールして設定している場合は、処理レポートを利用できます。一部の処理レポートには、Enterprise Vault の監視または Enterprise Vault の監査が有効になるまでデータが表示されない場合があります。
p.29 の「[監視または監査の有効化が必要な Enterprise Vault のレポート](#)」を参照してください。
- データ分析レポートは、FSA レポートを設定し、FSA レポートのデータスキャンを少なくとも 1 回正常に実行した場合に利用できます。FSA レポートのデータスキャンが少なくとも 1 回正常に完了しないと、データ分析レポートにはデータが表示されません。

レポートの名前は変更しないでください。変更すると、一部のレポートに含まれる、他のレポートに対するハイパーリンクが無効になる場合があります。

SQL Server Reporting Services のレポートマネージャから Enterprise Vault Reporting のレポートへのアクセスする方法

- 1 Web ブラウザに次の URL を入力します。

```
http://host_name/reportmgr_webapp_name/
```

それぞれの内容は次のとおりです。

- **host_name** は、Microsoft SQL Server Reporting Services のレポートマネージャ Web アプリケーションの完全修飾ホスト名です。

- `reportmgr_webapp_name` は、Microsoft SQL Server Reporting Services のレポートマネージャ Web アプリケーションの名前です。

次に例を示します。

```
http://jupiter.evdomain.com/Reports/
```

または

```
http://jupiter.evdomain.com/Reports$MyInstance/
```

`MyInstance` は、Microsoft SQL Server Reporting Services のインスタンス名です。

- 2 必要なレポートへのアクセス権がある Enterprise Vault 管理者役割に割り当てられているアカウントのユーザー信用証明を入力します。

p.53 の「Enterprise Vault Reporting のレポートにアクセスできる管理者役割」を参照してください。

- 3 レポートマネージャのホームページから、[Veritas Enterprise Vault]を選択し、*language* を指定します。*language* は、レポートに使う言語です。

- 4 次のいずれかの操作を行います。

- 処理レポートにアクセスするには、[処理レポート]を選択します。
- データ分析レポートにアクセスするには、[データ分析レポート]を選択します。
データ分析レポートを使う前に、FSA レポートを設定し、FSA レポートのデータスキャンを少なくとも 1 回正常に実行する必要があります。

- 5 実行するレポートのリンクをクリックします。

処理レポートを選択すると、Enterprise Vault ではデフォルトの入力パラメータ値によってすぐにレポートが生成されます。

- 6 選択した入力パラメータ値を使ってレポートを実行するには、パラメータ値を入力し、[レポートの表示]をクリックします。

選択した値により他のパラメータの選択肢が変更される場合、レポート画面が更新されるまで少し待たないと残りの値を選択できないことがあります。典型的な例は、[期間]パラメータ値を[先週]から[週の初め]に変更する場合です。この場合、[年]、[月]、[日]パラメータに適切な値が表示されるまで待つ必要があることがあります。

- 7 レポートの出力は複数のページにわたる場合があります。別のページを表示するには、レポートツールバーのページセクタを使います。

レポートツールバーから、レポート内のテキストを検索したり、レポートの表示サイズを変更したりすることもできます。

Microsoft SQL Server Reporting Services の一般的なヘルプについては、レポートマネージャ Web ページの右上にある[ヘルプ]をクリックします。

SQL Server Reporting Services のレポートマネージャからの Enterprise Vault Reporting レポートについて

次の形式でレポートマネージャからのレポートをエクスポートできます。

- Acrobat (PDF)
- CSV (カンマ区切り)
- Excel
- MHTML (Web アーカイブ)
- TIFF ファイル
- Word
- XML

レポートをエクスポートするには、レポートツールバーの[エクスポート]リストから必要な出力形式を選択します。次に[エクスポート]をクリックし、出力する場所を指定します。

サブスクリプションをレポートに設定した場合は、HTML をレンダリング形式として選択することもできます。

SQL Server Reporting Services のレポートマネージャでの Enterprise Vault Reporting のレポートのスケジュール設定について

レポートマネージャから、設定した電子メールアドレスにレポートを送信したり、共有フォルダに保存したりするように、レポートのスケジュールを設定できます。これらの処理を実行するには、Microsoft SQL Server Reporting Services のサブスクリプションのしくみを使います。詳しくはサブスクリプションに関する Microsoft ヘルプを参照してください。

管理コンソールからの Enterprise Vault Reporting のレポートへのアクセス

Enterprise Vault Reporting のレポートには、Enterprise Vault 管理コンソールの[一般的なタスク]からアクセスできます。

管理コンソールの[ボルトストアグループ]コンテナでは、単一インスタンスストレージ削減に関する処理レポートも利用可能です。

管理コンソールのコンテンツプロバイダのコンテナから、コンテンツプロバイダのライセンスの使用状況と取り込み状況の履歴についての操作レポートが利用できます。

次の点に注意してください。

- Enterprise Vault Reporting をインストールして設定している場合は、処理レポートを利用できます。一部の処理レポートには、Enterprise Vault の監視または Enterprise Vault の監査が有効になるまでデータが表示されない場合があります。
p.29 の「[監視または監査の有効化が必要な Enterprise Vault のレポート](#)」を参照してください。
- データ分析レポートは、FSA レポートを設定し、FSA レポートのデータスキャンを少なくとも 1 回正常に実行した場合に利用できます。FSA レポートのデータスキャンが少なくとも 1 回正常に完了しないと、データ分析レポートにはデータが表示されません。

管理コンソールの一般的なタスクから Enterprise Vault Reporting のレポートにアクセスする方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、サイトの階層をサイト名が表示されるまで展開します。
- 2 サイト名を選択します。
- 3 管理コンソールの右ペインで、[Enterprise Vault サーバー管理]をクリックしてサーバー管理オプションを表示します。
- 4 [処理レポートを実行]または[データ分析レポートを実行]をクリックします。
コンテンツプロバイダのライセンスと使用状況の概略を示す操作レポートにアクセスするには、[ライセンスと使用状況の概略レポートを実行する]をクリックします。

管理コンソールの[ボルトストアグループ]コンテナからストレージ削減レポートにアクセスする方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、情報を表示するサイトを展開します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - [ボルトストアグループ]コンテナを右クリックし、ショートカットメニューの[単一インスタンスストレージ削減の概略]をクリックします。
p.113 の「[\[単一インスタンスストレージ削減の概略\]レポート](#)」を参照してください。
 - [ボルトストアグループ]コンテナを展開します。必要なボルトストアグループを右クリックし、ショートカットメニューで次のいずれかをクリックします。
 - ボルトストアグループごとの単一インスタンスストレージ削減
p.111 の「[\[ボルトストアグループごとの単一インスタンスストレージ削減\]レポート](#)」を参照してください。
 - ファイルの種類ごとの単一インスタンスストレージ削減
p.109 の「[\[ファイルの種類ごとの単一インスタンスストレージ削減\]レポート](#)」を参照してください。

管理コンソールのコンテンツプロバイダのコンテナからコンテンツプロバイダのレポートにアクセスする方法

- 1 管理コンソールの左側のペインの、Enterprise Vault ディレクトリにある[拡張]コンテナを展開します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - コンテンツプロバイダのコンテナを右クリックし、ショートカットメニューで[コンテンツプロバイダのライセンスと使用状況の概略レポート]をクリックします。
レポートはすべてのコンテンツプロバイダについてライセンス使用状況と取り込み情報を示します。
[p.94 の「ライセンスを付与しているコンテンツプロバイダおよび使用の概略レポート」](#)を参照してください。
 - コンテンツプロバイダのコンテナをクリックします。次に、右側のペインで、コンテンツプロバイダのインスタンスを右クリックして、ショートカットメニューで[コンテンツプロバイダの取り込み履歴レポート]をクリックします。
レポートは選択したコンテンツプロバイダのインスタンスについて、取り込み履歴を示します。
[p.92 の「コンテンツプロバイダは履歴レポートを摄取します」](#)を参照してください。

FSA Reporting の管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [FSA Reporting の管理](#)
- [FSA レポートの状態の表示](#)
- [ファイルサーバーでのスケジュール設定されていない FSA レポートスキャンの実行](#)
- [FSA レポートスキャンの停止](#)
- [すべての FSA レポートデータコレクションの無効化](#)
- [デフォルトの FSA レポートのデータコレクションスケジュールの変更](#)
- [ファイルサーバーの FSA レポート用データベースの変更](#)
- [FSA Reporting 用データベースの保守](#)
- [Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting 用プロキシサーバーの変更](#)
- [FSA Reporting のデータコレクションパラメータの修正](#)
- [FSA レポートのレポートにある特定のファイルの種類のデータの取得](#)
- [FSA エージェントのアップグレード](#)

FSA Reporting の管理

いくつかのタスクが FSA Reporting と FSA Reporting 用データベースの管理に関連付けられています。

[表 8-1](#) に、これらのタスクを示します。

表 8-1 FSA Reporting の管理

作業	説明
FSA Reporting の状態を表示します。	<p>すべての対象ファイルサーバー、または対象ファイルサーバーの個々のボリュームに関する FSA レポートの状態を表示できます。</p> <p>p.63 の「FSA レポートの状態の表示」を参照してください。</p>
ファイルサーバーでのスケジュール設定されていないスキャンの実行。	<p>最新情報を取得するために、スケジュール設定されていない FSA Reporting のスキャンをファイルサーバーで実行できます。</p> <p>p.66 の「ファイルサーバーでのスケジュール設定されていない FSA レポートスキャンの実行」を参照してください。</p>
FSA Reporting スキャンの停止。	<p>単一のファイルサーバーまたはすべてのファイルサーバー上で現在実行している任意の FSA Reporting スキャンを停止できます。</p> <p>p.67 の「FSA レポートスキャンの停止」を参照してください。</p>
すべての FSA Reporting データコレクションの無効化。	<p>Enterprise Vault サイトにおけるすべての FSA Reporting データコレクションを無効化できます。</p> <p>p.68 の「すべての FSA レポートデータコレクションの無効化」を参照してください。</p>
デフォルトの FSA Reporting のデータコレクションスケジュールを変更します。	<p>必要に応じて、デフォルトのデータコレクションスケジュールを変更できます。</p> <p>p.68 の「デフォルトの FSA レポートのデータコレクションスケジュールの変更」を参照してください。</p>
FSA Reporting 用データベースを管理します。	<p>対象ファイルサーバーに割り当てられた FSA Reporting 用データベースを変更できます。必要に応じて、対象ファイルサーバーに新しい FSA Reporting 用データベースを設定できます。</p> <p>p.69 の「ファイルサーバーの FSA レポート用データベースの変更」を参照してください。</p>

作業	説明
FSA Reporting 用データベースを保守します。	FSA Reporting 用データベースを調整し、Enterprise Vault が確実にメインテナンスを定期的にバージするようにする必要があります。 p.70 の「 FSA Reporting 用データベースの保守 」を参照してください。
Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting 用プロキシサーバーを変更します。	Windows 以外のファイルサーバーの場合、割り当て済みの FSA Reporting 用プロキシサーバーを変更できます。 p.74 の「 Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting 用プロキシサーバーの変更 」を参照してください。
FSA Reporting のデータコレクションパラメータを修正します。	FSA レポートが収集するデータを決定するいくつかのパラメータ値を変更できます。 p.75 の「 FSA Reporting のデータコレクションパラメータの修正 」を参照してください。
FSA Reporting のレポートにある特定のファイルの種類データを取得します。	ファイルグループとファイルの種類に関するデータを提供するレポートに、特定のファイルの種類データが表示されるようにすることができます。 p.78 の「 FSA レポートのレポートにある特定のファイルの種類データの取得 」を参照してください。

FSA レポートの状態の表示

すべての対象ファイルサーバー、または対象ファイルサーバーの個々のボリュームに関する FSA レポートの状態を表示できます。

- p.63 の「[対象ファイルサーバーの FSA レポートの状態を表示する方法](#)」を参照してください。
- p.65 の「[ファイルサーバーのボリュームの FSA レポートの状態を表示する方法](#)」を参照してください。

対象ファイルサーバーの FSA レポートの状態を表示する方法

- 1 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナを展開します。
- 3 [ファイルサーバー]コンテナをクリックします。

管理コンソールの主要ペインには、対象ファイルサーバーが一覧表示され、各ファイルサーバーについて次の情報が示されます。

ファイルサーバー	ファイルサーバーの UNC パス。
レポート	<p>FSA レポートがファイルサーバーに対して有効になっているかどうか。値は次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [有効]。FSA レポートが有効になっています。 ■ 無効。FSA レポートが無効になっています。 ■ [不明]。Enterprise Vault は、FSA レポートがファイルサーバーに対して有効になっているかどうかを判別できません。 <p>ファイルサーバーの[プロパティ]タブから、ファイルサーバーの FSA レポートを有効または無効にすることができます。</p>
レポートのスキヤンの開始時間	最新の FSA レポートスキヤンの開始時間。
レポートのスキヤンの終了時間	<p>正常に実行された最新の FSA レポートスキヤンの終了時間。</p> <p>スキヤンが進行中の場合は時間は表示されません。</p> <p>失敗したスキヤンの終了時間は表示されないことに注意してください。</p>
レポートスキヤンの状態	<p>ファイルサーバーの FSA レポートスキヤンの状態。状態は次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [レポートが有効]。ファイルサーバー上の FSA レポートが有効になっています。現在、スキヤン状態は記録されていません。 ■ [開始]。ファイルサーバーの FSA レポートスキヤンが開始されています。 ■ [停止]。管理者が FSA レポートスキヤンを手動で停止しました。 ■ [完了]。ファイルサーバーの FSA レポートスキヤンが正常に完了しました。 ■ [完了しました (エラーあり)]。1 つ以上のファイルサーバーのボリュームのスキヤンに失敗しました。 <p>p.65 の「ファイルサーバーのボリュームの FSA レポートの状態を表示する方法」を参照してください。</p> ■ [無効]。ファイルサーバーの FSA レポートが無効になっています。 ■ [状態を取得できません]。FSA レポートでファイルサーバーのスキヤン状態を取得できません。

ファイルサーバーのボリュームの FSA レポートの状態を表示する方法

- 1
- 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2
- [対象]コンテナを展開します。
- 3
- [ファイルサーバー]コンテナを展開し、対象ファイルサーバーを表示します。
- 4
- ボリュームの状態情報を表示するファイルサーバーをクリックします。

管理コンソールの主要ペインには、ファイルサーバーの対象ボリュームが一覧表示され、各ボリュームについて次の情報が示されます。

ボリューム	ボリュームの名前。
ポリシー名	このボリュームからアーカイブするときに Enterprise Vault が適用するアーカイブポリシー。
ボルトストア	このボリュームからアーカイブするファイルを Enterprise Vault が格納するボルトストア。
タスク	このボリュームを処理するファイルシステムアーカイブタスク。
アーカイブ	ボリュームのアーカイブの状態。この状態は、[有効]または[無効]です。
レポート	<div>FSA レポートがボリュームに対して有効か無効か。値は次のいずれかです。</div> <div><div>■ [有効]。ボリュームの FSA レポートが有効になっています。</div><div>■ 無効。ボリュームの FSA レポートが無効になっています。</div><div>■ 不明。Enterprise Vault は、FSA レポートがボリュームに対して有効か無効かを判別できません。</div></div>

ボリュームの[プロパティ]タブから、ボリュームの FSA レポートを有効または無効にすることができます。

p.45 の「ファイルサーバーの対象ボリュームに対する FSA レポートのデータコレクションの有効化または無効化」を参照してください。

レポートスキャンの状態 ボリュームの FSA レポートスキャンの状態。スキャンの状態は次のいずれかです。

- [レポートが有効]。ボリュームの FSA レポートが有効になっています。現在、スキャン状態は記録されていません。
- [スキャン保留中]。ファイルサーバースキャンが開始されていますが、ボリュームのスキャンは保留中です。
- [スキャンの開始]。ボリュームのスキャンが開始されました。
- [アーカイブポイントデータの取得]。FSA レポートがボリュームのアーカイブポイントデータを取得しています。
- [アーカイブデータの取得]。FSA レポートがボリュームのアーカイブデータを取得しています。
- [スキャン進行中]。FSA レポートがボリュームのスキャンを実行しています。
- [スキャン済みデータのアップロード]。FSA レポートがボリュームのスキャン済みデータを FSA レポート用データベースにアップロードしています。
- [スキャン完了]。ボリュームのスキャンが正常に完了しました。
- [スキャン失敗]。このボリュームのスキャンが失敗しました。
- [スキャンの手動停止]。管理者がスキャンを停止しました。
- [保守モード]。FSA レポート用データベースは、パージョブ保守モードになっています。データベースがパージョブ保守モードを終了するまで、FSA レポートはデータをデータベースにアップロードできません。
- [無効]。ボリュームの FSA レポートが無効になっています。
- [状態を取得できません]。FSA レポートでボリュームのスキャン状態を取得できません。

ファイルサーバーでのスケジュール設定されていない FSA レポートスキャンの実行

FSA レポートは、デフォルトの FSA レポートスケジュール、または特定のファイルサーバーについて設定されたスケジュールに従ってデータを収集します。

最新情報のレポートを取得するために、スケジュール設定されていない FSA レポート即時スキャンをファイルサーバーで実行できます。

メモ: 別のスキャンが動作している間にスケジュール設定済みのスキャンが開始する予定である場合、FSA レポートはスケジュール設定済みのスキャンを開始しません。FSA レポートはスキャンが次の予定時刻に動作することを示すために Enterprise Vault のイベントログに警告を生成します。

ファイルサーバーでスケジュール設定されていない FSA レポートスキャンを実行する方法

- 1 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナを展開します。
- 3 [ファイルサーバー]コンテナを展開して、追加されているファイルサーバーを表示します。
- 4 スキャンを実行するファイルサーバーを右クリックし、ショートカットメニューの[FSA レポートスキャンを実行]をクリックします。

FSA レポートスキャンの停止

単一のファイルサーバーまたはすべてのファイルサーバー上で現在実行している任意の FSA レポートスキャンを停止できます。これらの手順は、たとえばスキャンの実行中にファイルサーバーを停止する場合に役立ちます。

メモ: これらの手順を実行しても、まだ開始されていないスケジュール済みのレポートスキャンが取り消されることはありません。

ファイルサーバーの FSA レポートスキャンを停止する方法

- 1 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナを展開します。
- 3 [ファイルサーバー]コンテナを展開して、追加されているファイルサーバーを表示します。
- 4 スキャンを停止するファイルサーバーを右クリックし、ショートカットメニューの[FSA レポートスキャンを停止]をクリックします。

すべてのファイルサーバーの FSA レポートスキャンを停止する方法

- 1 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナを展開します。
- 3 [ファイルサーバー]コンテナを右クリックし、ショートカットメニューの[すべてのレポートスキャンを停止]をクリックします。

すべての FSA レポートデータコレクションの無効化

Enterprise Vault サイト内のすべてのファイルサーバー用の FSA レポートを無効化できます。

メモ: この手順を実行した後に FSA レポートデータコレクションを再び有効化する場合、各対象ファイルサーバーのプロパティで再び有効化する必要があります。

すべての FSA レポートデータコレクションを無効にする方法

- 1 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナを展開します。
- 3 [ファイルサーバー]コンテナを右クリックし、ショートカットメニューの[すべての FSA レポートデータコレクションを無効にする]をクリックします。
- 4 続行する場合には、確認ダイアログボックスの[はい]をクリックします。

FSA レポートデータコレクションの無効化が完了すると、各ファイルサーバーにおける FSA レポートデータコレクションの状態がダイアログボックスに表示されます。

デフォルトの FSA レポートのデータコレクションスケジュールの変更

FSA レポートは、対象ファイルサーバーにデフォルト以外のスケジュールが定義されていない場合、そのファイルサーバーのデフォルトのデータコレクションスケジュールを使います。

必要に応じて、デフォルトの FSA レポートのデータコレクションスケジュールを変更できます。

デフォルトの FSA レポートのデータコレクションスケジュールを変更する方法

- 1 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナを展開します。
- 3 [ファイルサーバー]コンテナを右クリックし、ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。
- 4 [レポートのデータコレクション]タブで、必要な情報を変更します。
- 5 [OK]をクリックして変更内容を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

ファイルサーバーの FSA レポート用データベースの変更

さまざまな FSA レポート用データベースに対象ファイルサーバーを割り当てることで、FSA レポートの拡張性を実現できます。

p.23 の「[FSA Reporting データベースについて](#)」を参照してください。

次の手順を実行し、対象ファイルサーバーの割り当て済み FSA レポート用データベースを変更します。別の既存 FSA レポート用データベースを割り当てるか、新しいデータベースを設定することができます。

FSA Reporting 用データベースを変更する前に次を注意してください。

- Enterprise Vault は古いデータベースから新しいデータベースにファイルサーバーのスキャンデータをコピーしません。したがって FSA Reporting の傾向レポートは古いデータベースのデータを含んでいません。
- データベースを変更した後、少なくとも 1 つの FSA レポートスキャンが正常に完了するまで FSA Reporting のレポートにはファイルサーバーのどの情報も示されません。

メモ: ファイルサーバーで FSA レポートのスキャンが進行中であるときには、Enterprise Vault によりこの設定の変更が禁止されます。

ファイルサーバーの FSA レポート用データベースを変更する方法

- 1 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナ、[ファイルサーバー]コンテナの順に展開します。
- 3 データベースを変更する対象ファイルサーバーを右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックします。
- 4 [レポートのデータコレクション]タブで、[FSA レポートのデータコレクションを有効化]が選択されていない場合は、チェックマークを付けます。
- 5 [FSA レポート用のデータベース]の下にある[変更]をクリックします。
- 6 [FSA レポート用データベース設定]ウィザードで、新しいファイルサーバーの FSA レポートデータを保存する FSA レポートデータベースを選択できます。既存のデータベースを選択するか、または新規データベースを作成します。
- 7 ウィザードが完了したら、[レポートのデータコレクション]タブで[OK]をクリックして変更を保存し、ファイルサーバーのプロパティを終了します。

FSA Reporting 用データベースの保守

各 FSA Reporting 用データベースには、1 つ以上の対象ファイルサーバーの FSA Reporting スキャンデータが保存されます。

p.23 の「[FSA Reporting データベースについて](#)」を参照してください。

「[表 8-2](#)」では、各 FSA Reporting 用データベースに関連付けられている保守タスクについて説明します。

表 8-2 FSA Reporting 用データベースの管理

作業	説明
FSA Reporting 用データベースの履歴テーブルを調整します。	履歴テーブルを適度なサイズで維持するには、定期的に FSA Reporting 用データベースの調整ユーティリティを実行する必要があります。 p.70 の「FSA レポート用データベースの履歴テーブルの調整」 を参照してください。
FSA Reporting 用データベースのパージジョブスケジュールを変更します。	データベースの古いデータのメインテーブルをパージする SQL ジョブのスケジュールを変更できます。 p.73 の「FSA レポート用データベースのパージジョブスケジュールの変更」 を参照してください。
FSA Reporting 用データベースのパージジョブを手動で実行します。	何らかの理由でデータベースパージジョブが一時自動的に実行されない場合は、データベースから手動で古いデータをパージできます。 p.74 の「FSA レポート用データベースのパージジョブの手動での実行」 を参照してください。

FSA レポート用データベースの履歴テーブルの調整

最新情報や傾向に関連する情報を保持しながら、管理可能なサイズにテーブルを保つために、各 FSA レポートデータベースの履歴テーブルを定期的に調整してください。Enterprise Vault は調整ユーティリティをこのために提供します。ユーティリティを実行すると、指定期間を過ぎたデータは削除されますが、傾向レポート用のデータは保持されます。

調整ユーティリティの名前は FSAReporting_TrimData.bat です。このファイルは、Enterprise Vault プログラムフォルダの FSARepor_ts サブフォルダ (たとえば次の場所) に存在します。

C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\FSAReports

メモ: Enterprise Vault サーバーからユーティリティを実行するには、SQL Server クライアントツールが Enterprise Vault サーバーにインストールされている必要があります。FSA レポート用データベースが存在する SQL Server コンピュータにユーティリティをコピーして、そこからユーティリティを実行することもできます。

セキュリティ上の理由から、ユーティリティを実行できるのは FSA レポートユーザーのみです。FSA レポートユーザーは FSA レポート設定ウィザードを実行したときに使うように指定した FSA レポート用の Windows ユーザーアカウントです。

メモ: FSA レポート用データベースがパージジョブ保守モードのときは、ユーティリティを実行できません。ユーティリティの実行を試みると説明のメッセージを表示して終了します。

FSA レポート用データベースの履歴テーブルを調整する方法

- 1 デフォルトでは、調整ユーティリティは指定したデータベースがデータを保持するファイルサーバーすべての FSA レポートデータを調整します。ユーティリティを実行するファイルサーバーの一覧を指定するには、調整ユーティリティと同じフォルダに XML ファイルを配置します。この XML ファイルに、次の形式の 1 行を含める必要があります。

```
<FileServerList><FileServer  
Name=' 'Site¥Domain¥FileServer' ' /></FileServerList>
```

それぞれの内容は次のとおりです。

- *Site* は、ファイルサーバーが含まれる Enterprise Vault サイトです。
- *Domain* は、ファイルサーバーのドメインです。
- *FileServer* は、ファイルサーバーのローカル名です。

管理コンソール内でファイルサーバーが IP アドレスを使って指定されている場合でも、ファイルサーバー名には ' 'Site¥Domain¥FileServer' ' の形式を使う必要があります。ファイルサーバー名は、上記のように、二重引用符ではなく 2 組の一重引用符で囲んでください。FSAReports フォルダ内のサンプル XML ファイルに、必要な形式の行が含まれています。

次の例は、FSA レポートデータを調整する 2 つのファイルサーバーを指定したものです。テキストは 1 行で入力する必要があることに注意してください。

```
<FileServerList><FileServer  
Name=' 'EVSite¥MyDomain¥Fileserver1' ' /><FileServer  
Name=' 'EVSite¥MyDomain¥Fileserver2' ' /></FileServerList>
```

- 2 FSA レポートユーザーとしてログオンします。

- 3 コマンドプロンプトウィンドウを開き、調整バッチファイルが含まれるフォルダに移動します。
- 4 調整ユーティリティを実行するには、次のコマンドを 1 行に入力します。

```
FSAReporting_TrimData.bat "SQL_Server" "FSAReportingDB_name"  
trim_period ["server_list"]
```

それぞれの内容は次のとおりです。

- `SQL_Server` は、FSA レポート用データベースが存在する SQL Server の名前です。必要に応じて、`SQLServer1¥instance1` のように SQL Server インスタンス名を含めてください。
- `FSAReporting_db` は調整する FSA レポート用データベースの名前です。
- `trim_period` は、データを保持する期間 (日数) です。指定した日数を経過したデータは削除されます。
- `server_list` は、サーバーの一覧を指定する XML ファイルの名前です。XML ファイルを使わない場合は、ALL を指定します。ユーティリティはデフォルトで ALL の値を使うため、`server_list` 変数を省略することもできます。

パラメータ `SQL_Server`、`FSAReporting_db`、`server_list` は二重引用符で囲む必要があります。

たとえば、次のコマンドは、データが `SQLServer1¥instance1` の `FSAReporting1` という名前のデータベースに保存されているすべてのファイルサーバーについて、過去 30 日間のデータを保持します。

```
FSAReporting_TrimData.bat "SQLServer1¥instance1" "FSAReporting1"  
30 "ALL"
```

次のコマンドは、`SQLServer1` に存在する `FSARepDB` という名前のデータベースに保存されているファイルサーバーのうち、ファイル `fileserverlist.xml` に列記されているものについて、過去 10 日間のデータを保持します。

```
FSAReporting_TrimData.bat "SQLServer1" "FSARepDB" 10  
"fileserverlist.xml"
```

- 5 ユーティリティの出力は、ユーティリティのフォルダの `EV_FSAReporting_TrimOldData.log` に記録されます。このログファイルを調べて、ユーティリティの実行結果を確認します。

FSA レポート用データベースがパージョブ保守モードになっているかどうかの判断

データベースがパージョブ保守モードの場合は、FSA レポート用データベースを調整できません。FSA レポート用データベースがパージョブ保守モードになっているかどうかを判断するには、次のいずれかの方法を使います。

SQL Server Management Studio からパージョブの状態を判断する方法

- 1 FSA レポート用データベースをホストする SQL Server の場合、[SQL Server Agent] サービスの状態が[開始]になっていることを確認します。
- 2 SQL Server Management Studio を起動します。
- 3 [SQL Server エージェント] ノードを展開します。
- 4 [ジョブ] ノードを展開します。
- 5 [EV FSAREporting Purging Job] の[状態]列を確認します。

ジョブの状態が[実行中]の場合、データベースはパージョブ保守モードになっています。

管理コンソールからパージョブの状態を判断する方法

- ◆ FSA レポートスキャンが対象ファイルサーバーで進行中である場合は、管理コンソールの主要ペインでファイルサーバーの FSA レポートスキャンの状態を確認できます。[対象]>[ファイルサーバー] コンテナを選択し、次に対象ファイルサーバーを選択します。データベースがパージョブ保守モードになっている場合、ボリュームの[レポートスキャンの状態]は[保守モード]を示します。

FSA レポート用データベースのパージョブスケジュールの変更

FSA レポートは FSA レポート用データベースごとに SQL パージョブを作成します。パージョブを実行すると、FSA レポート用データベースのメインテーブルからデータベースの履歴テーブルにデータが移動されます。デフォルトでは、FSA レポート用データベースの各パージョブは、毎日午後 9 時に実行されます。必要であればパージョブのスケジュールを変更できます。

FSA レポート用データベースのパージョブスケジュールを変更する方法

- 1 FSA レポート用データベースをホストする SQL Server の場合、[SQL Server Agent] サービスの状態が[開始]になっていることを確認します。
- 2 SQL Server Management Studio を起動します。
- 3 [SQL Server エージェント] ノードを展開します。
- 4 [ジョブ] ノードを展開します。

- 5 [EV FSAREporting Purging Job *FSAREporting_db*]を右クリックします。
*FSAREporting_db*は変更するパージジョブが含まれているデータベースの名前です。
- 6 ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。
- 7 [スケジュール]ページに移動します。
- 8 スケジュールの一覧で[EV FSAREporting Purging Job Schedule]を選択し、[編集]をクリックします。
- 9 必要に応じて、パージジョブのスケジュールを変更します。

FSA レポート用データベースのパージジョブの手動での実行

FSA レポートは FSA レポート用データベースごとに FSA レポート用データベースの個別のパージジョブを含んでいます。パージジョブを実行すると、データベースのメインテーブルから履歴テーブルにデータが移動されます。

何らかの理由でジョブが一時自動的に実行されない場合は、FSA レポート用データベースのパージジョブを手動で実行できます。

FSA レポート用データベースのパージジョブを手動で実行する方法

- 1 パージする 1 つ以上のデータベースをホストする SQL Server の場合、[SQL Server Agent]サービスの状態が[開始]になっていることを確認します。
- 2 SQL Server Management Studio を起動します。
- 3 [SQL Server エージェント]ノードを展開します。
- 4 [ジョブ]ノードを展開します。
- 5 [EV FSAREporting Purging Job *FSAREporting_db*]を右クリックします。
FSAREporting_db はパージするデータベースの名前です。

ショートカットメニューからオプション[Start Job]か[Start Job At]を選択します。

[Start Jobs] ウィンドウが開き、ジョブの進捗に応じてそのジョブの状態が表示されます。

Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting 用プロキシサーバーの変更

Windows 以外のファイルサーバーのデータコレクションを実行する FSA Reporting 用プロキシサーバーを変更できます。

必要な前提条件を満たせば、次の任意のサーバーを FSA Reporting のプロキシサーバーとして機能させることができます。

- Enterprise Vault サイトの Enterprise Vault サーバー。

- Enterprise Vault サイトのアーカイブ対象として設定された Windows ファイルサーバー。
- ネットワーク上の Windows サーバー。サーバーは Enterprise Vault サーバーと同じドメイン、または子ドメイン、または信頼済みのドメインに存在する必要があります。

p.18 の「[Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting のプロキシサーバーについて](#)」を参照してください。

p.21 の「[FSA Reporting プロキシサーバーの必要条件](#)」を参照してください。

メモ: ファイルサーバーで FSA レポートのスキャンが進行中であるときには、Enterprise Vault によりこの設定の変更が禁止されます。

Windows 以外のファイルサーバーの FSA Reporting 用プロキシサーバーを変更する方法

- 1 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナ、[ファイルサーバー]コンテナの順に展開します。
- 3 プロキシサーバーを変更する Windows 以外のファイルサーバーを右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックします。
- 4 [レポートのデータコレクション]タブで、[FSA レポートのデータコレクションを有効化]が選択されていない場合は、チェックマークを付けます。
- 5 [FSA Reporting 用のプロキシサーバー]の下にある[変更]をクリックします。
- 6 [プロキシサーバーの選択ウィザード]で、FSA Reporting のデータコレクションを実行するためのプロキシサーバーを選択できます。既存の FSA Reporting 用プロキシサーバーを選択するか、または新しいプロキシサーバーを設定します。
- 7 [レポートのデータコレクション]タブで、[OK]をクリックして変更を保存し、ファイルサーバーのプロパティを終了します。

FSA Reporting のデータコレクションパラメータの修正

いくつかのパラメータの値を変更して、FSA レポートのために Enterprise Vault ファイルコレクションサービスによって収集されるデータを決定することができます。次のことを決定できます。

- 重複ファイルに関するレポートのデータをファイルコレクションサービスによって収集するかどうか。
- 非アクティブなファイルに関する 3 つのレポートで選択可能な休止期間のオプション。
- [ボリュームごとの最もサイズの大きいファイル]レポートで使われるパラメータ。

メモ: 設定値の変更は、スキャン時間の増加と FSA Reporting 用データベースのサイズの増加という結果になることがあります。

これらのパラメータの値のいずれかを変更するには、Enterprise Vault ディレクトリデータベースの SQL Server の [FSAReportingConfiguration] テーブルでパラメータ値を編集する必要があります。

メモ: データベーステーブルを編集する場合は十分に注意してください。変更を行う前にデータベースのバックアップを取ってください。

表 8-3 は値を変更することができるパラメータの詳細をリストします。

表 8-3 「EnterpriseVaultDirectory」データベースの [FSAReportingConfiguration] テーブルで編集可能なパラメータ

パラメータ	説明	設定されている値 (単位)
CheckDuplicates	次の重複ファイルに関するレポートのデータをファイルコレクションサービスによって収集するかどうかを決定するブール値。 <ul style="list-style-type: none">■ サーバー上の重複ファイル■ 重複ファイルの概略■ ボリュームごとの上位重複ファイル これらのレポートのデータはファイルコレクションサービスによってデフォルトでは収集されません。このデータを収集すると、ファイルコレクションサービスのパフォーマンスが少し低下します。 重複ファイルに関するレポートのデータを収集する場合は、このパラメータを[True]に設定します。	False
DAYSOLD	ファイルコレクションサービスによって非アクティブなファイルに関する 3 つのレポートのデータが収集される期間(日数)のリスト。このリストによって、レポートの実行時の[間隔]入力パラメータのオプションが定義されます。 このリストには、カンマで区切った値を昇順で最大 10 個含めることができます。	90、180、365、730 (日)

パラメータ	説明	設定されている値 (単位)
MBLarge	Enterprise Vault によって[ボリュームごとの最もサイズの大きいファイル]レポートに含まれる最小ファイルサイズを定義するサイズ (MB)。 最小サイズを設定しない場合は、0 の値を入力します。	1024 (MB)
TopFiles	[ボリュームごとの最もサイズの大きいファイル]レポートに表示されるファイルの数。 この値を変更するには、0 から 100 の範囲の数値を入力します。値を 0 に設定すると、レポートのデータは FSA Reporting によって収集されません。 メモ: ボリューム内にある MBLarge 以上のサイズのファイルの数が TopFiles 値よりも少ない場合は、TopFiles 値よりも少ない数のファイルがレポートに一覧表示されます。	10 (ファイル)

FSA Reporting のデータコレクションパラメータを修正する方法

- 1 SQL Server Management Studio を起動します。
- 2 [EnterpriseVaultDirectory] データベースのコンテナを展開します。
- 3 [FSAReportingConfiguration] テーブルを右クリックして[上位 *n* 行の編集]を選択します。
- 4 必要に応じて、適切なパラメータの値を変更します。
- 5 変更を保存し、SQL Server Management Studio を終了します。
- 6 パラメータの値のいずれかを変更したら、次のとおり行います。
 - Windows ファイルサーバーの場合、Enterprise Vault ファイルコレクションサービスを再起動します。
 - FSA Reporting 用プロキシサーバーが Windows ファイルサーバーのアーカイブ対象または Windows コンピュータである Windows 以外のファイルサーバーの場合、プロキシサーバーで Enterprise Vault ファイルコレクションサービスを再起動します。
 - FSA Reporting 用プロキシサーバーが Enterprise Vault サーバーである Windows 以外のファイルサーバーの場合、プロキシサーバーで Enterprise Vault の管理サービスを再起動します。

FSA レポートのレポートにある特定のファイルの種類のデータの取得

次の FSA レポートのデータ分析レポートには、ファイルグループとファイルの種類についてのデータが含まれています。

- サーバー上のファイルグループの領域使用量
- ファイルグループの領域使用量の概略
- サーバー上のファイルグループごとの非アクティブなファイル
- アーカイブポイント上のファイルの領域使用量 ([アーカイブポイントの領域使用量の概略] レポートからアクセス)

Enterprise Vault 8.0 SP3 以降、これらのレポートには、スキャン実行時にファイルグループ内に含まれているファイルの種類ごとにのみ個別のデータが表示されます。FSA レポートは、どのファイルグループにも含まれていないファイルの種類について集約したデータを結合します。レポートでは、この結合データは[ファイルグループ]列の[その他]のエントリの[misc]というファイルの種類として表示されます。

メモ: FSA レポートでは、ファイル名の末尾から最初のピリオドを検索してファイルの種類を判別します。たとえば、FSA レポートでは、abcd.ef.ghi という名前のファイルの種類は .ghi であると分類します。

たとえば、次を含むボリュームで FSA レポートスキャンを実行したとします。

- ファイルの種類は *.doc と *.xls で、ファイルグループは「Office Files」。
- ファイルの種類は *.001、*.002、*.003 で、どのファイルグループにも含まれていない。

この場合、レポートには、ファイルグループ「Office Files」のデータにファイルの種類が *.doc と *.xls のデータが個別に表示されます。[ファイルグループ]列の[その他]のエントリを展開し、[ファイルの種類]列の[misc]のデータを表示すると、ファイルの種類 *.001、*.002、*.003 の結合データを表示できます。

メモ: ファイルグループ内で 1000 を超えるファイルの種類を指定すると、管理コンソールによって警告メッセージが表示されます。このように多くのファイルの種類のデータを管理すると、FSA レポートのパフォーマンスが低下する場合があります。警告メッセージでは、FSA レポートを使う場合はファイルの種類の数を減らすように指示されます。

FSA レポートのレポートにある特定のファイルの種類のデータを取得する方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。

- ファイルの種類が既存のファイルグループに含まれていることを確認します。
 - または、新しいファイルグループを作成し、ファイルの種類を新しいファイルグループに含めます。
- 2 ファイルサーバーの新しい FSA レポートスキャンが完了するまで待ちます。

FSA エージェントのアップグレード

Enterprise Vault をアップグレードした場合は、Windows の対象ファイルサーバーと Enterprise Vault サーバーではない任意の FSA Reporting 用プロキシサーバーで、FSA エージェントのバージョンをアップグレードしなければならないことがあります。

FSA Reporting を使うときに互換性のある FSA エージェントのバージョンのリストについては、Veritas サポート Web サイトの次のテクニカルノートを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100030221>

次の点に注意してください。

- FSA エージェントが FSA Reporting 用プロキシサーバーとして機能する場合でも、FSA エージェントを Enterprise Vault サーバーにインストールしないでください。Enterprise Vault サーバーには FSA エージェントは必要ありません。
- アップグレードプロセスで、ファイルサーバーの強制再起動を確認するメッセージが表示されます。

Windows の対象ファイルサーバーの FSA エージェントをアップグレードする前に、アップグレードが進行する間、Enterprise Vault はファイルサーバーの 3 つの FSA エージェントサービスを停止することに注意してください。

- Enterprise Vault ファイルブレースホルダサービス。このサービスが停止する間、Enterprise Vault は Windows ファイルサーバーでブレースホルダを作成することも、ブレースホルダ呼び戻しを実行することもできません。
- Enterprise Vault ファイルコレクションサービス。このサービスが停止する間、FSA Reporting スキャンは次で動作しません。
 - ファイルサーバー。
 - ファイルサーバーが FSA Reporting のプロキシサーバーとして機能する Windows 以外のファイルサーバー。
- Enterprise Vault ファイル遮断サービス。Enterprise Vault 12.3 ではファイル遮断はサポートされません。Enterprise Vault 12.1 以前からアップグレードしている場合は、アップグレードプロセスで、ファイルサーバーからファイル遮断サービスが削除されます。

Windows の対象ファイルサーバーの FSA エージェントをアップグレードする方法

- 1 ファイルサーバーのファイアウォールが有効な場合、ファイアウォールが適切に設定されていることを確認します。設定が適切でないと、インストールは失敗します。
『ファイルシステムのアーカイブの設定』の FSA 用のファイルサーバーのファイアウォール設定に関する説明を参照してください。
または、FSA エージェントの手動インストールを実行します。
『ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定』の FSA エージェントの手動インストールに関する説明を参照してください。
- 2 ファイルサーバーのローカル管理者グループのメンバーであるアカウントを使用して、管理コンソールを実行してください。
- 3 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 4 [対象]コンテナを展開します。
- 5 [ファイルサーバー]コンテナを展開します。
- 6 FSA エージェントをインストールするファイルサーバーを右クリックし、ショートカットメニューで[FSA エージェントのインストール]をクリックします。[FSA エージェントのインストール]ウィザードが起動します。
- 7 ファイルサーバーの FSA エージェントのバージョンをアップグレードするためにウィザードの手順に従います。

Windows 以外の対象ファイルサーバーの FSA Reporting のプロキシサーバーの FSA エージェントをアップグレードする方法

- 1 FSA Reporting プロキシサーバーのファイアウォールが有効な場合、ファイアウォールが適切に設定されていることを確認します。設定が適切でないと、インストールは失敗します。
『ファイルシステムのアーカイブの設定』の FSA 用のファイルサーバーのファイアウォール設定に関する説明を参照してください。
または、FSA エージェントの手動インストールを実行します。
『ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定』の FSA エージェントの手動インストールに関する説明を参照してください。
- 2 プロキシサーバーのローカル管理者グループのメンバーであるアカウントを使用して、管理コンソールを実行してください。
- 3 管理コンソールで、[対象]コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 4 [対象]コンテナを展開します。
- 5 [ファイルサーバー]コンテナを展開します。

- 6 ファイルサーバーを右クリックし、ショートカットメニューで[FSA レポート用のプロキシサーバーの FSA エージェントをアップグレード]をクリックします。

このオプションはプロキシサーバーが Enterprise Vault サーバーなら利用可能ではないです。Enterprise Vault サーバーは FSA エージェントを実行しません。

プロキシサーバーが Windows の対象ファイルサーバーの場合、Enterprise Vault は、アップグレードの続行中、FSA エージェントサービスが停止することを警告するダイアログボックスを表示します。続行する場合には[はい]をクリックします。

- 7 プロキシサーバーの FSA エージェントのバージョンをアップグレードするためにウィザードの手順に従います。

Enterprise Vault Reporting のトラブルシューティング

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault Reporting のトラブルシューティングについて](#)

Enterprise Vault Reporting のトラブルシューティング について

Enterprise Vault テクニカルノートには、Enterprise Vault Reporting および FSA Reporting での問題のトラブルシューティング方法に関する情報が記載されています。

[表 9-1](#) に、テクニカルノートを示します。

表 9-1 Enterprise Vault Reporting のトラブルシューティングに関するテクニカルノート

テクニカルノート	説明と参照先
Enterprise Vault Reporting のトラブルシューティング	Enterprise Vault Reporting の FSA Reporting 以外の機能のトラブルシューティング方法について説明しています。 https://www.veritas.com/docs/100018177 を参照してください。
FSA Reporting のトラブルシューティング	FSA Reporting のトラブルシューティング方法について説明しています。 https://www.veritas.com/docs/100029185 を参照してください。

レポートの概要

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault Reporting](#) の処理レポート
- [FSA Reporting](#) のデータ分析レポート

Enterprise Vault Reporting の処理レポート

Enterprise Vault Reporting の処理レポートには、次のトピックに関する情報が含まれます。

- Exchange と Domino メールボックスのアーカイブ状態、健全性、傾向。
- コンテンツプロバイダに付与されたライセンスの使用容量と取込履歴。
- ボルトストアあたりのアーカイブされるアイテムのボリューム。
- Enterprise Vault アーカイブの状態。
- ユーザーあたりのアーカイブクォータの使用状況。
- アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向。
- SMTP プロビジョニンググループ。
- アーカイブまたは課金用アカウント別のボルトストアの使用状況。
- Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによるストレージ削減。
- 保存セットと収集の数。

[表 A-1](#) に、各処理レポートの簡単な説明を示し、個々のレポートに特別な必要条件がある場合はそれも示します。

表 A-1 Enterprise Vault Reporting の処理レポート

処理レポート	説明	必要条件
アーカイブクォータの使用状況	<p>選択した Enterprise Vault サイト内の選択したユーザーまたはすべてのユーザーのアーカイブ済みアイテムの現在のサイズとアーカイブの使用限度が表示されます。</p> <p>p.87 の「[アーカイブクォータの使用状況]レポート」を参照してください。</p>	
アーカイブ済みアイテムのアクセス	<p>指定した期間に、各ボルトストアからアクセスされたアイテム数、それらのアイテムにアクセスしたユーザー数が表示されます。</p> <p>p.88 の「[アーカイブ済みアイテムのアクセス]レポート」を参照してください。</p>	Enterprise Vault の監査
アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向	<p>すべてのアーカイブで指定した期間内にアイテムにアクセスするユーザー数、アクセスされるアイテム数の傾向が表示されます。</p> <p>p.89 の「[アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向]レポート」を参照してください。</p>	Enterprise Vault の監査
コンテンツプロバイダ取り込み履歴	<p>選択された期間内にコンテンツプロバイダまたはコンテンツプロバイダのインスタンスが Enterprise Vault に取り込んだアイテムの数と合計サイズを示します。</p> <p>p.92 の「コンテンツプロバイダは履歴レポートを撮取します」を参照してください。</p>	
コンテンツプロバイダライセンスおよび使用状況の概略	<p>Enterprise Vault のキャパシティライセンスに残っているライセンスがあるキャパシティ、またはライセンスがあるキャパシティを超過している数量、ライセンスの補正発注が必要かどうかが表示されます。また、Enterprise Vault のコンテンツプロバイダや外部のコンテンツプロバイダが Enterprise Vault に取り込んだデータの量も示されます。</p> <p>p.94 の「ライセンスを付与しているコンテンツプロバイダおよび使用の概略レポート」を参照してください。</p>	
Domino メールボックスのアーカイブ状態	<p>指定した Domino サーバーまたはプロビジョニンググループの各メールボックスのアーカイブ状態が表示されます。</p> <p>p.96 の「[Domino メールボックスのアーカイブ状態]レポート」を参照してください。</p>	

処理レポート	説明	必要条件
Domino サーバージャーナルメールボックスアーカイブの健全性	Enterprise Vault サーバー上の Domino サーバージャーナルメールボックスのアーカイブ対象ごとに[受信トレイの総数]や[アーカイブ保留中]などのメールボックスのパラメータの状態が表示されます。 p.98 の「 [Domino サーバージャーナルメールボックスアーカイブの健全性]レポート 」を参照してください。	Enterprise Vault の監視
Domino サーバージャーナルメールボックスアーカイブの傾向	選択した Domino サーバーについて、指定した期間の[受信トレイの総数]、[アーカイブ保留中]、[アーカイブ可能]、[失敗した操作]の各パラメータ値の傾向が表示されます。 p.99 の「 [Domino サーバージャーナルメールボックスアーカイブの傾向]レポート 」を参照してください。	Enterprise Vault の監視
Enterprise Vault サーバーの 24 時間の健全性の状態	選択した 24 時間での選択した Enterprise Vault サーバー上の選択した Enterprise Vault サービスまたは長時間実行タスク (メールボックスアーカイブタスクまたはジャーナルタスク) の状態が表示されます。 p.100 の「 [Enterprise Vault サーバーの 24 時間の健全性の状態]レポート 」を参照してください。	Enterprise Vault の監視
Enterprise Vault サーバーの 7 日間の健全性の状態	選択した 7 日間での指定した Enterprise Vault サーバー上の選択した Enterprise Vault サービスと長時間実行タスク (メールボックスアーカイブタスクとジャーナルタスク) の状態が表示されます。 p.101 の「 [Enterprise Vault サーバーの 7 日間の健全性の状態]レポート 」を参照してください。	Enterprise Vault の監視
Exchange メールボックスのアーカイブ状態	指定した Microsoft Exchange Server またはプロビジョニンググループの各メールボックスのアーカイブ状態が表示されます。 p.102 の「 [Exchange メールボックスのアーカイブ状態]レポート 」を参照してください。	
Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブの健全性	選択した Enterprise Vault サーバーのすべてのポルトストアに存在する Microsoft Exchange ジャーナルメールボックスのアーカイブの現在の状態が表示されます。 p.103 の「 [Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブの健全性]レポート 」を参照してください。	Enterprise Vault の監視

処理レポート	説明	必要条件
Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブの傾向	<p>選択した日や週での指定した Microsoft Exchange Server のジャーナルメールボックスのアーカイブの傾向が表示されます。</p> <p>p.104 の「[Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブの傾向]レポート」を参照してください。</p>	Enterprise Vault の監視
IMAP 使用状況レポート	<p>IMAP が有効になっているユーザーの数、アーカイブのアーカイブ済みデータ量が表示されます。</p> <p>p.105 の「IMAP 使用状況レポート」を参照してください。</p>	
アイテムのアーカイブ率	<p>Enterprise Vault が各指定期間 (時間、日、月、または年) にアーカイブしたアイテムのデータを提供します。データには、アーカイブされたアイテムの数、アイテムのサイズ情報、節約された領域が含まれています。指定のボルトストア、またはサイトのすべてのボルトストアのレポートを生成できます。</p> <p>p.106 の「[アイテムのアーカイブ率]レポート」を参照してください。</p>	
アーカイブの移動	<p>選択済みの移動状態で、選択した期間に実行されたアーカイブ移動処理の詳細が表示されます。</p> <p>p.108 の「[アーカイブの移動]レポート」を参照してください。</p>	
ファイルの種類ごとの単一インスタンスストレージ削減	<p>ボルトストアグループに含まれるファイルの各種類について、Enterprise Vault 単一インスタンスストレージによって発生したストレージ削減が表示されます。</p> <p>p.109 の「[ファイルの種類ごとの単一インスタンスストレージ削減]レポート」を参照してください。</p>	
ボルトストアグループごとの単一インスタンスストレージ削減	<p>ボルトストアグループの各ボルトストアについて、Enterprise Vault 単一インスタンスストレージによって発生したストレージ削減が表示されます。</p> <p>p.111 の「[ボルトストアグループごとの単一インスタンスストレージ削減]レポート」を参照してください。</p>	
単一インスタンスストレージ削減の概略	<p>サイト全体の各ボルトストアグループについて、Enterprise Vault 単一インスタンスストレージによって発生したストレージ削減が表示されます。</p> <p>p.113 の「[単一インスタンスストレージ削減の概略]レポート」を参照してください。</p>	

処理レポート	説明	必要条件
SMTP プロビジョニングの概要	SMTP プロビジョニンググループの数とプロビジョニングを使用する SMTP アーカイブが有効になっている Active Directory ユーザーの数を示します。 p.115 の「 SMTP プロビジョニングレポート 」を参照してください。	
ボルトストアの保存セット	選択した Enterprise Vault サイト内の各ボルトストアの未収集の保存セット数、収集済みの保存セット数、未移行の収集の数、移行済みの収集の数が表示されます。 p.115 の「 [ボルトストアの保存セット]レポート 」を参照してください。	
アーカイブごとのボルトストアの使用状況	選択したボルトストア内の各アーカイブのサイズと状態が表示されます。 p.116 の「 [アーカイブごとのボルトストアの使用状況]レポート 」を参照してください。	
課金用アカウントごとのボルトストアの使用状況	選択したボルトストアの課金用アカウント別の使用状況が表示されます。 p.118 の「 [課金用アカウントごとのボルトストアの使用状況]レポート 」を参照してください。	
ボルトストアの使用状況の概略	選択した Enterprise Vault サイトの各ボルトストアの使用状況が表示されます。 p.119 の「 [ボルトストアの使用状況の概略]レポート 」を参照してください。	

必要条件の列には、そのレポートの特別な必要条件を示しています。

- 「Enterprise Vault の監査」または「Enterprise Vault の監視」は、データを表示するレポートに対して Enterprise Vault の監査または Enterprise Vault の監視を設定する必要があることを示します。
p.29 の「[監視または監査の有効化が必要な Enterprise Vault のレポート](#)」を参照してください。

[アーカイブクォータの使用状況]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、選択した Enterprise Vault サイト内の選択したユーザーまたはすべてのユーザーのアーカイブ済みアイテムの現在のサイズとアーカイブの使用限度が表示されます。

表 A-2 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-2 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ユーザー名	ユーザーを選択するか、または[すべて]を選択してすべてのユーザーの概略レポートを取得します。

表 A-3 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、選択したユーザーについてグラフ形式で表示されるか、すべてのユーザーについて表形式で表示されます。

表 A-3 レポート出力

項目	説明
ユーザー名	データが表示されるユーザー。
アーカイブ済みの合計サイズ (MB)	ユーザーのアイテムの合計サイズ。
限度サイズ (MB)	アーカイブサイズの限度。
限度の状態	アーカイブサイズの限度の状態 ([有効]または[無効])。[無効]の場合、サイズの限度はありません。
限度の設定	<p>限度の設定の継承元。次のいずれかの場所を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [サイトから]。[サイトプロパティ]からサイズの限度を継承します。 ■ [ボルトストアから]。[ボルトストアプロパティ]からサイズの限度を継承します。 ■ [アーカイブから]。ボルトストアのアーカイブのプロパティでサイズの限度を設定します。

[アーカイブ済みアイテムのアクセス]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、指定した期間に、各ボルトストアからアクセスされたアイテム数、それらのアイテムにアクセスしたユーザー数が表示されます。

メモ: Enterprise Vault の監査を無効にすると、このレポートには処理するデータがなくなります。監査は管理コンソールから有効に設定できます。

表 A-4 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-4 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
監査レベル	レポートが生成される期間に設定された監査のレベルによって、[詳細]または[概略]を選択します。
期間	[先週]、[週の初め]、[特定日]、[月の初め]から選択します。
開始年、開始月、開始日	[週の初め]、[特定日]、[月の初め]を選択した場合は、これらのパラメータを使って開始日を指定します。

表 A-5に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、サイト内の各ボルトストアについて表形式で表示されます。

表 A-5 レポート出力

項目	説明
ボルトストア名	データが表示されるボルトストアの名前。
実行されたアクセス数	選択した期間内にユーザーがこのボルトストアからアイテムにアクセスした合計回数。
アクセスされた個々のアイテム数	ユーザーがアクセスした異なるアイテムの数。
アイテムにアクセスした個々のユーザー数	アイテムにアクセスした異なるユーザーの数。

たとえば、ユーザー A とユーザー B の両方がアイテム 1 と 2 に 2 回ずつアクセスし、ユーザー B がアイテム 3 に 1 回アクセスした場合は、次のようになります。

- [実行されたアクセス数]= 5
- [アクセスされた個々のアイテム数]= 3
- [アイテムにアクセスした個々のユーザー数]= 2

[アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、すべてのアーカイブで指定した期間内にアイテムにアクセスするユーザー数、アクセスされるアイテム数の傾向が表示されます。

メモ: Enterprise Vault の監査を無効にすると、このレポートには処理するデータがなくなります。監査は管理コンソールから有効に設定できます。

表 A-6 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-6 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
監査レベル	レポートが生成される期間に設定された監査のレベルによって、[詳細] または[概略]を選択します。
期間	[先週]、[週の初め]、[特定日]、[月の初め]から選択します。
開始年、開始月、開始日	[週の初め]、[特定日]、[月の初め]を選択した場合は、これらのパラメータを使って開始日を指定します。

表 A-7 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、指定した期間のすべてのアーカイブについてグラフ形式で表示されます。

表 A-7 レポート出力

項目	説明
アイテムにアクセスする異なるユーザーの数と実行されたアクセスの総数の傾向	<ul style="list-style-type: none"> ■ 緑の線はアーカイブへのアクセス総数の傾向を示します。 ■ 青の線はアーカイブにアクセスする個々のユーザー数の傾向を示します。
アクセスされた異なるアイテムの数と実行されたアクセスの総数の傾向	<ul style="list-style-type: none"> ■ 緑の線はアーカイブへのアクセス総数の傾向を示します。 ■ 青の線はアーカイブからアクセスされた個々のアイテム数の傾向を示します。

p.90 の「[\[アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向\]レポートのサンプル出力](#)」を参照してください。

[アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向]レポートのサンプル出力

この簡単な例では、Enterprise Vault Reporting の[アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向]レポートの出力を示します。

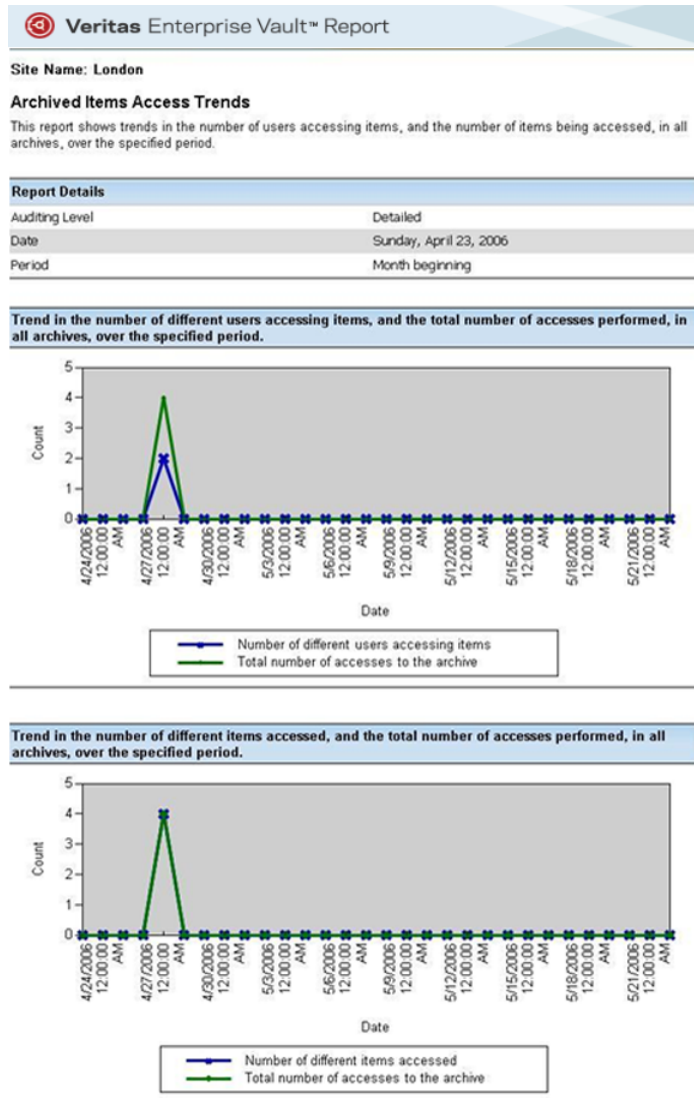
アーカイブに 4 つのアイテムが含まれ、2 人のユーザーがアイテムにアクセスしていることを示しています。ユーザー A は 2 つの異なるアイテムにアクセスし、ユーザー B はその他の 2 つの異なるアイテムにアクセスしています。

ユーザー A はアーカイブに 2 回アクセスし、ユーザー B も 2 回アクセスしているので、1 番目のグラフの緑色の線は 4 を示しています。2 人のみの別個のユーザーを対象にしているので、青色の線は 2 を示しています。

2 番目のグラフでは、緑色の線は 4 (1 番目のグラフに示されているように、合計アクセス数は 4) を示しています。ただし、4 つの別個のアイテムにアクセスしているので青色の線も 4 を示しています。したがって、青色の線と緑色の線は重なっています。

図 A-1 に、この例の出力を表わすレポートを示します。

図 A-1 [アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向]レポートの例



コンテンツプロバイダは履歴レポートを摄取します

このレポートは、コンテンツプロバイダまたはコンテンツプロバイダインスタンスがアーカイブの目的で指定した期間に Enterprise Vault に提示した項目の数および合計サイズを表示します。

メモ: このレポートに含まれるのは、Enterprise Vault 10.0.4 以降で取り込まれたデータのみです。

レポートの入力パラメータ

表 A-8 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-8 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
コンテンツプロバイダ	取り込み履歴データを表示するコンテンツプロバイダを選択します。
コンテンツプロバイダインスタンス	コンテンツプロバイダインスタンスを選択するか、または[すべて]を選択してコンテンツプロバイダのすべてのインスタンスの結合データを表示します。
期間	[最新 24 時間]、[今週]、[先週]、[今月]、[先月]、[今年]、または[昨年]の中から選択します。レポートには、この期間の取り込み率が示されます。

レポート出力

表 A-9 に、指定したコンテンツプロバイダまたはコンテンツプロバイダインスタンスについてレポートで提供される情報を示します。

表 A-9 レポート出力

項目	説明
コンテンツプロバイダ使用サマリ	このレポートには次の情報が示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 指定した期間中に Enterprise Vault に取り込まれた項目の合計数 指定した期間中に Enterprise Vault に取り込まれた項目の合計サイズ 指定した期間中の、項目数およびテラバイトごとの平均取り込み率。
<interval>間のコンテンツプロバイダの使用	2 つのグラフで次の情報を視覚的に示します。 <ul style="list-style-type: none"> 指定した期間中の間隔ごとに取り込まれた項目数。 指定した期間中の間隔ごとに取り込まれたテラバイト単位での項目サイズ。

項目	説明
<interval>間のコンテンツプロバイダの使用についての詳細	<p>この表には次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 指定した期間中の間隔ごとに取り込まれた項目数。 ■ 指定した期間中の間隔ごとに取り込まれたテラバイト単位での項目サイズ。 ■ 指定した間隔ごとの、項目数およびテラバイトごとの平均取り込み率。

レポートが使う時間の間隔は選択された[期間]によって次のようになります。

表 A-10 取り込み履歴レポートの出力で使われる間隔

選択したレポートの期間	レポート内で使われている間隔
最新 24 時間	時間
今週、または先週	日単位
今月、または先月	週
今年、または昨年	月単位

ライセンスを付与しているコンテンツプロバイダおよび使用の概略レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートは次の情報を提供します。

- Veritas Enterprise Vault 容量のライセンスの使用。レポートは、残りのライセンス容量とライセンス容量の超過分を示します。データは Enterprise Vault Archiving と Enterprise Vault Extensions で個別に表示されます。ライセンス容量を超えた場合、レポートはライセンスの調整が必要であることを警告します。
- すべてのコンテンツプロバイダによって Enterprise Vault に取り込まれたデータの合計量。容量のライセンスとユーザー単位のライセンスの両方。アーカイブの種類と各コンテンツプロバイダによって取り込まれたの量を示すためにレポートの表を展開できます。

レポートの入力パラメータ

表 A-11 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

メモ: レポートは、ライセンス容量および FSA/SharePoint のライセンスタイプに入力する値に基づいて、容量のライセンスの使用を計算します。有意義な出力を入手するためには、これらのパラメータに正しい値を入力してください。

表 A-11 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択するか、すべてのサイトでレポートを受信するように[すべて]を選択します。
FSA/SharePoint のライセンスの種類	容量ライセンス、ユーザーあたりのライセンス、なしのいずれかを選択します。レポートは Enterprise Vault Archiving のライセンス容量残高を計算するときに、この情報を使います。
Veritas Enterprise Vault Archiving ライセンス容量 (TB)	Veritas Enterprise Vault Archiving の合計容量を入力します (TB)。レポートはライセンス容量残高を計算するときに、この値を使います。 Veritas Enterprise Vault Archiving 容量ライセンスがない場合は、0を入力します。
Veritas Enterprise Vault Extensions ライセンス容量 (TB)	Veritas Enterprise Vault Extensions の容量を入力します (TB)。レポートはライセンス容量残高を計算するときに、この値を使います。 Veritas Enterprise Vault Extensions 容量ライセンスがない場合は、0を入力します。

レポート出力

レポートの最初のテキストおよびライセンスの使用の概略は、残りの Veritas Enterprise Vault ライセンス容量または超過分を示します。データは次のように個別に表示されます。

- Veritas Enterprise Vault Archiving コンテンツプロバイダ
- Veritas Enterprise Vault Extensions コンテンツプロバイダ

ライセンス容量を超えた場合、Veritas Enterprise Vault はライセンスの調整が必要であることを警告します。Enterprise Vault ライセンスの購入について詳しくは、MyVeritas の Web サイト (<https://my.veritas.com>) を参照してください。

コンテンツプロバイダの取り込み詳細テーブルには、Enterprise Vault ストレージでコンテンツプロバイダが対象としたデータ量を示します。

「表 A-12」では、テーブルの内容について説明します。

表 A-12 コンテンツプロバイダ取り込み詳細テーブル

項目	説明
容量ライセンスコンテンツプロバイダ	<p>項目の合計数および容量の基礎でライセンスを付与されるすべてのコンテンツプロバイダが取り込む TB のサイズ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 各アーカイブの種類のための取り込みの合計を示すために、容量によって認可されるコンテンツプロバイダの行を展開します。 ■ アーカイブの種類と関連付けられる各コンテンツプロバイダの取り込みの合計を示すためにアーカイブタイプの列のエントリを展開します。合計は選択されたアーカイブの種類に関連付けられたコンテンツプロバイダのすべてのインスタンスのためです。 ■ 選択されたコンテンツプロバイダのすべてのインスタンスのコンテンツプロバイダ取り込み履歴レポートを表示するには、コンテンツプロバイダの列のハイパーリンクをクリックしてください。 p.92 の「コンテンツプロバイダは履歴レポートを摄取します」を参照してください。
ユーザーあたりのライセンスコンテンツプロバイダ	<p>項目の合計数およびユーザーあたりの基礎でライセンスを付与されるすべてのコンテンツプロバイダが摄取するTBのサイズ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 各アーカイブの種類のための取り込みの合計を示すために、ユーザーごとに認可されるコンテンツプロバイダの行を展開します。 ■ アーカイブの種類と関連付けられる各コンテンツプロバイダの取り込みの合計を示すためにアーカイブタイプの列のエントリを展開します。合計は選択されたアーカイブの種類に関連付けられたコンテンツプロバイダのすべてのインスタンスのためです。 ■ 選択されたコンテンツプロバイダのすべてのインスタンスのコンテンツプロバイダ取り込み履歴レポートを表示するには、コンテンツプロバイダの列のハイパーリンクをクリックしてください。 p.92 の「コンテンツプロバイダは履歴レポートを摄取します」を参照してください。
合計取り込みデータ	<p>コンテンツプロバイダすべてが Enterprise Vault ストレージを対象としたデータの合計量。</p>

[Domino メールボックスのアーカイブ状態]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、指定した Domino サーバーまたはプロビジョニンググループの各メールボックスのアーカイブ状態が表示されます。

表 A-13 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-13 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
メールボックス	Domino サーバーまたはプロビジョニンググループを選択します。
名前	サーバーまたはプロビジョニンググループを選択します。利用可能なオプションは、[メールボックス]で選択した内容によって異なります。プロビジョニンググループの一覧には、[未指定]を選択するオプションが含まれます。
アーカイブの状態	[すべて]、[有効]、[無効]、または[有効にしない]を選択します。一覧には現在のアーカイブの状態に適用するこれらのオプションのみが表示されます。
列のソート	ソートするレポートの表の列を選択します。
ソートの方向	[昇順]または[降順]を選択して、ソートする列のソート方向を設定します。

表 A-14に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、各メールボックスについて表形式で表示されます。

表 A-14 レポート出力

項目	説明
メールボックス名	情報が表示される Domino ジャーナルの場所の名前。
アーカイブの状態	[有効]、[無効]、[有効にしない]。
メールボックスの種類	ユーザーメールボックスまたはジャーナルメールボックス。
プロビジョニング対象	プロビジョニング対象。
プロビジョニンググループ	プロビジョニンググループを選択した場合のプロビジョニンググループ。
メールボックスサーバー	Domino サーバーを選択した場合のメールボックスサーバー。

表の下にメールボックスの総数が表示されます。

[Domino サーバージャーナールメールボックスアーカイブの健全性]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、メールボックスのパラメータの状態が Enterprise Vault サーバー上の Domino サーバージャーナールメールボックスのアーカイブ対象ごとに表示されます。

メモ: Enterprise Vault の監視を無効にすると、このレポートには処理するデータがなくなります。監視は、Enterprise Vault の設定時または Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーションから有効または無効にできます。

表 A-15 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-15 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ボルトサーバー	Enterprise Vault サーバーを選択します。

表 A-16 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、各 Domino ジャーナールアーカイブについて表示されます。

表 A-16 レポート出力

項目	説明
ジャーナールメールボックスの場所	すべてのメールボックスの総数が示されるジャーナールの場所。
受信トレイの総数	すべての受信トレイ内のアイテムの総数。
アーカイブ保留中	アーカイブ保留中のアイテム数。
アーカイブ可能なアイテム	アーカイブ対象としてマーク付けされた受信トレイ内のアイテム数。
失敗した操作	アーカイブに失敗したアイテム数。

レポートの数値は次のように色分けされます。

黄色 数値が警告しきい値を違反しています。

赤色 数値が危険しきい値を違反しています。

レポートの末尾の表に、現在のパラメータのしきい値が示されます。

[Domino サーバージャーナールメールボックスアーカイブの傾向]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、選択した Domino サーバーについて、指定した期間の[受信トレイの総数]、[アーカイブ保留中]、[アーカイブ可能]、[失敗した操作]の各パラメータ値の傾向が表示されます。

メモ: Enterprise Vault の監視を無効にすると、このレポートには処理するデータがなくなります。監視は、Enterprise Vault の設定時または Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーションから有効または無効にできます。

表 A-17 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-17 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
Domino サーバー	Domino サーバーを選択します。
ジャーナールメールボックスの場所	ジャーナールの場所を選択します。
パラメータ名	<p>[すべて]または次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [受信トレイの総数]。受信トレイ内のアイテムの総数。 ■ [アーカイブ保留中]。アーカイブ保留中のアイテム。 ■ [アーカイブ可能なアイテム]。アーカイブ対象としてマーク付けされた受信トレイ内のアイテム。 ■ [失敗した操作]。失敗した処理数。
期間	[先週]、[週の初め]、[特定日]から選択します。
年、月、日	[期間]パラメータに[週の初め]または[特定日]を選択した場合は、これらのパラメータを使って開始日または日付を指定します。

このレポートには、[パラメータ名]で選択したパラメータについてのグラフが含まれます。[パラメータ名]で[すべて]を選択した場合、このレポートには 4 つのグラフ (各パラメータに 1 つずつ) が含まれます。

各グラフは、指定した期間における選択したパラメータ値の傾向と、危険いきい値、警告いきい値を示します。

[Enterprise Vault サーバーの 24 時間の健全性の状態]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、選択した 24 時間での選択した Enterprise Vault サーバー 上の選択した Enterprise Vault サービスまたは長時間実行タスクの状態が表示されます。

次のサービスとタスクから選択できます。

- インデックスサービス
- ショッピングサービス
- ストレージサービス
- タスク制御サービス
- メールボックスアーカイブタスク
- ジャーナルタスク

メモ: Enterprise Vault の監視を無効にすると、このレポートには処理するデータがなくなります。監視は、Enterprise Vault の設定時または Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーションから有効または無効にできます。

表 A-18 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-18 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト	Enterprise Vault サイトを選択します。
ボルトサーバー	Enterprise Vault サーバーを選択します。
サービスまたはタスク	Enterprise Vault サービスまたは長時間実行タスクを選択します。
年、月、日	対象となるデータの日付を指定します。

このレポートには、選択したサービスまたは選択した日付の期間内の長時間実行タスクの状態を表示するグラフと表が含まれます。

表 A-19 に、グラフと表の両方に表示される情報を示します。

表 A-19 レポート出力

項目	説明
スナップショット時間	スナップショット時間は、Enterprise Vault 監視エージェントのサンプリング時間に対応します。 Enterprise Vault Operations Manager コンポーネントをインストールしている場合は、これらのサンプリング時間を設定できます。
状態	選択したタスクの状態。[実行中]、[一時]、[停止]、[データ利用不可]のいずれかです。

[Enterprise Vault サーバーの 7 日間の健全性の状態]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、選択した 7 日間での指定した Enterprise Vault サーバー上の Enterprise Vault サービスと長時間実行タスクの状態が表示されます。

メモ: Enterprise Vault の監視を無効にすると、このレポートには処理するデータがなくなります。監視は、Enterprise Vault の設定時または Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーションから有効または無効にできます。

表 A-20 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-20 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト	Enterprise Vault サイトを選択します。
ボルトサーバー	Enterprise Vault サーバーを選択します。
週	[先週]または[週の初め]を選択します。
年、月、日	[週]パラメータに[週の初め]を選択した場合は、これらのパラメータを使って開始日を指定します。

生成されたレポートには、次の項目についてのそれぞれの状態グラフが含まれます。

- インデックスサービス
- ショッピングサービス
- ストレージサービス
- タスク制御サービス
- **server_name** のメールボックスアーカイブタスク

■ `server_name` のジャーナルタスク

グラフには、サービスまたはタスクが実行されていた時間、一時停止していた時間、停止されていた時間、またはデータが利用できなかった時間が示されます。

[Exchange メールボックスのアーカイブ状態]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、指定した Microsoft Exchange Server またはプロビジョニンググループの各メールボックスのアーカイブ状態が表示されます。

表 A-21 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-21 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
メールボックス	Exchange Server またはプロビジョニンググループを選択します。
名前	サーバーまたはプロビジョニンググループを選択します。利用可能なオプションは、[メールボックス]で選択した内容によって異なります。プロビジョニンググループの一覧には、[未指定]を選択するオプションが含まれます。
アーカイブの状態	[すべて]、[有効]、[無効]、または[有効にしない]を選択します。一覧には現在のアーカイブの状態に適用するこれらのオプションのみが表示されます。
列のソート	ソートするレポートの表の列を選択します。
ソートの方向	[昇順]または[降順]を選択して、ソートする列のソート方向を設定します。

表 A-22 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、各メールボックスについて表示されます。

表 A-22 レポート出力

項目	説明
Mailbox Name	情報が提供されるメールボックスの名前。
アーカイブの状態	[有効]、[無効]、[有効にしない]。
メールボックスの種類	ユーザーメールボックスまたはジャーナルメールボックス。
プロビジョニング対象	プロビジョニング対象。

項目	説明
プロビジョニンググループ	Exchange Server を選択した場合のメールボックスのプロビジョニンググループ。
メールボックスサーバー	プロビジョニンググループを選択した場合のメールボックスサーバー。

表の下にメールボックスの総数が表示されます。

[Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブの健全性]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、選択した Enterprise Vault サーバーのすべてのボルトストアに存在する Microsoft Exchange ジャーナルメールボックスのアーカイブの現在の状態が表示されます。

メモ: Enterprise Vault の監視を無効にすると、このレポートには処理するデータがなくなります。監視は、Enterprise Vault の設定時または Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーションから有効または無効にできます。

表 A-23 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-23 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ボルトサーバー	Enterprise Vault サーバーを選択します。

レポートには、2 つの表が含まれます。

表 A-24 に、レポートの 1 つ目の表に表示される情報を示します。情報は、Enterprise Vault サーバー上の各 Exchange ジャーナルメールボックスについて表示されます。

表 A-24 レポート出力

項目	説明
ジャーナルメールボックス	ジャーナルメールボックスのアクティブなディレクトリの識別名。
受信トレイの総数	受信トレイ内のアイテムの総数。
アーカイブ保留中	アーカイブ保留中のアイテム数。

項目	説明
アーカイブ可能なアイテム	アーカイブ対象としてマーク付けされた受信トレイ内のアイテム数。
Failed to copy	Exchange ジャーナルメールボックスの[Failed to copy]フォルダ内のアイテム数。
Failed to store	Exchange ジャーナルメールボックスの[Failed to store]フォルダ内のアイテム数。
Failed DL expansion	Exchange ジャーナルメールボックスの[Failed DL expansion]フォルダ内のアイテム数。
Failed external filter	Exchange ジャーナルメールボックスの[Failed external filter]フォルダ内のアイテム数。

2 番目の表は、Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーションがインストールされている場合に、それによって使われる警告状態と危険状態のインジケータの現在のしきい値を示します。

[Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブの傾向]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、選択した日や週での指定した Microsoft Exchange Server のジャーナルメールボックスのアーカイブの傾向が表示されます。

メモ: Enterprise Vault の監視を無効にすると、このレポートには処理するデータがなくなります。監視は、Enterprise Vault の設定時または Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーションから有効または無効にできます。

表 A-25 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-25 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
Exchange Server	Microsoft Exchange Server を選択します。
ジャーナルメールボックス	ジャーナルメールボックスを選択します。

パラメータ	指定内容
パラメータ名	<p>[すべて]または次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [アーカイブ可能なアイテム]。アーカイブ対象としてマーク付けされた受信トレイ内のアイテム。 ■ [アーカイブ保留中]。アーカイブ保留中のアイテム。 ■ [Failed DL expansion]。Exchange ジャーナルメールボックスの [Failed DL expansion] フォルダ内のアイテム数。 ■ [Failed external filter]。Exchange ジャーナルメールボックスの [Failed external filter] フォルダ内のアイテム。 ■ [Failed to copy]。Exchange ジャーナルメールボックスの [Failed to copy] フォルダ内のアイテム。 ■ [Failed to store]。Exchange ジャーナルメールボックスの [Failed to store] フォルダ内のアイテム。 ■ [受信トレイの総数]。受信トレイ内のアイテムの総数。 ■ [期間]。[先週]、[週の初め]、[特定日]を選択します。
年、月、日	[期間]パラメータに[週の初め]または[特定日]を選択した場合は、これらのパラメータを使って開始日または日付を指定します。

生成されたレポートには、選択された日や週での要求されたジャーナルメールボックスのアーカイブパラメータまたはパラメータの値を表示するグラフが含まれます。

Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーションがインストールされている場合、それによって使われる警告状態と危険状態のインジケータの現在のしきい値が、パラメータ値に加えて、各グラフに表示されます。

これらのしきい値は、Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーションがインストールされている場合は、そのアプリケーションから設定できます。

IMAP 使用状況レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、IMAP が有効になっているユーザーの数、アーカイブのデータ量が表示されます。

表 A-26 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-26 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。

表 A-27 に、レポートの IMAP 使用状況の概略表に示される情報を一覧表示します。

表 A-27 レポート出力: IMAP 使用状況の概略

アイテム	説明
アーカイブの種類	IMAP アクセスを有効にすることができる各アーカイブの種類を一覧表示します。
IMAP が有効なアーカイブ	IMAP アクセスが現在有効になっている各種アーカイブの数。
合計	IMAP アクセスが現在有効になっているアーカイブの総数。

表 A-28 に、レポートのインターネットメールアーカイブの詳細テーブルに示される情報を一覧表示します。

表 A-28 レポート出力: インターネットメールアーカイブの詳細

アイテム	説明
アーカイブの総数	インターネットメールアーカイブの総数
アーカイブ済みアイテムの総数	すべてのインターネットメールアーカイブでアーカイブ済みアイテムの総数
アーカイブ済みアイテムの合計サイズ	すべてのインターネットメールアーカイブの合計データ量

[アイテムのアーカイブ率]レポート

Enterprise Vault Reporting のレポートは Enterprise Vault が各指定期間 (時間、日、月、または年) にアーカイブしたアイテムのデータを提供します。データには、アーカイブされたアイテムの数、アイテムのサイズ情報、節約された領域が含まれています。指定のボルトストア、またはサイトのすべてのボルトストアのレポートを生成できます。

Enterprise Vault Reporting は指定する終了日と開始日に UTC 時間を使います。しかしレポートは、Microsoft SQL Server Reporting Services を実行するコンピュータで設定されるタイムゾーンによって決定される現地時間で結果を表示します。たとえば、時間単位の粒度を選択し、2010 年 7 月 11 日という開始日と 2010 年 7 月 12 日という終了日を選択したと仮定します。この場合、Enterprise Vault Reporting は 2010 年 7 月 11 日 12:00 AM (UTC) から 2010 年 7 月 12 日 12:00 AM (UTC) の 24 時間、ボルトストアから概略データを収集します。その後、Enterprise Vault Reporting はその期間の毎時間のデータを示しますが、表示は SSRS コンピュータの現地時間です。

表 A-29 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-29 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ボルトストア	ボルトストアまたは[<すべて>]を選択します。
粒度	[時間単位]、[日単位]、[月単位]、[年単位]から選択します。
開始年、開始月、開始日	<p>データを取得する期間の開始日を指定します。</p> <p>選択できる最も古い開始日は選択した粒度によって次のとおり決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 時間単位:32 日前 ■ 日単位:366 日前 ■ 月単位:5 年前 ■ 年単位:50 年前
終了年、終了月、終了日	データを取得する期間の終了日を指定します。

「表 A-30」に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、指定した期間が時間、日、月、年単位で表示されます。

表 A-30 レポート出力

項目	説明
粒度の初め	この行には、[時間の初め]、[年の初め]など、この時点から開始したサブ期間が示されます。
アーカイブされたアイテム	アーカイブされたアイテムの数。
アーカイブ済みの合計サイズ (MB)	アーカイブ内のアーカイブされたすべてのアイテムの合計圧縮サイズ (MB)。
アーカイブ済みの平均サイズ (MB)	アーカイブ内のアーカイブされたすべてのアイテムの平均圧縮サイズ (MB)。
アーカイブ済みの元の合計サイズ (MB)	アーカイブされたすべてのアイテムの元の合計サイズ (MB)。
アーカイブ済みの元の平均サイズ (MB)。	アーカイブされたすべてのアイテムの元の平均サイズ (MB)。
圧縮によって節約された容量 (MB)	アーカイブ内の圧縮によって確保された領域 (MB)。

項目	説明
圧縮により節約された容量の割合	アーカイブ内の圧縮によって確保された領域の割合。

[アーカイブの移動]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、選択済みの移動状態で、選択した期間に実行されたアーカイブ移動処理の詳細が表示されます。

アーカイブの移動を使ったことがある場合はこのレポートを使うことができます。それ以外の場合はデータは表示されません。

表 A-31 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-31 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
状態	[<すべて>]、[停止]、[実行中]、[失敗]、[正常に完了しました]、または[完了しました (エラーあり)]を選択します。
開始年、開始月、開始日	これらのパラメータを使ってレポートの開始日を指定します。
終了年、終了月、終了日	これらのパラメータを使ってレポートの終了日を指定します。

このレポートには、[アーカイブの移動の概略]と[アーカイブの移動の詳細]の 2 つのセクションがあります。

[アーカイブの移動の概略]には、選択した期間のすべてのアーカイブ移動処理の概略が含まれています。

表 A-32 に、[アーカイブの移動の概略]表に表示される情報を示します。情報は、各移動処理について表示されます。

表 A-32 レポート出力: [アーカイブの移動の概略]のデータ

項目	説明
元のアーカイブ	元のアーカイブの名前。どの名前も、関連付けされた[アーカイブの移動の詳細]表にハイパーリンクされています。
元のボルトストア	元のアーカイブを含むボルトストア。
アーカイブ先	アーカイブ先の名前。
宛先ボルトストア	アーカイブ先を含むボルトストア。
状態	移動処理の状態。

[アーカイブの移動の詳細]には、レポートにあるアーカイブ移動処理ごとに表が含まれています。

このセクションの各表には次の情報が表示されます。

- 元のアーカイブ
- 元のボルトストア
- 元のサイト
- アーカイブ先
- 宛先ボルトストア
- 移動先のサイト
- 開始時刻 - 終了時刻
- 元のアーカイブのアイテム数
- 移動されたアイテム
- 移動に失敗したアイテム
- 元のメールボックス内のショートカットの数
- 更新されたショートカット
- 更新に失敗したショートカット
- 状態

[ファイルの種類ごとの単一インスタンスストレージ削減]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、ボルトストアグループに含まれるファイルの各種類について、Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによって発生したストレージ削減が表示されます。

Enterprise Vault の単一インスタンスストレージについて詳しくは、『インストール/設定』の単一インスタンスストレージの機能に関する説明を参照してください。

表 A-33 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-33 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ボルトストアグループ名	ボルトストアグループを選択します。

生成されたレポートには、[ファイルの種類ごとのストレージ削減]と[参照数を基準にした最も共有されているファイルの種類]という 2 つのセクションが含まれます。

このレポートの[ファイルの種類ごとのストレージ削減]セクションには、1 つのグラフと 1 つの表が表示されます。

- グラフには、Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによって最も多くのストレージ削減が発生している 10 個のファイルの種類が表示されます。横軸は対数軸になっています。
- 表には、最大 25 個のファイルの種類について、Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによって発生するストレージ削減が表示されます。この表では、残りのファイルの種類は[その他]に分類されます。

表 A-34 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、一覧表示されたファイルの各種類について表示されます。

表 A-34 レポート出力: ファイルの種類ごとのストレージ削減の表

アイテム	説明
ファイルの種類	情報が表示されるファイルの種類。
共有可能なパーツの数	ボルトストアに格納されているこのファイルの種類の共有可能なパーツ (SIS パーツ) の数。
共有可能なパーツへの参照数	このファイルの種類の SIS パーツに対して存在する参照の数。 Enterprise Vault は、SIS パーツを格納する前に、対象ボルトストアの共有境界にすでに同一の SIS パーツが格納されているかどうかをチェックします。同一の SIS パーツがすでに格納されている場合、Enterprise Vault は格納された SIS パーツを参照し、再格納は行いません。 参照の数とパーツの数の比率から、保存されたストレージの複製のおおよその量がわかります。
元の合計サイズ (GB)	Enterprise Vault が単一インスタンスストレージを適用し、アーカイブする前のアイテムの合計サイズ。
オンディスクの合計サイズ (GB)	Enterprise Vault がアーカイブしたが、単一インスタンスストレージを適用しなかったアイテムの合計サイズ。
ストレージ削減 (GB)	元の合計サイズから圧縮合計サイズを引いたサイズ (GB)。この値は、このファイルの種類について Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによって発生したストレージ削減を示します。

このレポートの[参照数を基準にした最も共有されているファイルの種類]セクションには、SIS パーツの参照の数が多い順にファイルの種類を順位付けた表が表示されます。

表 A-35 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、一覧表示されたファイルの各種類について表示されます。

表 A-35 レポート出力: 最も共有されているファイルの種類の表

アイテム	説明
ファイルの種類	情報が表示されるファイルの種類。
共有可能なパーツへの参照数	このファイルの種類の SIS パーツに対して存在する参照の数。 Enterprise Vault は、SIS パーツを格納する前に、対象ボルトストアの共有境界にすでに同一の SIS パーツが格納されているかどうかをチェックします。同一の SIS パーツがすでに格納されている場合、Enterprise Vault は格納された SIS パーツを参照し、再格納は行いません。
元の合計サイズ (GB)	Enterprise Vault が単一インスタンスストレージを適用し、アーカイブする前のアイテムの合計サイズ。
オンディスクの合計サイズ (GB)	Enterprise Vault がアーカイブしたが、単一インスタンスストレージを適用しなかったアイテムの合計サイズ。

このレポートの解釈方法について詳しくは、次の Veritas Enterprise サポートサイトのテクニカルノートを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100000980>

[ボルトストアグループごとの単一インスタンスストレージ削減]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、ボルトストアグループの各ボルトストアに Enterprise Vault の単一インスタンスを格納したことによるストレージの削減が表示されます。

Enterprise Vault の単一インスタンスストレージについて詳しくは、『インストール/設定』の単一インスタンスストレージの機能に関する説明を参照してください。

表 A-36 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-36 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ボルトストアグループ名	ボルトストアグループを選択します。

レポート出力には、最大 3 つのセクションが含まれます。各セクションには、特定の共有レベルを持つボルトストアのストレージ削減に関する情報が表示されます。

利用可能な 3 つの共有レベルは次のとおりです。

- グループ内で共有する
- ボルトストア内で共有する

- 共有しない

メモ: グループのボルトストアでこれらの共有レベルのいずれかが使われていない場合、レポートではその共有レベルのセクションが省略されます。

セクションには、概略、グラフ、表などでストレージ削減に関する情報が表示されます。

- 概略には次の情報が表示されます。
 - 指定した共有レベルを持つボルトストアの総数。
 - これらのボルトストアに関連付けられているアイテムの元の合計サイズ。
 - これらのボルトストアにアーカイブされているアイテムの合計格納サイズ。
 - Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによって発生するこれらのボルトストアの合計ストレージ削減。
- グラフには、ストレージ削減の割合によって上位 10 個までのボルトストアが表示されます。
- 表には、ボルトストアグループの各ボルトストアのストレージ削減に関する情報が表示されます。ストレージ削減の割合によってボルトストアが順位付けされます。

表 A-37 に、各ボルトストアについて、レポートの表に表示される情報を示します。

表 A-37 レポート出力: ボルトストアごとのストレージ削減の表

アイテム	説明
ボルトストア名	データが表示される対象ボルトストア。
共有可能なパーツへの参照数	ボルトストアの共有可能パーツ (SIS パーツ) に対して存在する参照の数。 Enterprise Vault は、SIS パーツを格納する前に、対象ボルトストアの共有境界にすでに同一の SIS パーツが格納されているかどうかをチェックします。同一の SIS パーツがすでに格納されている場合、Enterprise Vault は格納された SIS パーツを参照し、再格納は行いません。 参照の数とパーツの数の比率から、保存されたストレージの複製のおおよその量がわかります。
共有可能なパーツの数	対象ボルトストアに関連付けられているアイテムの SIS パーツの数。
オンディスクの合計サイズ (GB)	Enterprise Vault がアーカイブしたが、単一インスタンスストレージを適用しなかったアイテムの合計サイズ。
元の合計サイズ (GB)	Enterprise Vault が単一インスタンスストレージを適用し、アーカイブする前のアイテムの合計サイズ。

アイテム	説明
圧縮後の合計サイズ (GB)	保存セットファイル(.DVS)を除くすべての SIS パーツの合計サイズ。
ストレージ削減 (GB)	元の合計サイズから圧縮合計サイズを引いたサイズ (GB)。この値は、ボルトストアについて Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによって発生したストレージ削減を示します。
ストレージ削減 (%)	元の合計サイズから圧縮合計サイズを引いたサイズ (%)。

このレポートの解釈方法について詳しくは、次の Veritas Enterprise サポートサイトのテクニカルノートを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100000980>

[単一インスタンスストレージ削減の概略]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、サイト全体の各ボルトストアグループについて、Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによって発生したストレージ削減が表示されます。

Enterprise Vault の単一インスタンスストレージについて詳しくは、『インストール/設定』の単一インスタンスストレージの機能に関する説明を参照してください。

表 A-38 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-38 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。

レポート出力には、概略、グラフ、表などでサイトのストレージ削減に関する情報が表示されます。

- 概略には次の情報が表示されます。
 - サイト内のボルトストアグループの総数。
 - サイト内のすべてのボルトストアに関連付けられているアイテムの元の合計サイズ。
 - これらのボルトストアにアーカイブされているアイテムの合計格納サイズ。
 - Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによって発生するこれらのボルトストアの合計ストレージ削減。
- グラフには、ストレージ削減の割合によって上位 10 個までのサイト内のボルトストアグループが表示されます。

- 表には、サイト内の各ボルトストアグループのストレージ削減に関する情報が表示されます。ストレージ削減の割合によってボルトストアグループが順位付けされます。

表 A-39 に、各ボルトストアグループについて、レポートの表に表示される情報を示します。

表 A-39 レポート出力: ボルトストアグループごとのストレージ削減の表

アイテム	説明
ボルトストアグループ名	データが表示されるボルトストアグループ。
共有可能なパーツへの参照数	ボルトストアグループの共有可能なパーツ (SIS パーツ) に対して存在する参照の数。 Enterprise Vault は、SIS パーツを格納する前に、対象ボルトストアの共有境界にすでに同一の SIS パーツが格納されているかどうかをチェックします。同一の SIS パーツがすでに格納されている場合、Enterprise Vault は格納された SIS パーツを参照し、再格納は行いません。 参照の数とパーツの数の比率から、保存されたストレージの複製のおおよその量がわかります。
共有可能なパーツの数	対象ボルトストアグループ内に格納されているアイテムの SIS パーツの数。
オンディスクの合計サイズ (GB)	Enterprise Vault がアーカイブしたが、単一インスタンスストレージを適用しなかったアイテムの合計サイズ。
元の合計サイズ (GB)	Enterprise Vault が単一インスタンスストレージを適用し、アーカイブする前のアイテムの合計サイズ。
圧縮後の合計サイズ (GB)	保存セットファイル (.DVS) を除くすべての SIS パーツの合計サイズ。
ストレージ削減 (GB)	元の合計サイズから圧縮合計サイズを引いたサイズ (GB)。この値は、ボルトストアグループについて Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによって発生したストレージ削減を示します。
ストレージ削減 (%)	元の合計サイズから圧縮合計サイズを引いたサイズ (%)。

このレポートの解釈方法について詳しくは、次の Veritas Enterprise サポートサイトのテクニカルノートを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100000980>

SMTP プロビジョニングレポート

この Enterprise Vault Reporting のレポートは、SMTP プロビジョニンググループの数と、プロビジョニングを使用する SMTP アーカイブが有効になっている Active Directory ユーザーの数を示します。

表 A-40 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-40 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。

表 A-41 に、レポートの[SMTP プロビジョニング設定の概略]の表に示される情報を一覧表示します。

表 A-41 レポート出力: SMTP プロビジョニング設定の概略

項目	説明
SMTP プロビジョニンググループの数	SMTP プロビジョニンググループの合計数。
SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループの数	SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループの数。
SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループの数	SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループの数。
SMTP グループジャーナルが有効になっている Active Directory ユーザー数	SMTP グループジャーナルが有効になっている Active Directory ユーザーの数。
SMTP メールボックスジャーナルが有効になっている Active Directory ユーザー数	SMTP グループジャーナルが有効になっている Active Directory ユーザーの数。

[ボルトストアの保存セット]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、選択した Enterprise Vault サイト内の各ボルトストアの未収集の保存セット数、収集済みの保存セット数、未移行の収集の数、移行済みの収集の数が表示されます。

表 A-42 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-42 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。

表 A-43 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、Enterprise Vault サイト内の各ボルトストアについて表示されます。

表 A-43 レポート出力

項目	説明
ボルトストア名	データが表示されるボルトストア。
未収集の保存セット	未収集の保存セット数。
収集済みの保存セット	収集済みの保存セット数。
未移行のコレクション	未移行の収集の数。
移行済みのコレクション	移行済みの収集の数。

[アーカイブごとのボルトストアの使用状況]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、選択したボルトストア内の各アーカイブのサイズと状態が表示されます。

表 A-44 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-44 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ボルトストア	ボルトストアを選択します。

このレポートには、選択したボルトストア内の各アーカイブについて、情報を一覧表示する表が含まれます。

表 A-45 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、各アーカイブについて表示されます。

表 A-45 レポート出力: 各アーカイブのデータ

項目	説明
アーカイブ名	データが表示されるアーカイブの名前。

項目	説明
課金用アカウント	課金用アカウントの名前。
アイテムの総数	ボルトストア内のアイテムの総数。
合計サイズ (MB)	ボルトストア内のアイテムの合計サイズ。
限度の状態	アーカイブサイズの限度の状態 ([有効]または[無効])。[無効]の場合、サイズの限度はありません。
限度サイズ (MB)	アーカイブサイズの限度。
限度の設定	<p>限度が設定される範囲。次のいずれかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [サイトから]。[サイトプロパティ]からサイズの限度を継承します。 ■ [ボルトストアから]。[ボルトストアプロパティ]からサイズの限度を継承します。 ■ [アーカイブから]。ボルトストアのアーカイブのプロパティでサイズの限度を設定します。
最終更新	アーカイブが最後に更新された日時。
アーカイブの説明	アーカイブの説明 (データベースに格納されたアーカイブのプロパティから取得した場合)。

このレポートには、ボルトストア全体の概略データが表示されます。

表 A-46に、このレポートに表示される概略データを示します。

表 A-46 レポート出力: 概略データ

項目	説明
アイテムの総数	ボルトストア内のアイテムの総数。
利用可能な元のサイズのデータを持つアイテムの総数	元のサイズのデータが利用可能なボルトストア内のアイテムの合計数。このデータは、Enterprise Vault 7.0 以前にアーカイブされたアイテムには利用できません。
アーカイブ済みアイテムの合計サイズ (MB)	すべてのアーカイブ済みアイテムが占めるボルトストア内の領域の合計サイズ。
アーカイブ済みアイテムの平均サイズ (KB)	すべてのアーカイブ済みアイテムが占めるボルトストア内の領域の平均サイズ。
アイテムの元の合計サイズ (MB)	元のサイズのデータが利用可能な、すべてのアーカイブ済みアイテムの元の合計サイズ。([利用可能な元のサイズのデータを持つアイテムの総数]を参照。)

項目	説明
アイテムの元の平均サイズ (KB)	元のサイズのデータが利用可能な、すべてのアーカイブ済みアイテムの元の平均サイズ。

メモ: [課金用アカウントごとのボルトストアの使用状況]レポートまたは[ボルトストアの使用状況の概略]レポートを表示するには、該当するリンクを選択します。

[課金用アカウントごとのボルトストアの使用状況]レポート

この Enterprise Vault Reporting には、選択したボルトストアの課金用アカウント別の使用状況が表示されます。

表 A-47 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-47 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ボルトストア	ボルトストアを選択します。

このレポートには、選択したボルトストアに関連付けされた各課金用アカウントのデータを一覧表示する表が含まれます。

表 A-48 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、各課金用アカウントについて表示されます。

表 A-48 レポート出力: 各課金用アカウントのデータ

項目	説明
課金用アカウント	データが表示される課金用アカウント。
氏名	課金用アカウントの氏名。
アイテムの総数	ボルトストア内のアイテムの総数。
合計サイズ (MB)	ボルトストア内のアイテムの合計サイズ。
アカウントのコメント	アカウントのコメント (Active Directory から取得)。

このレポートには、ボルトストア全体の概略データが表示されます。

表 A-49に、ボルトストアの概略データを示します。

表 A-49 レポート出力: 概略データ

項目	説明
アイテムの総数	ボルトストア内のアイテムの総数。
利用可能な元のサイズのデータを持つアイテムの総数	元のサイズのデータが利用可能なボルトストア内のアイテムの合計数。このデータは、Enterprise Vault 7.0 以前にアーカイブされたアイテムには利用できません。
アーカイブ済みアイテムの合計サイズ (MB)	すべてのアーカイブ済みアイテムが占めるボルトストア内の領域の合計サイズ。
アーカイブ済みアイテムの平均サイズ (KB)	すべてのアーカイブ済みアイテムが占めるボルトストア内の領域の平均サイズ。
アイテムの元の合計サイズ (MB)	元のサイズのデータが利用可能な、すべてのアーカイブ済みアイテムの元の合計サイズ。([利用可能な元のサイズのデータを持つアイテムの総数]を参照。)
アイテムの元の平均サイズ (KB)	元のサイズのデータが利用可能な、すべてのアーカイブ済みアイテムの元の平均サイズ。

メモ: [アーカイブごとのボルトストアの使用状況]レポートまたは[ボルトストアの使用状況の概略]レポートを表示するには、該当するリンクを選択します。

[ボルトストアの使用状況の概略]レポート

この Enterprise Vault Reporting レポートには、選択した Enterprise Vault サイトの各ボルトストアの使用状況が表示されます。

表 A-50 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-50 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。

このレポートには、選択した Enterprise Vault サイト内の各ボルトストアのデータを一覧表示する表が含まれます。

表 A-51 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、各ボルトストアについて表示されます。

表 A-51 レポート出力: 各ボルトストアのデータ

項目	説明
ボルトストア	データが表示されるボルトストアの名前。
アクティブなアーカイブ	ボルトストア内のアクティブなアーカイブ数。
アイテムの総数	ボルトストア内のアイテムの総数。
アーカイブ済みの合計サイズ (MB)	ボルトストア内のアーカイブ済みアイテムの合計サイズ。
バックアップ待ち	まだバックアップされていないアイテム数。
SQL Server	ボルトストアによって使われる SQL Server。

このレポートには、サイトの概略データが表示されます。

表 A-52に、このレポートの下部に表示される概略データを示します。

表 A-52 レポート出力: 概略データ

項目	説明
ボルトストアの総数	ボルトストア数。
アクティブなアーカイブの総数	アクティブなアーカイブの数。
ボルトストア内のアイテムの総数	ボルトストア内のアイテムの総数。
利用可能な元のサイズのデータを持つアイテムの総数	元のサイズのデータが利用可能なボルトストア内のアイテムの合計数。 このデータは、Enterprise Vault 7.0 以前にアーカイブされたアイテムには利用できません。
アーカイブ済みアイテムの合計サイズ (MB)	すべてのアーカイブ済みアイテムが占めるボルトストア内の領域の合計サイズ。
アーカイブ済みアイテムの平均サイズ (KB)	すべてのアーカイブ済みアイテムが占めるボルトストア内の領域の平均サイズ。
アイテムの元の合計サイズ (MB)	元のサイズのデータが利用可能な、すべてのアーカイブ済みアイテムの元の合計サイズ。([利用可能な元のサイズのデータを持つアイテムの総数]を参照。)
アイテムの元の平均サイズ (KB)	元のサイズのデータが利用可能な、すべてのアーカイブ済みアイテムの元の平均サイズ。

メモ: 特定のボルトストアのアーカイブごとのボルトストアの使用状況を示すレポートを表示するには、表のボルトストア名をクリックします。

FSA Reporting のデータ分析レポート

FSA Reporting のデータ分析レポートには、対象ファイルサーバーのアクティブなデータや Enterprise Vault がファイルサーバからアーカイブしたデータに関する情報が表示されます。

次の点に注意してください。

- データ分析レポートを使う前に、Enterprise Vault Reporting と FSA Reporting を設定する必要があります。
- FSA Reporting のデータスキャンを少なくとも 1 回実行しないと、データ分析レポートにデータが表示されません。
- データ分析レポートには、FSA Reporting データコレクションで有効になっているボリュームと物理ドライブのデータと、FSA Reporting がスキャンしたボリュームと物理ドライブのデータのみが表示されます。

表 A-53 に、各データ分析レポートの簡単な説明を示します。

表 A-53 FSA Reporting のデータ分析レポート

データ分析レポート	説明	メモ
次のレポートは、Microsoft SQL Server Reporting Services レポートマネージャの Enterprise Vault Data Analysis Reports フォルダと、Enterprise Vault 管理コンソールの一般的なタスクに一覧表示されます。		
アーカイブポイントの領域使用量の概略	ファイルサーバーボリュームのアーカイブ対象にあるアーカイブポイントの領域使用量情報を簡単に示します。 p.124 の「 [アーカイブポイントの領域使用量の概略]レポート 」を参照してください。	
サーバー上のドライブ領域使用量	指定したファイルサーバーの物理ドライブの使用済み領域と空き領域を示します。 p.126 の「 [サーバー上のドライブ領域使用量]レポート 」を参照してください。	

データ分析レポート	説明	メモ
ドライブの領域使用量の概略	物理ドライブの使用済み領域と空き領域の合計を示します。 p.127 の「 [ドライブの領域使用量の概略]レポート 」を参照してください。	
サーバー上の重複ファイル	指定したファイルサーバーで重複しているファイル数の情報をボリューム単位で示します。 p.128 の「 [サーバー上の重複ファイル]レポート 」を参照してください。	デフォルトでは、FSA Reporting はこのレポートのデータを収集しません。
重複ファイルの概略	ファイルサーバーで重複しているファイルの情報を示します。 p.130 の「 [重複ファイルの概略]レポート 」を参照してください。	デフォルトでは、FSA Reporting はこのレポートのデータを収集しません。
サーバー上のファイルグループの領域使用量	特定のファイルサーバーにおける Enterprise Vault ファイルグループの領域使用量が表示されます。データには、ファイルの元のサイズ、アーカイブ後に使われたファイルサーバーの領域が含まれます。 p.131 の「 [サーバー上のファイルグループの領域使用量]レポート 」を参照してください。	
ファイルグループの領域使用量の概略	各 Enterprise Vault ファイルグループのファイル数とファイルのストレージ領域データが表示されます。データには、ファイルの元のサイズ、アーカイブ後に使われたファイルサーバーの領域が含まれます。 p.134 の「 [ファイルグループの領域使用量の概略]レポート 」を参照してください。	
サーバー上のファイルグループごとの非アクティブなファイル	指定した期間に修正またはアクセスしなかったファイルが使っている領域を示します。ファイルはファイルグループ別に一覧表示されます。 p.136 の「 [サーバー上のファイルグループごとの非アクティブなファイル]レポート 」を参照してください。	

データ分析レポート	説明	メモ
サーバー上のユーザーごとの非アクティブなファイル	<p>指定した期間に修正またはアクセスしなかったファイルが使っている領域を示します。ファイルはユーザー別に一覧表示されます。</p> <p>p.137 の「[サーバー上のユーザーごとの非アクティブなファイル]レポート」を参照してください。</p>	
非アクティブなファイルの概略	<p>選択した期間に修正またはアクセスしなかったファイルが使っている領域を示します。ユーザーまたはファイルグループ別にファイルを一覧表示できます。</p> <p>p.138 の「[非アクティブなファイルの概略]レポート」を参照してください。</p>	
ストレージの概略	<p>各 FSA の対象ごとにアーカイブ済みファイル数に関する情報が表示されます。また、ファイルサーバー上の使用済み領域とアーカイブの結果として確保された領域も示されます。</p> <p>p.140 の「[ストレージの概略]レポート」を参照してください。</p>	
ストレージの傾向	<p>選択したファイルサーバーの FSA アーカイブ対象のストレージ増加傾向に関する情報が表示されます。傾向を示すレポートは、週、月、四半期、年単位で生成できます。</p> <p>p.141 の「[ストレージの傾向]レポート」を参照してください。</p>	SQL Server エージェントサービスを実行する必要があります。
他のレポート内のハイパーリンクから次に挙げる他のレポートを実行できます。		
アーカイブポイント上のファイルの領域使用量	<p>Enterprise Vault ファイルグループ別にファイルの使用量を示します。</p> <p>p.143 の「[アーカイブポイント上のファイルの領域使用量]レポート」を参照してください。</p>	[アーカイブポイントの領域使用量の概略]レポートから利用可能です。

データ分析レポート	説明	メモ
ボリュームごとの最もサイズの大きいファイル	選択したボリュームに含まれる大きいファイルを 100 個一覧表示します。 p.145 の「[ボリュームごとの最もサイズの大きいファイル]レポート」 を参照してください。	[サーバー上のドライブ領域使用量]レポートと[ストレージの概略]レポートから利用できます。
指定したファイルの種類で大きいファイル (ボリュームごと)	選択したボリュームで選択したファイルの種類で大きいファイルを 100 個一覧表示します。 p.145 の「[ボリューム内の特定のファイルの種類で最もサイズが大きいファイル]レポート」 を参照してください。	[サーバー上のファイルグループの領域使用量]レポートと[アーカイブポイント上のファイルの領域使用量]レポートから利用できます。
ボリュームごとの上位重複ファイル	選択したボリュームの大きい重複ファイル 100 個の名前を一覧表示します。 p.146 の「[ボリュームごとの上位重複ファイル]レポート」 を参照してください。	[サーバー上の重複ファイル]レポートから利用できます。 デフォルトでは、FSA Reporting はこのレポートのデータを収集しません。

メモ: パフォーマンスに対する必要条件を満たすため、重複ファイルに関する 3 つのレポートのデータはファイルコレクションサービスによってデフォルトでは収集されません。これらのレポートを使う場合は、データベースの **CheckDuplicates** パラメータの値を変更する必要があります。

[p.75 の「FSA Reporting のデータコレクションパラメータの修正」](#)を参照してください。

[アーカイブポイントの領域使用量の概略]レポート

この FSA Reporting のレポートには、アーカイブポイントの領域使用状況についての情報の概略が示されます。レポートには、ファイルサーバーのアクティブな領域とアーカイブ領域の両方の使用状況についての情報が含まれます。

レポートには、FSA Reporting データコレクション用に設定したファイルサーバーボリュームのアーカイブ対象にあるアーカイブポイントの情報も含まれます。

[表 A-54](#) に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-54 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ドメイン名	ドメインを選択します。

パラメータ	指定内容
表示サイズ	結果の表示に使う単位を選択します。

レポートには、2 つの円グラフと 1 つの表が表示されます。

表 A-55 に、円グラフに表示される情報を示します。

表 A-55 レポート出力: 円グラフのデータ

項目	説明
アクティブな領域の使用量別のアーカイブポイント: 上位 5 つのアーカイブポイント	最も多くのファイルサーバー領域を占める 5 つのアーカイブポイント。
アーカイブ領域の使用量別のアーカイブポイント: 上位 5 つのアーカイブポイント	最も多くのアーカイブ領域を使っている 5 つのアーカイブポイント。

表 A-56 に、表に表示される情報を示します。

表 A-56 レポート出力: 表データ

項目	説明
サーバー名	情報が表示されるサーバー。 特定のサーバーの詳細を表示するには、そのサーバーを展開します。
ボリューム名	サーバーボリュームの詳細を表示するには、[サーバー名]列のサーバーを展開します。 ボリュームのアーカイブポイント情報を表示するには、ボリュームを展開します。
アーカイブポイント	[ボリューム名]列のボリュームを展開すると、ボリュームのアーカイブポイントの詳細が一覧表示されます。 特定のアーカイブポイントの詳細なレポートを表示するには、そのアーカイブポイントの名前をクリックします。 p.143 の「[アーカイブポイント上のファイルの領域使用量]レポート」 を参照してください。
ファイル数	ショートカットを含む、ファイルサーバー上のファイル数。
アーカイブファイル数	Enterprise Vault がアーカイブしたファイル数。

項目	説明
合計サイズ (単位)	Enterprise Vault がファイルをアーカイブしていない場合にファイルサーバーで占有される推定領域。
アクティブなファイル (単位)	アーカイブされていないファイルと、アーカイブされたファイルのショートカットが占める領域。
アーカイブファイル (単位)	アーカイブの結果として確保されたファイルサーバー上の推定総領域。

合計サイズとアーカイブファイルの値は推定であることに注意してください。推定処理はアーカイブファイルがファイルサーバーにないか、またはショートカットがアーカイブファイルを表すことを想定します。ユーザーがファイルサーバーにアーカイブファイルを呼び戻すか、またはアーカイブファイルがファイルサーバーに残る場合、推定値は正確ではありません。次のどちらかに該当する場合、アーカイブファイルはファイルサーバーに残ることがあります。

- アーカイブポリシーがショートカット作成オプション[後でショートカットを作成する]を使う。
- セーフコピーをバックアップまたはレプリケーション後に削除する設定、またはセーフコピーを削除しない設定をボルトストアで行います。

[サーバー上のドライブ領域使用量]レポート

この FSA レポートのレポートには、指定したファイルサーバーの物理ドライブ上の使用領域と空き領域の量が表示されます。

このレポートにファイルサーバーのデータが表示されるのは、FSA レポートのデータコレクションオプション[すべての物理ドライブからもデータを収集]を選択している場合、または H\$ などのように物理共有されている対象ボリュームを追加して、そのボリュームを FSA レポート用に有効にしている場合のみです。

表 A-57 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-57 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ドメイン名	ドメインを選択します。
サーバー名	サーバーを選択します。
ディスク領域使用量の警告しきい値 (%)	警告しきい値を設定できます。しきい値に違反すると、ドライブの使用状況の詳細がレポートの表に赤色で表示されます。

パラメータ	指定内容
表示サイズ	結果の表示に使う単位を選択します。

レポートには、ドライブの領域使用状況がグラフと表の形式で表示されます。

グラフには、FSA レポートによってデータが収集されるサーバー上の各ボリュームで使われているドライブの領域の割合が表示されます。

表 A-58 に、この表に表示される情報を示します。情報は、各ボリュームについて表示されます。

表 A-58 レポート出力: 表データ

項目	説明
ボリューム名	このデータ行が適用されるボリューム。 ボリューム内で最もサイズの大きい 100 個のファイルを一覧表示するレポートを表示するには、ボリュームのリンクをクリックします。 p.145 の「[ボリュームごとの最もサイズの大きいファイル]レポート」を参照してください。
ファイルシステム	ファイルシステム形式。
サイズ (単位)	ボリュームの総領域。
使用済み領域 (単位)	ボリュームで使われている領域。
空きの合計 (単位)	ボリュームの空き領域。
空き (%)	ボリュームの空き領域の割合。

表の赤色のエントリは、ドライブの使用領域が警告しきい値を超えたことを示します。このしきい値は、レポートの[ディスク領域使用量の警告しきい値(%)]入力パラメータで設定された値です。

[ドライブの領域使用量の概略]レポート

この FSA レポートのレポートには、物理ドライブ上の使用領域と空き領域の合計量が表示されます。

このレポートにファイルサーバーのデータが表示されるのは、FSA レポートのデータコレクションオプション[すべての物理ドライブからもデータを収集]を選択している場合、または H\$ などのように物理共有されている対象ボリュームを追加して、そのボリュームを FSA レポート用に有効にしている場合のみです。

表 A-59 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-59 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ドメイン名	ドメインを選択します。
ディスク領域使用量の警告しきい値 (%)	警告しきい値を設定します。しきい値に違反すると、ドライブの使用状況の詳細がレポートの表に赤色で表示されます。
表示サイズ	結果の表示に使う単位を選択します。

表 A-60 に、このレポートの表に表示される情報を示します。情報は、各サーバーについて表示されます。

表 A-60 レポート出力

項目	説明
サーバー名	ファイルサーバーの名前。 サーバーについての詳細なレポートを表示するには、[サーバー名]列のサーバー名をクリックします。 p.126 の「[サーバー上のドライブ領域使用量]レポート」を参照してください。
サイズ (単位)	サーバーのすべてのドライブの合計サイズ。
使用済み領域 (単位)	サーバードライブ上のすべてのドライブで使われている総領域。
空きの合計 (単位)	サーバー上のすべてのドライブの総空き領域。
空き (%)	すべてのドライブの総空き領域の割合。

表の赤色のエントリは、ドライブの使用領域が、レポートの[ディスク領域使用量の警告しきい値 (%)]入力パラメータで設定した警告しきい値を超えたことを示します。

[サーバー上の重複ファイル]レポート

この FSA レポートのレポートには、指定したファイルサーバー上にあるボリュームごとの重複ファイルの数に関する情報が表示されます。このレポートでは、ファイル名、ファイルサイズ、所有者に基づき重複が識別されます。

メモ: パフォーマンスに対する必要条件を満たすため、重複ファイルに関する 3 つのレポートのデータはファイルコレクションサービスによってデフォルトでは収集されません。これらのレポートを使う場合は、データベースの **CheckDuplicates** パラメータの値を変更する必要があります。

p.75 の「[FSA Reporting のデータコレクションパラメータの修正](#)」を参照してください。

表 A-61 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-61 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ドメイン名	ドメインを選択します。
サーバー名	サーバーを選択します。
表示サイズ	結果の表示に使う単位を選択します。

レポートには、2 つの円グラフと 1 つの表が表示されます。

表 A-62 に、円グラフに表示される情報を示します。

表 A-62 レポート出力: 円グラフのデータ

項目	説明
ファイル数別の重複ファイル: 上位 5 ボリューム	このサーバーで最も多くの重複ファイルがある 5 つのボリューム。
ファイルサイズ別の重複ファイル: 上位 5 ボリューム	このサーバーで重複によって最も多くの領域を消費している 5 つのボリューム。

表 A-63 に、この表に表示される情報を示します。情報は、重複ファイルを含む各ボリュームについて表示されます。

表 A-63 レポート出力: 表データ

項目	説明
ボリューム	<p>情報が表示されるボリューム。</p> <p>ボリューム内で最もサイズの大い重複ファイルの名前に関するレポートを表示するには、ボリュームのハイパーリンクをクリックします。</p> <p>p.146 の「[ボリュームごとの上位重複ファイル]レポート」を参照してください。</p>

項目	説明
ファイル数	ボリューム上のファイルの数。
重複ファイル数	重複しているファイルの数。たとえば、10 個のファイルから構成される同一のファイルセットが 5 つある場合、重複したファイルの数は 50 になります。
使用済み領域 (単位)	すべてのファイルが占める領域。
重複サイズ (単位)	重複ファイルが占める領域。
無駄な領域 (単位)	重複がある追加コピーが占める余分な領域。たとえば、10 個のファイルから構成される同一のファイルセットが 5 つある場合、[重複サイズ (MB)] の 5 分の 4 は余分な領域になります。

[重複ファイルの概略]レポート

この FSA レポートのレポートには、ファイルサーバーごとに重複ファイルに関する情報が表示されます。このレポートでは、ファイル名、ファイルサイズ、所有者に基づき重複が識別されます。

メモ: パフォーマンスに対する必要条件を満たすため、重複ファイルに関する 3 つのレポートのデータはファイルコレクションサービスによってデフォルトでは収集されません。これらのレポートを使う場合は、データベースの **CheckDuplicates** パラメータの値を変更する必要があります。

p.75 の「[FSA Reporting のデータコレクションパラメータの修正](#)」を参照してください。

表 A-64 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-64 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ドメイン名	ドメインを選択します。
表示サイズ	結果の表示に使う単位を選択します。

表 A-65 に、円グラフに表示される情報を示します。

表 A-65 レポート出力: 円グラフのデータ

項目	説明
ファイル数別の重複ファイル: 上位 5 サーバー	最も多くの重複がある 5 つのサーバー。
ファイルサイズ別の重複ファイル: 上位 5 サーバー	重複によって最も多くのディスク領域を消費している 5 つのサーバー。

表 A-66 に、この表に表示される情報を示します。情報は、各サーバーについて表示されます。

表 A-66 レポート出力: 表データ

項目	説明
サーバー名	データが表示されるサーバー。 特定のサーバーに対する重複したファイルの詳細レポートを表示するには、そのサーバーのリンクをクリックします。[サーバーごとの重複ファイル]レポートが表示されます。 p.128 の「[サーバー上の重複ファイル]レポート」 を参照してください。
ファイル数	ユーザーが所有するファイル数。
使用済み領域 (単位)	ユーザーのファイルが占める領域。
重複ファイル数	重複しているファイルの数。たとえば、10 個のファイルから構成される同一のファイルセットが 5 つある場合、重複したファイルの数は 50 になります。
重複サイズ (単位)	重複ファイルが占める領域。
無駄な領域 (単位)	重複がある追加コピーが占める余分な領域。たとえば、10 個のファイルから構成される同一のファイルセットが 5 つある場合、[重複サイズ (MB)] の 5 分の 4 は余分な領域になります。

[サーバー上のファイルグループの領域使用量]レポート

この FSA Reporting のレポートには、特定のファイルサーバーにおける Enterprise Vault ファイルグループの領域の使用状況が表示されます。データには、ファイルの元のサイズ、アーカイブ後に確保されるファイルサーバーの推定領域が含まれます。

表 A-67 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-67 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ドメイン名	ドメインを選択します。
サーバー名	サーバーを選択します。
表示サイズ	結果の表示に使う単位を選択します。

レポートには、2 つの円グラフと 1 つの表が表示されます。

表 A-68 に、円グラフに表示される情報を示します。

表 A-68 レポート出力: 円グラフのデータ

項目	説明
ファイルグループ別のアクティブな領域の使用量	各ファイルグループが占めるファイルサーバー領域。
ファイルグループ別のアーカイブ領域の使用量	各ファイルグループが占めるアーカイブ領域。

表 A-69 に、この表に表示される情報を示します。情報は、各ファイルグループの領域の使用状況の内訳に関するものです。

表 A-69 レポート出力: 表データ

項目	説明
ファイルグループ	ファイルグループの名前。 ファイルグループの詳細をボリューム別に表示するには、ファイルグループを展開します。
ボリューム	[ファイルグループ]列のファイルグループを展開するとボリュームの詳細が表示されます。個々のファイルの種類の詳細を表示するには、ボリュームを展開します。

項目	説明
ファイルの種類	<p>[ボリューム]列のボリュームを展開すると、ファイルの種類の詳細が表示されます。</p> <p>レポートには、どのファイルグループにも存在しないすべてのファイルの種類の結合データが含まれます。この結合データを表示するには、[ファイルグループ]列の[その他]を展開して[misc]というファイルの種類の詳細を表示します。</p> <p>p.78 の「FSA レポートのレポートにある特定のファイルの種類のデータの取得」を参照してください。</p> <p>ボリューム内のファイルの種類で最もサイズの大きいファイルを 100 個表示するには、ファイルの種類のリンクをクリックします。</p> <p>p.145 の「[ボリューム内の特定のファイルの種類で最もサイズが大きいファイル]レポート」を参照してください。</p>
ファイル数	<p>ショートカットを含む、サーバー上のこのファイルグループのファイル数。</p> <p>この列が次のとおり、プレースホルダとインターネットショートカットを異なる方式で記録することに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プレースホルダは元のファイルのファイルグループに一覧表示されます。 ■ インターネットショートカットはインターネットファイルとして一覧表示されます。
アーカイブファイル数	アーカイブされたこのファイルグループのファイル数。
元のサイズ (単位)	Enterprise Vault がファイルをアーカイブしていない場合にファイルサーバーで占有される推定領域。
ファイルサーバーの使用領域 (単位)	アーカイブされていないファイルと、アーカイブされたファイルのショートカットが占めるファイルサーバー上の領域。
節約された領域 (単位)	アーカイブの結果として確保されたファイルサーバー上の推定総領域。

「ファイルグループ別のアクティブな領域の使用量」グラフと[ファイル数]列は、プレースホルダとインターネットショートカットを次のとおり分類することに注意してください。

- プレースホルダは元のファイルのファイルグループに属すると分類されます。
- インターネットショートカットはインターネットファイルとして分類されます。

元のサイズと節約された領域の値は推定であることに注意してください。推定処理はアーカイブファイルがファイルサーバーにないか、またはショートカットがアーカイブファイルを表すことを想定します。ユーザーがファイルサーバーにアーカイブファイルを呼び戻すか、またはアーカイブファイルがファイルサーバーに残る場合、推定値は正確ではないです。次のどちらかに該当する場合、アーカイブファイルはファイルサーバーに残ることがあります。

- アーカイブポリシーがショートカット作成オプション[後でショートカットを作成する]を使う。
- セーフコピーをバックアップまたはレプリケーション後に削除する設定、またはセーフコピーを削除しない設定をボルトストアで行います。

[ファイルグループの領域使用量の概略]レポート

この FSA Reporting のレポートには、各 Enterprise Vault ファイルグループのファイル数とストレージ領域データが表示されます。データには、ファイルの元のサイズ、アーカイブ後に使われたファイルサーバーの領域が含まれます。

表 A-70 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-70 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ドメイン名	ドメイン名を選択します。
表示サイズ	結果の表示に使う単位を選択します。

レポートには、2 つの円グラフと 1 つの表が表示されます。

表 A-71 に、円グラフに表示される情報を示します。

表 A-71 レポート出力: 円グラフのデータ

項目	説明
ファイルグループ別のアクティブな領域の使用量	各ファイルグループが占めるファイルサーバー領域。
ファイルグループ別のアーカイブ領域の使用量	各ファイルグループが占めるアーカイブ領域。

表 A-72 に、この表に表示される情報を示します。情報は、各ファイルグループの領域の使用状況に関するものです。

表 A-72 レポート出力: 表データ

項目	説明
ファイルグループ	ファイルグループの名前。 ファイルグループの詳細をサーバー別に表示するには、ファイルグループを展開します。

項目	説明
Server	<p>[ファイルグループ]列のファイルグループを展開するとサーバーの詳細が表示されます。</p> <p>特定のサーバーの詳細を示すレポートを表示するには、そのサーバーのハイパーリンクをクリックします。</p> <p>p.131 の「[サーバー上のファイルグループの領域使用量]レポート」を参照してください。</p> <p>個々のファイルの種類の詳細を表示するには、サーバーを展開します。</p>
ファイルの種類	<p>[サーバー]列のサーバーを展開すると、ファイルの種類の詳細が表示されます。</p> <p>レポートには、どのファイルグループにも存在しないすべてのファイルの種類の結合データが含まれます。この結合データを表示するには、[ファイルグループ]列の[その他]を展開して[misc]というファイルの種類の詳細を表示します。</p> <p>p.78 の「FSA レポートのレポートにある特定のファイルの種類のデータの取得」を参照してください。</p>
ファイル数	ショートカットを含む、このサーバー上のファイル数。
アーカイブファイル数	アーカイブされたファイルの数。
元のサイズ (単位)	Enterprise Vault がファイルをアーカイブしていない場合にファイルサーバーで占有される推定領域。
ファイルサーバーの使用領域 (単位)	アーカイブされていないファイルと、アーカイブされたファイルのショートカットが占めるファイルサーバー上の領域。
節約された領域 (単位)	アーカイブの結果として確保されたファイルサーバー上の推定総領域。

「ファイルグループ別のアクティブな領域の使用量」グラフと[ファイル数]列は、プレースホルダとインターネットショートカットを次のとおり分類することに注意してください。

- プレースホルダは元のファイルのファイルグループに属すると分類されます。
- インターネットショートカットはインターネットファイルとして分類されます。

元のサイズと節約された領域の値は推定であることに注意してください。推定処理はアーカイブファイルがファイルサーバーにないか、またはショートカットがアーカイブファイルを表すことを想定します。ユーザーがファイルサーバーにアーカイブファイルを呼び戻すか、またはアーカイブファイルがファイルサーバーに残る場合、推定値は正確ではないです。次のどちらかに該当する場合、アーカイブファイルはファイルサーバーに残ることがあります。

- アーカイブポリシーがショートカット作成オプション[後でショートカットを作成する]を使う。

- セーフコピーをバックアップまたはレプリケーション後に削除する設定、またはセーフコピーを削除しない設定をボルトストアで行います。

[サーバー上のファイルグループごとの非アクティブなファイル]レポート

この FSA レポートのレポートには、特定の期間内に修正またはアクセスされなかったファイルによって使われた領域が表示されます。ファイルはファイルグループ別に一覧表示されます。

表 A-73 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-73 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ドメイン名	ドメインを選択します。
サーバー名	サーバーを選択します。
概略の基準	[間隔 (日)] で指定した期間に [以前に作成済み]、[未アクセスの期間]、[未修正の期間] のファイルのレポートを表示するかどうかを選択します。
間隔 (日)	[概略の基準] パラメータ用の期間を選択します。
表示サイズ	結果の表示に使う単位を選択します。

このレポートには、1 つのグラフと 1 つの表が表示されます。

グラフには、各ファイルグループで使われている領域が表示されます。

表には、各ファイルグループの領域の使用状況の内訳が詳細に表示されます。

表 A-74 に、この表に表示される情報を示します。情報は、各ファイルグループについて表示されます。

表 A-74 レポート出力: 表データ

項目	説明
ファイルグループ	非アクティブなファイルを含むファイルグループの名前。 ファイルグループの詳細をボリューム別に表示するには、ファイルグループを展開します。
ボリューム名	[ファイルグループ] 列のファイルグループを展開するとボリュームの詳細が表示されます。個々のファイルの種類の詳細を表示するには、ボリュームを展開します。

項目	説明
ファイルの種類	<p>[ボリューム名]列のボリュームを展開すると、ファイルの種類の詳細が表示されます。</p> <p>レポートには、どのファイルグループにも存在しないすべてのファイルの種類の結合データが含まれます。この結合データを表示するには、[ファイルグループ]列の[その他]を展開して[misc]というファイルの種類の詳細を表示します。</p> <p>p.78 の「FSA レポートのレポートにある特定のファイルの種類のデータの取得」を参照してください。</p>
ファイル数	非アクティブなファイルの数。
使用済み領域 (単位)	非アクティブなファイルが占めるファイルサーバー上の領域。
使用領域の割合	すべての非アクティブなファイルが占めるボリューム上の領域の合計に対する、非アクティブなファイルの種類別の領域の割合。

このレポートが次のとおり、プレースホルダとインターネットショートカットを異なる方式で分類することに注意してください。

- プレースホルダは元のファイルのファイルグループに属すると分類されます。
- インターネットショートカットはインターネットファイルとして分類されます。

[サーバー上のユーザーごとの非アクティブなファイル]レポート

この FSA レポートのレポートには、特定の期間内に修正またはアクセスされなかったファイルによって使われた領域が表示されます。ファイルはユーザー別に一覧表示されます。

[表 A-75](#) に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-75 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ドメイン名	ドメインを選択します。
サーバー名	サーバーの名前。
概略の基準	[間隔 (日)]で指定した期間に[以前に作成済み]、[未アクセスの期間]、[未修正の期間]のファイルのレポートを表示するかどうかを選択します。
間隔 (日)	[概略の基準]用の期間を選択します。
表示サイズ	結果の表示に使う単位を選択します。

レポートには、1 つのグラフと 1 つの表が表示されます。

グラフには、非アクティブなファイルを持つ各ユーザーによって使われている領域が表示されます。

表には、非アクティブなファイルを持つ各ユーザーの領域の使用状況の内訳が詳細に表示されます。

表 A-76 に、この表に表示される情報を示します。情報は、各ユーザーについて表示されます。

表 A-76 レポート出力: 表データ

項目	説明
ユーザー名	非アクティブなファイルを持つユーザーの名前。 ユーザーの詳細をボリューム別に表示するには、ユーザーを展開します。
ボリューム名	[ユーザー名]列のユーザーを展開するとボリュームの詳細が表示されます。
ファイル数	非アクティブなファイルの数。
使用済み領域 (単位)	非アクティブなファイルが占めるファイルサーバー上の領域。
使用領域の割合	すべての非アクティブなファイルが占めるボリューム上の領域の合計に対する、非アクティブなファイルの種類別の領域の割合。

[非アクティブなファイルの概略]レポート

この FSA レポートのレポートには、選択した期間内に修正またはアクセスされなかったファイルによって使われた領域が表示されます。ユーザー別またはファイルグループ別にファイルを表示できます。

表 A-77 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-77 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ドメイン名	ドメインを選択します。
概略の基準	[間隔 (日)]で指定した期間に[以前に作成済み]、[未アクセスの期間]、[未修正の期間]のファイルのレポートを表示するかどうかを選択します。
間隔 (日)	[概略の基準]用の期間を選択します。

パラメータ	指定内容
グループ別	データをユーザー別またはファイルグループ別のどちらで表示するかを選択します。
表示サイズ	結果の表示に使う単位を選択します。

レポート出力には、1 つの円グラフと 1 つの表が表示されます。

円グラフでは、選択したアクセスの種類に応じて、ファイルグループ別またはユーザー別に領域の使用状況が表示されます。

表 A-78 に、この表に表示される情報を示します。情報は、選択した基準について表示されます。

表 A-78 レポート出力: 表データ

項目	説明
[ファイルグループ] または [ユーザー名]	選択した [グループ別] パラメータに応じて、非アクティブなファイルを持つファイルグループまたはユーザーの名前。 詳細をサーバー別に表示するには、この列のエントリを展開します。
サーバー名	非アクティブなファイルを含むサーバーの名前。詳細をボリューム別に表示するには、サーバーを展開します。特定のサーバーに対する非アクティブなファイルの詳細レポートを実行するには、サーバー名をクリックします。 p.136 の「[サーバー上のファイルグループごとの非アクティブなファイル] レポート」 を参照してください。
ボリューム	[サーバー名] 列のサーバーを展開するとボリューム別に詳細が表示されます。
ファイル数	非アクティブなファイルの数。
使用済み領域 (単位)	非アクティブなファイルが占めるファイルサーバー上の領域。
使用領域の割合	すべての非アクティブなファイルが占めるボリューム上の領域の合計に対する、非アクティブなファイルの種類別の領域の割合。

このレポートが次のとおり、プレースホルダとインターネットショートカットを異なる方式で分類することに注意してください。

- プレースホルダは元のファイルのファイルグループに属すると分類されます。
- インターネットショートカットはインターネットファイルとして分類されます。

[ストレージの概略]レポート

この FSA Reporting のレポートには、各 FSA の対象ごとにアーカイブ済みファイル数に関する情報が表示されます。また、ファイルサーバー上の使用済み領域とアーカイブの結果として確保された領域も示されます。

表 A-79 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-79 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ドメイン名	ドメインを選択します。
表示サイズ	結果の表示に使う単位を選択します。

レポート出力には、2 つの円グラフと 1 つの表が表示されます。

表 A-80 に、円グラフに表示される情報を示します。

表 A-80 レポート出力: 円グラフのデータ

項目	説明
アクティブな領域の使用量別のボリューム: 上位 5 ボリューム	使用領域が最も多い 5 つのボリューム。
アーカイブ領域の使用量別のボリューム: 上位 5 ボリューム	アーカイブ領域が最も多い 5 つのボリューム。

表 A-81 に、FSA Reporting がデータを収集する各サーバーについての情報を表示します。

表 A-81 レポート出力: 表データ

項目	説明
サーバー名	サーバー名。 詳細をボリューム別に表示するには、サーバー名を展開します。

項目	説明
ボリューム名	ボリューム名。 ボリューム名をクリックすると、ボリューム内で最もサイズの大きい 100 個のファイルを一覧表示するレポートが表示されます。 p.145 の「[ボリュームごとの最もサイズの大きいファイル]レポート」を参照してください。
File System	ファイルシステム形式 (NTFS など)。
アーカイブファイル数	アーカイブされるファイルの数。
元のストレージ領域 (単位)	Enterprise Vault がファイルをアーカイブしていない場合にファイルサーバーで占有される推定領域。
アーカイブ後のストレージ領域 (単位)	アーカイブされていないファイルと、アーカイブされたファイルのショートカットが占めるファイルサーバー上の領域。
節約された領域 (単位)	アーカイブの結果として確保されたファイルサーバー上の推定総領域。

元のストレージ領域と節約された領域の値は推定であることに注意してください。推定処理はアーカイブファイルがファイルサーバーにないか、またはショートカットがアーカイブファイルを表すことを想定します。ユーザーがファイルサーバーにアーカイブファイルを呼び戻すか、またはアーカイブファイルがファイルサーバーに残る場合、推定値は正確ではないです。次のどちらかに該当する場合、アーカイブファイルはファイルサーバーに残ることがあります。

- アーカイブポリシーがショートカット作成オプション[後でショートカットを作成する]を使う。
- セーフコピーをバックアップまたはレプリケーション後に削除する設定、またはセーフコピーを削除しない設定をボルトストアで行います。

[ストレージの傾向]レポート

この FSA Reporting のレポートには、選択したファイルサーバー上の FSA アーカイブ対象のストレージ増加傾向に関する情報が表示されます。傾向を示すレポートは、週、月、四半期、年単位で生成できます。

メモ: このレポートにデータを含めるには、SQL Server エージェントサービスが実行されている必要があります。

レポートが示す傾向は、以下のとおりです。

- アクティブなディスクストレージサイズ (ファイルサーバー上のストレージ)

■ Enterprise Vault のアーカイブストレージサイズ

これらのレポートの傾向データを使って、ファイルサーバー上とボルトストア内の両方で、いつストレージ容量が超過するかを予測することができます

ファイルサーバーのすべての物理ドライブをスキャンするように FSA Reporting を設定した場合、レポートには物理ドライブのデータが含まれます。

Enterprise Vault がボリュームをアーカイブしていない場合、レポートには、ファイルサーバーのディスクストレージに関する傾向情報のみが含まれます。

表 A-82 に、このレポートに指定するパラメータを示します。

表 A-82 レポートの入力パラメータ

パラメータ	指定内容
サイト名	Enterprise Vault サイトを選択します。
ドメイン名	ドメインを選択します。
サーバー名	サーバーを選択します。
期間	使用するデータ期間を選択します。たとえば、月ごとを選択すると、サイズの変化が月単位で示されます。 週単位の場合、レポートの最大期間は 12 カ月です。 メモ: 週単位を選択していても、対象に対する FSA Reporting のデータコレクション間隔が月単位に設定されている場合、レポートには、スキャンが行われた週に対するデータポイントのみが月ごとに表示されます
開始年	レポート期間の開始年を選択します。
開始月	レポート期間の開始月を選択します。
終了年	レポート期間の終了年を選択します。
終了月	レポート期間の終了月を選択します。
表示サイズ	ストレージデータサイズを表示する単位を選択します。

レポートには、ストレージの傾向がグラフとして表示され、レポート期間に対する表がアーカイブ対象ごとに示されます。

表 A-83 に、各アーカイブ対象の傾向について、グラフと表の両方に表示される情報を示します。

表 A-83 レポート出力: 傾向データ

項目	説明
ディスク上のサイズ	ファイルサーバーのディスクストレージサイズ (選択した単位で表示)。
アーカイブ内のサイズ (単位)	Enterprise Vault のアーカイブストレージサイズ (選択した単位で表示)。 メモ: [アーカイブ内のサイズ] 値は、Enterprise Vault 8.0 以降からアーカイブするアイテムのみを反映しています。アーカイブ済みアイテムのサイズは、Enterprise Vault 8.0 より前では記録されませんでした。 このデータは、Enterprise Vault 単一インスタンスストレージによるストレージ削減を考慮しません。「単一インスタンスストレージ削減」処理レポートには、Enterprise Vault アーカイブで占有される実際の領域の情報が含まれます。
組み合わせられたストレージ	ファイルサーバーとアーカイブストレージの領域を組み合わせたもの (選択した単位で表示)。

表 A-84 に、レポートの表の下 2 行に表示される平均データを示します。

表 A-84 レポート出力: 平均データ

項目	説明
週、月、四半期、年単位 の平均	レポート期間を通しての平均サイズ。
週、月、四半期、年単位 の平均増分	レポート期間を通してのサイズの平均増分。

[アーカイブポイント上のファイルの領域使用量]レポート

この FSA Reporting のレポートには、アーカイブポイントのファイル数とストレージ領域情報が Enterprise Vault のファイルグループごとに表示されます。

このレポートを表示するには、[アーカイブポイントの領域使用量の概略]レポート内からそのアーカイブポイントに対するハイパーリンクをクリックします。

p.124 の「[\[アーカイブポイントの領域使用量の概略\]レポート](#)」を参照してください。

レポート出力には、2 つの円グラフと 1 つの表が表示されます。

表 A-85に、円グラフに表示される情報を示します。

表 A-85 レポート出力: 円グラフのデータ

項目	説明
ファイルグループ別のアクティブな領域の使用量	各ファイルグループが占めるボリューム上の領域。
ファイルグループ別のアーカイブ領域の使用量	各ファイルグループが占めるアーカイブ領域。

表 A-86 に、この表に表示される情報を示します。情報は、FSA Reporting によってデータが収集される各サーバーについて表示されます。

表 A-86 レポート出力: 表データ

項目	説明
ファイルグループ	Enterprise Vault ファイルグループ ファイルグループを展開すると、そのファイルグループ内の個々のファイルの種類に対する詳細が表示されます。
ファイルの種類	[ファイルグループ]列のファイルグループを展開するとファイルの詳細が表示されます。 レポートには、どのファイルグループにも存在しないすべてのファイルの種類の結合データが含まれます。この結合データを表示するには、[ファイルグループ]列の[その他]を展開して[misc]というファイルの種類の詳細を表示します。 p.78 の「 FSA レポートのレポートにある特定のファイルの種類のデータの取得 」を参照してください。 ファイルの種類をクリックすると、ボリューム内のそのファイルの種類で最もサイズの大きいファイルのレポートが実行されます。 p.145 の「 [ボリューム内の特定のファイルの種類で最もサイズが大きいファイル]レポート 」を参照してください。
ファイルの合計数	アーカイブされたファイルを含むファイルの総数。
領域の合計 (単位)	アーカイブされていないファイルと、選択したファイルグループのアーカイブ済みファイルのショートカットが占めるファイルサーバーの領域。
アーカイブファイル	アーカイブされたファイルの数。
アーカイブ済みのサイズ (単位)	アーカイブの結果として確保されたボリュームまたはファイルサーバー上の推定総領域。

アーカイブ済みのサイズの値が推定であることに注意してください。推定処理はアーカイブファイルがファイルサーバーにないか、またはショートカットがアーカイブファイルを表

すことを想定します。ユーザーがファイルサーバーにアーカイブファイルと呼び戻すか、またはアーカイブファイルがファイルサーバーに残る場合、推定値は正確ではないです。次のどちらかに該当する場合、アーカイブファイルはファイルサーバーに残ることがあります。

- アーカイブポリシーがショートカット作成オプション[後でショートカットを作成する]を使う。
- セーフコピーをバックアップまたはレプリケーション後に削除する設定、またはセーフコピーを削除しない設定をボルトストアで行います。

[ボリュームごとの最もサイズの大きいファイル]レポート

この FSA レポートのレポートには、ボリューム内で最もサイズの大きい 100 個のファイルが表示されます。

このレポートを表示するには、次のいずれかのレポートの表で[ボリューム名]列のハイパーリンクをクリックします。

- サーバー上のドライブ領域使用量
- ストレージの概略

表 A-87 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、各ファイルについて表示されます。

表 A-87 レポート出力

項目	説明
ファイルのパス	ファイルの絶対パス。
サイズ (単位)	ファイルのサイズ。
作成時刻	ファイルが作成された日時。
最終アクセス	ファイルが最後にアクセスされた日時。
最終更新	ファイルが最後に修正された日時。

[ボリューム内の特定のファイルの種類で最もサイズが大きいファイル]レポート

この FSA レポートのレポートには、ボリューム内の指定したファイルの種類で最もサイズの大きい 100 個のファイルが表示されます。

このレポートを表示するには、次のいずれかのレポートの表で[ファイルの種類]列のハイパーリンクをクリックします。

- サーバー上のファイルグループの領域使用量

■ アーカイブポイント上のファイルの領域使用量

レポートの表には、記載されている基準を満たす最大 100 個のファイルがサイズ順に一覧表示されます。

表 A-88 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、各ファイルについて表示されます。

表 A-88 レポート出力

項目	説明
ファイルのパス	ファイルの絶対パス。
サイズ (単位)	ファイルのサイズ。
作成時刻	ファイルが作成された日時。
最終アクセス	ファイルが最後にアクセスされた日時。
最終更新	ファイルが最後に修正された日時。

[ボリュームごとの上位重複ファイル]レポート

この FSA Reporting のレポートには、ボリューム内の重複ファイルで最もサイズの大きい 100 個のファイルの名前が一覧表示されます。

このレポートを表示するには、[サーバー上の重複ファイル]レポートの表で、[ボリューム]列の必要なボリュームに対するハイパーリンクをクリックします

メモ: パフォーマンスに対する必要条件を満たすため、重複ファイルに関する 3 つのレポートのデータはファイルコレクションサービスによってデフォルトでは収集されません。これらのレポートを使う場合は、データベースの **CheckDuplicates** パラメータの値を変更する必要があります。

p.75 の「[FSA Reporting のデータコレクションパラメータの修正](#)」を参照してください。

メモ: このレポートには、重複ファイルのファイル名のみが表示され、絶対パスは表示されません。

レポートの表には、最大 100 個の重複ファイルが一覧表示されます。

表 A-89 に、このレポートに表示される情報を示します。情報は、各ファイルについて表示されます。

表 A-89 レポート出力

項目	説明
ファイル名	ファイルの名称。
ファイルサイズ (単位)	ファイルのサイズ。
インスタンス数	ファイルのコピーの数。
合計サイズ (単位)	ファイルのすべてのインスタンスの合計サイズ。